

科目名	解剖学 I		担当教員	五十嵐 広明	
学科	理学療法学科		学年	1 学年	
学期	前期	必修 / 選択	必修	授業形態	講義
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	<p>人体は、200 個ほどの骨からなる骨格系、その骨に付着して骨を動かす筋系、胃や腸を造りあげる消化器系など、合計 10 の系統で造られています。この人体の造り（構造）を学ぶのが解剖学です。解剖学はこの後に学ぶ生理学などの科目の入り口となる重要な学問であり、解剖学 I では 10 系統の内、骨格系と筋系および循環器系の構造を学習します。筋の起始・停止・走行などは、「解剖学カラーリングテキスト」を講義中に活用し、その都度塗り絵をするアクティブラーニングを導入して筋学を習得します。</p>
到達目標	<p>① 骨を形状により分類し、骨の連結の種類について述べ、関節について説明することが出来る。</p> <p>② 骨の名称を列挙し、各々の骨に付着する筋の起始・停止部位を説明できる。</p> <p>③ 人体各部に分布する筋をグループごとに列挙し、それらの筋の作用・神経支配を説明できる。</p> <p>④ 軟骨組織、骨組織、筋組織の構造を説明できる。</p> <p>⑤ 血管系、リンパ管系およびリンパ様（性）器官（リンパ節、脾臓、胸腺）の構造を説明できる。</p>

No.	テーマ		内容
1	解剖学総論 組織学総論 1	授業内容	解剖学とは、人体の構成、人体の区分と方向、軟骨組織
		予習	教科書 1 章 II 人体の概要と解剖学用語、III 人体の構成に目を通して下さい。
		復習	配布プリント(以下資料)の「解剖学総論」と「軟骨組織」を精読して下さい。
2	組織学総論 2	授業内容	軟骨組織、骨組織、骨形成、骨の改築
		予習	教科書の 1 章 III 人体の構成の B 組織に目を通して下さい。
		復習	資料の「軟骨組織」と「骨組織」を精読して下さい。
3	骨格系 1	授業内容	骨格系総論：骨、関節の構造と分類
		予習	教科書 2 章骨格 I 骨学総論、3 章 I 関節と靭帯に軽く目を通して下さい。
		復習	資料の「骨学総論」を精読して下さい。
4	骨格系 2	授業内容	骨格系各論：頭蓋を構成する骨とその連結、脊柱を構成する骨とその連結
		予習	2 章 II 骨学各論 A 頭蓋 B 脊柱、3 章の当該関節靭帯に目を通して下さい。
		復習	資料の「骨学各論」 B 軸骨格 1 頭蓋、2 脊柱を精読して下さい。
5	骨格系 3	授業内容	骨格系各論：胸郭を構成する骨とその連結、上肢骨を構成する骨とその連結
		予習	2 章 II 骨学各論 C 胸郭 D 上肢の骨、3 章当該関節靭帯に目を通して下さい。
		復習	資料「骨学各論」 B 軸骨格 3 胸郭、C 付属肢骨格 1 上肢骨を精読して下さい。
6	骨格系 4	授業内容	骨格系各論：骨盤を構成する骨とその連結、下肢骨を構成する骨とその連結
		予習	2 章 II 骨学各論 E 下肢の骨、3 章当該関節靭帯に軽く目を通して下さい。
		復習	資料「骨学各論」 B 軸骨格 3 胸郭、C 付属肢骨格 2 上肢骨を精読して下さい。
7	組織学総論 3	授業内容	筋組織（平滑筋、骨格筋、心筋）
		予習	教科書 4 章筋系 I 筋学総論 A 筋組織の種類と形状に軽く目を通して下さい。
		復習	資料の「筋組織」を精読して下さい。

8	筋系 1	授業内容	筋系総論：骨格筋の内部構造、形状、起始・停止、筋系各論：頭部の筋
		予習	4章筋系 I 筋学総論、II 筋学各論 C 体幹筋 1 頭部の筋に目を通して下さい。
		復習	資料の筋系総論、筋系各論 A 頭部の筋を精読して下さい。
9	筋系 2	授業内容	筋系各論：頸部の筋、背部の筋、胸部の筋、腹部の筋
		予習	4章筋系 C 体幹の筋の頸部、胸部、腹部、背部の筋に軽く目を通して下さい。
		復習	資料の筋系各論 B 頸部の筋、C 体幹の筋を精読して下さい。
10	筋系 3	授業内容	筋系各論：上肢の筋（上肢帯の筋、上腕の筋、前腕の筋）
		予習	教科書 4章筋系 II 筋学各論 A 上肢の筋に軽く目を通して下さい。
		復習	資料の筋系各論 D 上肢の筋を精読して下さい。
11	筋系 4	授業内容	筋系各論：上肢の筋（手の筋）、下肢の筋（下肢帯の筋、大腿の筋）
		予習	教科書 4章筋系 II 筋学各論 B 下肢の筋に軽く目を通して下さい。
		復習	資料の筋系各論 D 上肢の筋と下肢の筋を精読して下さい。
12	筋系 5	授業内容	筋系各論：下肢の筋（大腿の筋、下腿の筋、足の筋）
		予習	教科書 4章筋系 II 筋学各論 B 下肢の筋に軽く目を通して下さい。
		復習	資料の筋系各論 E 下肢の筋を精読して下さい。
13	循環器系 1	授業内容	血管系 1：総論、各論 [心臓、中隔形成、肺循環、体循環（動脈系）]
		予習	教科書 7章循環器系 A 血管系に軽く目を通して下さい。
		復習	資料の循環器系 I 血管系 A 総論、B 各論の心臓、動脈系を精読して下さい。
14	循環器系 2	授業内容	血管系 2：各論（動脈系、静脈系、下大静脈と奇静脈の発生）
		予習	教科書 7章循環器系 A 血管系に目を通して下さい。
		復習	資料の循環器系 I 血管系 B 各論の動脈系、静脈系を精読して下さい。
15	循環器系 3	授業内容	リンパ管系、リンパ様(性)器官（リンパ小節、扁桃、リンパ節、脾臓、胸腺）
		予習	教科書 7章循環器系 B リンパ系に軽く目を通して下さい。
		復習	資料のリンパ系、リンパ様(性)器官(組織) を精読して下さい。
評価法基準	全講義終了後の定期試験時に試験を実施し評価します。試験の問題形式は理学療法士作業療法士国家試験に準拠した多肢選択問題 MCQ [A-type（五者択一）、X2-type（五者択二）] とします。MCQ は丸暗記型の知識の分類 I の想起問題のみならず、図、写真などの解釈を求める解釈問題（分類 II）も出題します。多肢選択問題 MCQ については 1 回目の課題提示時に説明します。		
教科書	「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第 5 版」野村巖編 医学書院 「ネッター解剖学カラーリングテキスト」相磯貞和監訳 南江堂		
参考書	「日本人体解剖学 上巻 改定20版」金子丑之介原著 南山堂 「日本人体解剖学 下巻 改定 20 版」金子丑之介 原著 南山堂 「人体解剖カラーアトラス(電子書籍付)原書第 8 版」佐藤達夫、秋田恵一翻訳 南江堂		
履修上の注意	予習・復習のうち、特に復習に十分な時間をかけて下さい。		
オフィスアワー	火曜日 昼休み（12:10～12:50）、6-5 研究室		

科目名	解剖学Ⅱ		担当教員	五十嵐 広明	
学科	理学療法学科		学年	1 学年	
学期	後期	必修 / 選択	必修	授業形態	講義
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	解剖学Ⅱでは、神経系、感覚器系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系の7系統の構造を学習します。これらの系統では始めにその器官の発生を学び、なぜその器官が人体のその位置にあるかなど、胎児の時期に受けた障害が原因で形成される先天性奇形の理解に役立つ少しレベルの高い知識も習得します。神経系では講義時に「解剖学カラーリングテキスト」も活用し、難解な神経系の造り（構造）をアクティブラーニングを導入して習得します
到達目標	① 神経組織の構成要素について述べ、それらについて説明できる。 ② 中枢神経系（脳、脊髄）を構成する部位を列挙し、それらの構造を説明できる。 ③ 末梢神経系（脳脊髄神経系、自律神経系）の構造を説明できる。 ④ 眼球とその付属器、平衡聴覚器および皮膚の構造を説明できる。 ⑤ 内臓を構成する器官を系統ごとに列挙し、それら器官の肉眼および光学顕微鏡レベルの構造を説明できる。

No.	テーマ		内容
1	神経組織	授業内容	神経組織：ニューロン（神経細胞）、神経線維、シナプス、支持細胞
		予習	教科書 5 章神経系 B 神経系の構成 1 神経組織に軽く目を通して下さい。
		復習	講義時配布プリント(以下資料)の「神経組織」を精読して下さい。
2	神経系 1 総論	授業内容	神経系の区分、神経系の発生、脳室、灰白質・白質、核・神経節、髄膜
		予習	教科書 5 章 I 総論 C 髄膜と脳室系、D 神経系の発生に目を通して下さい。
		復習	資料の神経系の I 神経系のあらましを精読して下さい。
3	神経系 2 中枢神経系	授業内容	脊髄、延髄、橋、小脳、中脳、間脳、終脳
		予習	教科書 5 章 II 中枢神経系 A 脊髄～D 大脳に極々軽く目を通して下さい。
		復習	資料の神経系の II 中枢神経系 A 脊髄 B 脳を精読して下さい。
4	神経系 3 中枢神経系 の神経路	授業内容	神経路の種類、上行性神経路・下行性神経路
		予習	教科書 5 章 II 中枢神経系 E 神経路に極々軽く目を通して下さい。
		復習	資料の神経系の II 中枢神経系 C 中枢神経の神経路を精読して下さい。
5	神経系 4 末梢神経系	授業内容	脳脊髄神経（脳神経、脊髄神経）、自律神経系（交感神経系・副交感神経系）
		予習	教科書 5 章 III 末梢神経系に極々軽く目を通して下さい。
		復習	資料の神経系の III 末梢神経系を精読して下さい。
6	感覚器系	授業内容	感覚器の発生、眼球とその付属器、平衡聴覚器、皮膚
		予習	教科書 6 章感覚器系に軽く目を通して下さい。
		復習	資料の感覚器を精読して下さい。

7	消化器系 1 消化管	授業内容	器官の基本構造（中空性・実質性器官）、消化管の発生、消化管（口腔～胃）
		予習	教科書 7 章内臓器系 I 内臓器官の構造、IV 消化器系の A 口腔から D 胃までに目を通して下さい。
		復習	資料の内臓 I 器官の一般構造、消化器系 IV 胃までを精読して下さい。
8	消化器系 2 消化管・ 消化腺	授業内容	消化管（小腸、大腸）、消化腺（肝臓、胆嚢、膵臓）、消化腺の発生、腹膜
		予習	教科書 7 章内臓器系 IV 消化器系 E 小腸から J 腹膜までに軽く目を通して下さい。
		復習	資料の消化器系 V 小腸から X 腹膜までを精読して下さい。
9	呼吸器系 1	授業内容	外鼻、鼻腔（副鼻腔含む）、呼吸器系の発生、喉頭、気管
		予習	教科書 7 章内臓器系 III 呼吸器系 A 鼻から D 気管と気管支までに軽く目を通して下さい。
		復習	資料の呼吸器系 IV 気管、気管支までを精読して下さい。
10	呼吸器系 2	授業内容	気管支、肺、胸膜と縦隔
		予習	教科書 7 章内臓器系 III 呼吸器系 E 肺および F 胸膜と縦隔に目を通して下さい。
		復習	資料の呼吸器系 V 肺、VI 胸膜と縦隔を精読して下さい。
11	泌尿器系 1	授業内容	腎臓（腎臓の位置、形状、被膜）、腎臓の構造、腎臓の血管、糸球体傍装置
		予習	教科書 7 章内臓器系 V 泌尿生殖器系 B 泌尿器系 1 腎臓に目を通して下さい。
		復習	資料の泌尿器系の I 腎臓を精読して下さい。
12	泌尿器系 2	授業内容	尿管、膀胱、尿道
		予習	教科書 7 章内臓器系 V 泌尿生殖器系 B 泌尿器系 2 尿管、3 膀胱、4 尿道に目を通して下さい。
		復習	資料の泌尿器系 II 尿管、III 膀胱、IV 尿道を精読して下さい。
13	内分泌系	授業内容	内分泌器の発生、甲状腺、上皮小体、下垂体、松果体、副腎、膵島
		予習	教科書 7 章内臓器系 VI 内分泌系および IV 消化器系 I 膵臓に目を通して下さい。
		復習	資料の内分泌器を精読して下さい。
14	生殖器系 1 男性生殖器	授業内容	生殖器の発生、精巣、精巣上体、精管と精索、精嚢、前立腺、尿道球腺、外陰部
		予習	教科書 7 章内臓器系 V 泌尿生殖器系 C 生殖器系 1 男性生殖器に目を通して下さい。
		復習	資料の生殖器系 I 男性生殖器を精読して下さい。
15	生殖器系 2 女性生殖器	授業内容	卵巣、卵管、子宮、膣、外陰部、会陰
		予習	教科書 7 章内臓器系 V 泌尿生殖器系 C 生殖器系 2 女性生殖器に目を通して下さい。
		復習	資料の生殖器系 II 女性生殖器を精読して下さい。

評価法基準	全講義終了後の定期試験時に試験を実施し評価します。試験の問題形式は理学療法士作業療法士国家試験に準拠した多肢選択問題 MCQ [A-type (五者択一)、X2-type (五者択二)] とします。MCQ は丸暗記型の知識の分類 I の想起問題のみならず、図、写真などの解釈を求める解釈問題 (分類 II) も出題します。多肢選択問題 MCQ については 1 回目の講義時に説明します。
教科書	「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第 5 版」野村巖編 医学書院 「ネッター解剖学カラーリングテキスト」相磯貞和監訳 南江堂

参考書	「日本人体解剖学 上巻 改定20 版」金子丑之介原著 南山堂 「日本人体解剖学 下巻 改定 20 版」金子丑之介原著 南山堂 「人体解剖カラーアトラス(電子書籍付)原書第 8 版」佐藤達夫、秋田恵一翻訳 南江堂
履修上の注意	予習・復習のうち、特に復習に十分な時間をかけて下さい。
オフィスアワー	火曜日 昼休み (12:10~12:50)、金曜日 授業終了後の放課後 (16:20~17:00) いずれも 6・5 研究室

科目名	解剖学実習		担当教員	五十嵐 広明	
学科	理学療法学科		学年	1 学年	
学期	後期	必修 / 選択	必修	授業形態	実習
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	この解剖学実習では、骨格模型、3DCG ソフトによるバーチャル人体 3 次元像、および顕微鏡標本 (プレパラート) を観察してスケッチすることにより、理学療法学の習得に必要な人体の 3 次元構造の理解を深めます。プレパラートの多くは人体標本です。人体標本を観察するこの実習を通して、将来医療に従事する者としての自覚と、医の倫理および人間の尊厳についての理解も深めます。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ① 人体を構成する骨の名称を列挙し、各々の骨に付着する筋の起始、停止部位を説明できる。 ② 人体各部に分布する筋をグループごとに列挙し、それらの筋の作用・神経支配を説明できる。 ③ 内臓を構成する器官を系統ごとに列挙し、それら器官の光学顕微鏡レベルの構造を説明できる。 ④ 中枢神経系の各部位における横断面の構造を説明し、上行性および下行性伝導路を説明できる。

No.	テーマ		内容
1	骨学実習 1 軸骨格	授業内容	頭蓋、椎骨、胸骨、肋骨の観察(分離模型)。脊柱、胸郭の観察(全身模型)。
		予習	講義資料 (以下資料) の骨格系の骨学各論 B 軸骨格を見直しておいて下さい。
		復習	実習時作成の評価後のスケッチを資料と照らし合わせて復習して下さい。
2	骨学実習 2 付属肢骨格 上肢骨	授業内容	上肢帯と自由上肢の骨の観察(骨格分離模型)。上肢の関節の観察(全身模型)。
		予習	資料の骨格系の骨学各論 C 付属肢骨格の 1 上肢骨を見直しておいて下さい。
		復習	実習時作成の評価後のスケッチを資料と照らし合わせて復習して下さい。
3	骨学実習 3 付属肢骨格 下肢骨	授業内容	下肢帯と自由下肢の骨の観察(骨格分離模型)。下肢の関節の観察(全身模型)。
		予習	資料の骨格系の骨学各論 C 付属肢骨格の 2 下肢骨を見直しておいて下さい。
		復習	実習時作成の評価後のスケッチを資料と照らし合わせて復習して下さい。
4	筋学実習 1 頭部の筋 頸部の筋	授業内容	頭部の筋、頸部の筋の観察 (バーチャルアナトミー・3DCG ソフト)。
		予習	資料の筋系各論 A 頭部の筋を見直しておいて下さい。
		復習	実習時に作成した評価後のスケッチを資料と照らし合わせて下さい。
5	筋学実習 2 体幹の筋	授業内容	背部、胸部、腹部の筋の観察 (バーチャルアナトミー・3DCG ソフト)。
		予習	資料の筋系各論 C 体幹の筋を見直しておいて下さい。
		復習	実習時作成の評価後のスケッチを資料と照らし合わせて復習して下さい。
6	筋学実習 3 上肢の筋	授業内容	上肢帯、上腕、前腕、手の筋の観察 (バーチャルアナトミー・3DCG ソフト)。
		予習	資料の筋系各論 D 上肢の筋を見直しておいて下さい。
		復習	実習時作成の評価後のスケッチを資料と照らし合わせて復習して下さい。
7	筋学実習 4 下肢の筋	授業内容	下肢帯、大腿、下腿、足の筋の観察 (バーチャルアナトミー・3DCG ソフト)。
		予習	資料の筋系各論 E 下肢の筋を見直しておいて下さい。
		復習	実習時作成の評価後のスケッチを資料と照らし合わせて復習して下さい。

8	循環器系 実習	授業内容	心臓、動脈、静脈の観察（バーチャルアトミー・3DCG ソフト）。
		予習	資料の循環器系を見直しておいて下さい。
		復習	実習時作成の評価後のスケッチを資料と照らし合わせて復習して下さい。
9	組織学総論 軟骨・骨 筋・神経	授業内容	軟骨組織（硝子軟骨、H-E 染色）、骨組織（研磨標本）、骨格筋（H-E 染色）のプレパラートの光学顕微鏡観察。
		予習	資料の軟骨組織・骨組織、筋組織、神経組織を見直しておいて下さい。
		復習	実習時作成の評価後のスケッチを資料と照らし合わせて復習して下さい。
10	組織学各論 神経系 1	授業内容	脊髄、延髄（錐体交叉の高さ）（LFB- H-E 染色）の光学顕微鏡観察。
		予習	資料の神経系を見直しておいて下さい。
		復習	実習時作成の評価後のスケッチを資料と照らし合わせて復習して下さい。
11	組織学各論 神経系 2	授業内容	橋、中脳、小脳（LFB- H-E 染色）の光学顕微鏡観察。
		予習	資料の神経系を見直しておいて下さい。
		復習	実習時作成の評価後のスケッチを資料と照らし合わせて復習して下さい。
12	組織学各論 神経系 3 感覚器	授業内容	大脳皮質（Golgi 染色）の光学顕微鏡観察。皮膚（H-E 染色）の光学顕微鏡観察。
		予習	資料の神経系と感覚器を見直しておいて下さい。
		復習	実習時作成の評価後のスケッチを資料と照らし合わせて復習して下さい。
13	組織学各論 消化器系	授業内容	空腸（H-E 染色）、肝臓（H-E 染色）のプレパラートの光学顕微鏡観察。
		予習	資料の消化器系を見直しておいて下さい。
		復習	実習時作成の評価後のスケッチを資料と照らし合わせて復習して下さい。
14	組織学各論 呼吸器系 泌尿器系	授業内容	気管（H-E 染色）、肺（H-E 染色）、腎臓（H-E 染色）の光学顕微鏡観察。
		予習	資料の呼吸器系と泌尿器系を見直しておいて下さい。
		復習	実習時作成の評価後のスケッチを資料と照らし合わせて復習して下さい。
15	組織学各論 内分泌器	授業内容	膵島、下垂体（アルデヒドフクシン・Masson-Goldner 染色）の光学顕微鏡観察。
		予習	資料の内分泌器を見直しておいて下さい。
		復習	実習時作成の評価後のスケッチを資料と照らし合わせて復習して下さい。

評価法基準	各回の実習時に作成したスケッチ（50%）、およびこの実習で観察した骨、バーチャルアトミーで観察した筋、および顕微鏡観察したプレパラートの範囲で行う PowerPoint のスライドショーを使用しての実習試験（実習終了後に実施）（50%）を総合評価します。実習試験に関しては、第1回の実習時に内容を説明します。
教科書	「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第5版」野村巖編 医学書院 「ネッター解剖学カラーリングテキスト」相磯貞和監訳 南江堂
参考書	「日本人体解剖学 上巻 改定20版」金子丑之介原著 南山堂 「日本人体解剖学 下巻 改定20版」金子丑之介原著 南山堂 「人体解剖カラーアトラス(電子書籍付)原書第8版」佐藤達夫、秋田恵一翻訳 南江堂
履修上の注意	人体標本を使用する第9回以降の実習開始時には全員で黙祷します。実習終了時には各自黙祷して実習を終了して下さい。
オフィスアワー	火曜日 昼休み（12:10～12:50）、金曜日 授業終了後の放課後（16:20～17:00） いずれも 6・5 研究室

科目名	生理学 I		担当教員	照井 直人	
学科	理学療法学科		学年	1 学年	
学期	前期	必修 / 選択	必修	授業形態	講義
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	生理学とは生体の正常機能についての学問分野である。生体が持つ調節機能を中心に、各臓器の個体維持における役目を理解する。神経系以外の部分を生理学 I で取り扱う。生体の持つ調節機構の概説に始まり、細胞膜、細胞膜にあるタンパク、興奮性細胞の性質、細胞間の情報伝達、筋収縮機構については分子レベルから、心臓を始めとする循環器、呼吸器、泌尿器、消化器それぞれは器官としての機能について学び、エネルギー消費の観点から代謝についても学ぶ。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ① 個体として生存するための個々臓器が果たす役割を理解し説明できる。 ② 細胞膜、イオンチャネル、担体、膜電位、シナプス、筋収縮等が分子レベルで説明できる。 ③ 心臓を含む循環器、呼吸器、消化器、泌尿器のそれぞれの機能と個体維持における役割を説明できる。 ④ 代謝の概念と運動負荷の定義が説明できる

No.	テーマ	内容	
1	生理学序	授業内容	生体の持つ出力の調整方法について具体例をあげて解説する。
		予習	指定教科書の第 1 章を読んでおくこと。
		復習	Negative Feed Back の一例をあげ、フローチャートが描ける。
2	細胞膜	授業内容	細胞膜とこれに付随するタンパクの機能について解説する。
		予習	指定教科書の細胞膜、チャネル、担体について予め読んでおくこと。
		復習	チャネル、担体、ポンプの違いについて説明できる。
3	膜電位	授業内容	興奮性細胞に見られる細胞内電位について、成因と維持の機構、活動電位の発生機構を解説する。
		予習	チャネル、膜電位の種類について予め指定教科書を読んでおくこと。
		復習	活動電位の波形を図示し、波形とイオンチャネルの対応が説明できること。
4	シナプス	授業内容	神経同士、神経と筋の間での情報伝達の仕組みについて解説する。
		予習	シナプスの種類、終板の化学伝達について指定教科書を読んでおくこと。
		復習	シナプスの種類、結合様式を図示、説明できる。
5	筋	授業内容	筋収縮のメカニズムの講義と収縮様式について解説する。
		予習	指定教科書の筋の章を読んでおくこと。
		復習	収縮様式の名前とどのような収縮なのかを図示できる。
6	循環（心臓）	授業内容	体循環、肺循環、心臓のポンプ機能について解説する。
		予習	指定教科書の循環と心臓の章を読んでおくこと。
		復習	循環器（動静脈名、心臓の弁等）の名称を図とともに提示できる。
7	循環（心電図）	授業内容	正常心電図と成り立ちの学習と異常心電図の原因について解説する。
		予習	記録方法、異常心電図について指定教科書の該当章を読んでおくこと。
		復習	刺激伝導系が説明できる。

8	循環（血圧調節）	授業内容	血圧を一定に保つ機構を学ぶ。指定された仕組みについて解説する。
		予習	指定教科書の循環の調節機構の章を読んでおくこと。
		復習	動脈圧受容器反射の説明図を書き説明できる。
9	呼吸器	授業内容	呼吸器とこれを構成する組織について解説する。
		予習	特に呼吸生理学の用語について指定教科書の呼吸の章を読んでおくこと。
		復習	肺気量分画について図示し説明できる。
10	呼吸調節	授業内容	呼吸運動の調節機構とヘモグロビンの働きについて解説する。
		予習	指定教科書の呼吸運動調節とヘモグロビンの章を読んでおくこと。
		復習	血液のガス分圧、酸素解離曲線が説明できる。
11	泌尿器系 I	授業内容	腎循環、尿細管の機能の解説とクリアランスについて解説する。
		予習	指定教科書の泌尿器系の前半の章を読んでおくこと。
		復習	尿細管の各部の機能が説明できる。
12	泌尿器系 II	授業内容	尿濃縮についての講義と腎臓が関与するホルモンについて解説する。
		予習	指定教科書の泌尿器系の後半の章を読んでおくこと。
		復習	腎臓が関与するホルモンを列挙しそれぞれの機能が説明できる。
13	消化器系 I	授業内容	消化管の構造と運動様式について解説する。
		予習	指定教科書の消化管の構造と機能の章を読んでおくこと。
		復習	運動様式を、その運動がよく発生する部位とともに説明できる。
14	消化器系 II	授業内容	化学的消化と吸収の仕組みについて解説する。
		予習	指定された教科書の消化酵素の章を読んでおくこと。
		復習	各消化酵素がどこで分泌されどのように働くのかが説明できる。
15	代謝と体温調節	授業内容	代謝の概念と体温調節、運動負荷について解説する。
		予習	指定教科書の代謝の章を予め読んでおくこと。
		復習	基礎代謝や運動負荷の単位が説明できる。

評価法基準	定期試験は 100 問のマークシート式試験を実施する。60 点以上が合格。再試験を実施する場合、再試験は記述式となり、60 点未満を不合格とする。再試験は本試験より難くなる。
教科書	「はじめの一步のイラスト生理学 改訂第 2 版」照井直人編 羊土社 ISBN 978-4-7581-2029-6
参考書	「トートラ 人体の構造と機能 第 4 版」桑木共之他編訳 丸善出版 ISBN 978-4-621-08576-9
履修上の注意	生理学は解剖学と並んで医学の基礎である。配布された資料には諸君がこれにさらに書き込むようにする。こうしてできた諸君のノートは生理学 II のノートとともに高学年、あるいは卒業してから教科書として有用になるので、毎回きちんとまとめておくこと。
オフィスアワー	火曜～木曜（12:10～12:50）、6-2 研究室 UNIVERSAL PASSPORT のメールで予約すること。

科目名	生理学Ⅱ		担当教員	照井 直人	
学科	理学療法学科		学年	1 学年	
学期	後期	必修 / 選択	必修	授業形態	講義
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	生理学とは生体の正常機能についての学問分野である。生理学Ⅰで学んだことを踏まえて主に神経系が関与する部分を理解する。末梢神経から中枢神経系に至る経路や、その途中での情報処理、大脳皮質や小脳での情報処理機構を学ぶ。内分泌（ホルモン）や血液・免疫系についても学ぶ。
到達目標	① 神経系を構成する部分（感覚器、末梢神経系、中枢神経系）を列挙することができる。 ② 感覚器の違いとそれぞれがどのように活動電位を発生するかを説明できる。 ③ 中枢神経系内の神経結合が情報処理を行う機構を説明できる。 ④ 血液・免疫細胞の種類を列挙し、それぞれの役割を説明できる。

No.	テーマ		内容
1	神経系概論	授業内容	神経系を構成するニューロン、グリア細胞について解説する。
		予習	指定教科書の神経系に関する最初の章を読んでおくこと。
		復習	末梢神経系の分類、脳血液関門が説明できる。
2	体性感覚	授業内容	皮膚感覚、深部感覚、痛覚の感覚器とその情報処理機構について解説する。
		予習	指定教科書の体性感覚の章を読んでおくこと。
		復習	感覚器と感覚器から大脳皮質に至る経路が説明できる。
3	視覚Ⅰ	授業内容	視器と視覚情報処理機構について解説する。
		予習	指定教科書の視覚の章を読んでおくこと。
		復習	網膜から第一次視覚野までの経路と各部での情報処理が説明できる。
4	視覚Ⅱ	授業内容	視覚の高次情報処理機構を錯視等も交えて解説する。
		予習	指定教科書の視覚の章、大脳の章を読んでおくこと。
		復習	2つの視覚情報処理経路の違いについて説明できる。
5	嗅覚・味覚	授業内容	嗅覚器、味覚器とそれぞれの中枢情報処理機構を解説する。
		予習	指定教科書の嗅覚・味覚の章を読んでおくこと。
		復習	体性感覚の情報処理機構と何処が同じで何処が違うのかを説明できる。
6	聴覚・平衡感覚	授業内容	聴覚と平衡感覚の器官とそれぞれの中枢情報処理機構を解説する。
		予習	指定教科書の聴覚と平衡感覚（内耳）の章を読んでおくこと。
		復習	聴覚の情報処理機構と、バランスを保つ仕組みが説明できる。
7	脊髄	授業内容	脊髄レベルでの反射について解説する。
		予習	指定教科書の脊髄、運動の章を読んでおくこと。
		復習	Ia, Ib 反射、 γ 運動ニューロンの役割が説明できる。
8	脳幹	授業内容	脳幹レベルでの反射について解説する。
		予習	指定教科書の脳幹、自律神経反射の章を読んでおくこと。
		復習	対光反射、前庭動眼反射、頸反射を説明できる。

9	大脳・小脳	授業内容	機能局在、錐体路、錐体外路、大脳基底核、運動学習について解説する。
		予習	指定教科書の大脳、小脳の章を読んでおくこと。
		復習	自律神経を構成する神経線維と伝達物質を列挙し説明できる。
10	自律神経系	授業内容	交感神経系と副交感神経系の解剖と機能を解説する。
		予習	指定教科書の自律神経の章を読んでおくこと。
		復習	自律神経を構成する神経線維と伝達物質を列挙し説明できる。
11	睡眠・記憶	授業内容	レム睡眠、脳波、記憶の分類、記憶の場について解説する。
		予習	指定教科書の睡眠の章を読んでおくこと。
		復習	覚醒-レム睡眠-ノンレム睡眠の違いを説明できる。
12	内分泌 I	授業内容	ホルモンの概要と各ホルモンの作用、フィードバックについて解説する。
		予習	指定教科書の内分泌の章を読んでおくこと。
		復習	性ホルモン以外のホルモンの種類と作用を列挙し説明できる。
13	内分泌 II	授業内容	性ホルモンと生殖活動について解説する。
		予習	指定教科書の内分泌の性ホルモンの章を読んでおくこと。
		復習	性ホルモンの種類と作用を列挙し説明できる。
14	血液	授業内容	血液の組成、血漿、血球、血液凝固、線溶系について解説する。
		予習	指定教科書の血液の章を予め読んでおくこと。
		復習	血球の分化と血液凝固のシーケンスが説明できる。
15	免疫	授業内容	免疫の仕組みを概説する。
		予習	免疫というキーワードをネットで検索し専門用語について慣れておく。
		復習	細胞免疫、液性免疫、アレルギーについて説明できる。

評価法基準	定期試験は 100 問のマークシート式試験を実施する。60 点以上が合格。再試験を実施する場合、再試験は記述式となり、60 点未満を不合格とする。再試験は本試験より難しくなる。
教科書	「はじめの一步のイラスト生理学 改訂第 2 版」照井直人編 羊土社 ISBN 978-4-7581-2029-6
参考書	「トートラ 人体の構造と機能 第 4 版」桑木共之他編訳 丸善出版 ISBN 978-4-621-08576-9
履修上の注意	生理学は解剖学と並んで医学の基礎である。配布された資料には諸君がこれにさらに書き込むようにする。こうしてできた諸君のノートは生理学 I のノートとともに高学年、あるいは卒業してからも教科書として有用になるので、毎回きちんとまとめておくこと。
オフィスアワー	火曜～木曜 (12:10～12:50)、6-2 研究室 UNIVERSAL PASSPORT のメールで予約すること。

科目名	生理学実習		担当教員	照井 直人	
学科	理学療法学科		学年	1 学年	
学期	後期	必修 / 選択	必修	授業形態	実習
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	ヒトの生体の調節機能を、様々な実験を介して理解する。そのため、実際に手を動かし、被験者からデータを取得し、実験結果を客観的に記述し、解析し、表・グラフにまとめ、統計処理を行い、先行研究（教科書）を正しく理解し引用して、論理的に考察したレポートを作成するトレーニングである。そのため、データの取得方法、統計処理の方法を具体的に学ぶ。これらの方法は、高学年の実習や卒業後にも必要となる。班を構成して実施するのでチームとしてのコミュニケーションの訓練でもあり、個人としての報告書を書く訓練でもある。
到達目標	(1) 実習書を読み理解し、(2) データを採取し、(3) 結果を表・グラフ等にまとめ、(4) 先行研究・教科書の記載を読み理解し、(5) 実験結果を説明（考察）できるようになる。年度末には、目的（背景）に始まって考察、引用文献一覧までの、科学的な形式を踏んだレポートが書けるようになる。

No.	テーマ		内容
1	レポートの書き方	授業内容	レポートの書き方の講義
		予習	特に必要ない。
		復習	配布されたレポートの書き方を読む。
2	統計処理 I	授業内容	生理学で用いる統計処理のうち、平均値の差の検定について演習を行う。
		予習	配布されたエクセルを使った統計計算の冊子を読む。
		復習	課題を提示するので、統計処理し、レポートにまとめる。
3	統計処理 II-1	授業内容	生理学で用いる統計処理のうち、平均値の差の検定について演習を行う。
		予習	前回配布されたエクセルを使った統計計算の冊子を読む。
		復習	課題を提示するので、統計処理し、レポートにまとめる。
4	統計処理 II-2	授業内容	統計処理 II-1 の続きを行う。
		予習	あらかじめ配布されたエクセルを使った統計計算の冊子を読む。
		復習	課題を提示するので、統計処理し、レポートにまとめる。
5	筋疲労-1	授業内容	データ収集装置の使い方を理解し、全員の握力を測定する。
		予習	あらかじめ配布された実習書の該当章を読む。
		復習	クラス全員から取得した最大握力値の統計処理を行いレポートする。
6	筋疲労-2	授業内容	筋の疲労過程を記録し、収縮様式による違いを解析する。
		予習	あらかじめ配布された実習書の該当章を読む。
		復習	筋疲労の原因を調べ、実習結果を考察する。
7	筋電図と発生張力-1	授業内容	上腕の拮抗筋の筋電図の測定を行う。
		予習	あらかじめ配布された実習書の該当章を読む。
		復習	拮抗筋の相互の活動を比較し運動様式と合わせて考察する。

8	筋電図と発生張力-2	授業内容	肘を曲げ重りを持ったときの上腕の拮抗筋の筋電図の測定を行う。
		予習	あらかじめ配布された実習書の該当章を読む。
		復習	発揮する張力と筋電図の大きさについて考察する。
9	尺骨神経伝導速度-1	授業内容	尺骨神経を電気刺激し、小指外転筋の誘発筋電図から神経伝導速度を測定する。
		予習	あらかじめ配布された実習書の該当章を読む。
		復習	ヒト運動神経の伝導速度を調べ測定結果と比較検討しレポートする。
10	尺骨神経伝導速度-2	授業内容	尺骨神経伝導速度-1の続きを別の被験者を選び実施する。
		予習	あらかじめ配布された実習書の該当章を読む。
		復習	神経伝導速度を誘発筋電図で測定する意味を考察する。
11	M波H波-1	授業内容	神経電気刺激で誘発される下肢筋の誘発筋電図を測定する。
		予習	あらかじめ配布された実習書の該当章を読む。
		復習	誘発筋電図に2種類あることを確認する。
12	M波H波-2	授業内容	M波H波-1を引き続き別の被験者で測定する。
		予習	あらかじめ配布された実習書の該当章を読む。
		復習	2種類の誘発筋電図、M波、H波の成因を調べ、実験結果を説明する。
13	眼電図-1	授業内容	眼球運動を眼電図で記録し眼球運動の様式、前庭動眼反射を記録測定する。
		予習	あらかじめ配布された実習書の該当章を読む。
		復習	眼球回転角度と眼電図の大きさ、ターゲットが見えるとき・見えないときの眼球運動を比較検討する。
14	眼電図-2	授業内容	頭部回転と同一回転のターゲットをみているときの前庭動眼反射を記録する。
		予習	あらかじめ配布された実習書の該当章を読む。
		復習	頭部回転に伴う前庭動眼反射の結果を考察する。
15	心電図	授業内容	標準肢誘導による心電図を計測する。
		予習	あらかじめ配布された実習書の該当章を読む。
		復習	各自が記録した心電図からパラメータを計測し正常値と比較する。

評価法基準	出欠とレポートで評価する。どちらかあるいは両方が欠けた場合は0点とし、15回のレポートの平均点が60点以上を合格とする。
教科書	実習書、エクセルによる統計計算という冊子を学期の始めに配布するのでこれを利用する。 各実習項目の考察に必要な文献・教科書を図書館でさがし、レポートに引用する。
参考書	”生理学”がタイトルにある教科書。
履修上の注意	レポートの提出がないと評価されない。毎回ランダムに組み合わせられた数名からなる班を構成して実験が行われる。班内で役割分担を決めて効率よく実施しないと結果が得られないので、班内でのコミュニケーションが重要である。
オフィスアワー	火曜～木曜（12:10～12:50）、6-2 研究室 UNIVERSAL PASSPORTのメールで予約すること。

科目名	運動学 I		担当教員	岩本 浩二	
学科	理学療法学科		学年	1 学年	
学期	前期	必修 / 選択	必修	授業形態	講義
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	運動学は、身体運動の仕組みに関する学問であり、運動障害を治療する理学療法士にとって、その理論的基盤をなす極めて重要な学問である。運動学 I では、正常な運動と運動の仕組みに関する基礎知識を習得するため、身体運動、上肢・下肢・体幹の運動学、姿勢、歩行、体力、運動学習の基礎について学ぶ。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ① 身体運動に必要な力学の基礎を理解する ② 各関節の構造、運動、各関節運動に関与する筋の作用について理解する ③ 姿勢と姿勢制御、歩行運動、運動とエネルギーの関係について理解する ④ 運動学習の基本概念を理解する

No.	テーマ		内容
1	オリエンテーション、 運動学概論	授業内容	運動学講義の目的と内容、講義の進め方と学習方法について
		予習	シラバスを熟読する
		復習	講義のポイントを整理する
2	生体力学と 運動器の構造と機能	授業内容	生体力学と運動器の構造と機能の基礎について
		予習	教科書の該当する項目を読んでおくこと
		復習	配布資料と教科書で復習すること
3	肩関節の運動	授業内容	肩関節の構造と関節運動、関節運動に関与する筋などについて
		予習	教科書の該当する項目を読んでおくこと
		復習	配布資料と教科書で復習すること
4	肘関節と前腕の運動	授業内容	肘関節と前腕の構造と関節運動、関節運動に関与する筋について
		予習	教科書の該当する項目を読んでおくこと
		復習	配布資料と教科書で復習すること
5	中間試験 1	授業内容	1～4 回授業範囲の中間試験およびその解説
		予習	教科書の該当する項目を読んでおくこと
		復習	配布資料と教科書で復習すること
6	手関節と手指の運動	授業内容	手関節と手指の構造と関節運動、関節運動に関与する筋について
		予習	教科書の該当する項目を読んでおくこと
		復習	配布資料と教科書で復習すること
7	股関節の運動	授業内容	股関節の構造と関節運動、関節運動に関与する筋について
		予習	教科書の該当する項目を読んでおくこと
		復習	配布資料と教科書で復習すること
8	膝関節の運動	授業内容	膝関節の構造と関節運動、関節運動に関与する筋について
		予習	教科書の該当する項目を読んでおくこと
		復習	配布資料と教科書で復習すること

9	足関節と足部の運動	授業内容	足関節と足部の構造と関節運動、関節運動に関与する筋について
		予習	教科書の該当する項目を読んでおくこと
		復習	配布資料と教科書で復習すること
10	中間試験 2	授業内容	6～9 回授業範囲の中間試験およびその解説
		予習	教科書の該当する項目を読んでおくこと
		復習	配布資料と教科書で復習すること
11	体幹（脊椎）の運動	授業内容	脊椎の構造と関節運動、関節運動に関与する筋について
		予習	教科書の該当する項目を読んでおくこと
		復習	配布資料と教科書で復習すること
12	姿勢	授業内容	姿勢と姿勢の制御の基礎について
		予習	教科書の該当する項目を読んでおくこと
		復習	配布資料と教科書で復習すること
13	歩行	授業内容	歩行周期と歩行に関与する筋について
		予習	教科書の該当する項目を読んでおくこと
		復習	配布資料と教科書で復習すること
14	体力と運動処方、運動学習の基礎	授業内容	体力と運動処方、運動学習の基礎について
		予習	教科書の該当する項目を読んでおくこと
		復習	配布資料と教科書で復習すること
15	中間試験 3	授業内容	11～14 回授業範囲の中間試験およびその解説
		予習	教科書の該当する項目を読んでおくこと
		復習	配布資料と教科書で復習すること

評価法基準	成績評価は、定期試験（中間試験含む）80%と授業内小テスト 20%とする。 授業で取り上げた身体運動、運動器の構造と運動機能およびその運動に関わる筋、姿勢や歩行運動学習について理解し説明できることを合格基準とする。基本事項の確認のために中間および小テストを実施する。
教科書	「基礎運動学」中村隆一、齋藤宏、長崎浩著者 医歯薬出版
参考書	「15 レクチャーシリーズ理学療法・作業療法テキスト 運動学」 石川朗、種村留美総編集 中山書店 「骨格筋系のキネシオロジーカラー版」Donald A. Neumann 著者、嶋田智明監訳 医歯薬出版
履修上の注意	身体運動を理解するためには筋骨格系の解剖学、生理学の知識が不可欠なので、しっかり予習をして講義に臨むようにすることとして講義に臨むようにすること
オフィスアワー	午前授業日：授業終了後昼休み（12:10～12:50）、4-6 研究室 午後授業日：授業後放課後（17:50～18:30）、4-6 研究室

科目名	運動学Ⅱ		担当教員	岩本 浩二	
学科	理学療法学科		学年	2 学年	
学期	通期	必修 / 選択	必修	授業形態	講義
単位数	2 単位	時間数	60 時間	回数	30 回

授業概要	運動学はヒトの身体運動の仕組みに関わる学問である。本講義では、上肢、下肢と体幹の筋骨格系の構造と機能、筋骨格系の身体運動に与える影響、身体運動の出現と身体運動の制御機序、身体運動に関する諸問題について、解剖学、生理学、生体力学の観点から理解することを目的とする。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身体運動を理解するために必要な運動力学について説明することができる ・ 各関節における筋骨格系の構造と機能について説明することができる ・ 身体運動（寝返り、起き上がり、立ち上がり、歩行動作）を運動学の視点から説明することができる

No.	テーマ		内容
1	オリエンテーション、臨床と運動学	授業内容	オリエンテーション、臨床と運動学
		予習	教科書の該当項目を読み、専門用語を調べておくこと
		復習	教科書と講義資料を整理し、内容を理解する
2	関節の機能と構造	授業内容	関節の基本的構造と機能について学習する
		予習	教科書の該当項目を読み、専門用語を調べておくこと
		復習	教科書と講義資料を整理し、内容を理解する
3	筋の解剖学	授業内容	筋の解剖学について学習する
		予習	教科書の該当項目を読み、専門用語を調べておくこと
		復習	教科書と講義資料を整理し、内容を理解する
4	筋力とは	授業内容	筋力について学習する
		予習	教科書の該当項目を読み、専門用語を調べておくこと
		復習	教科書と講義資料を整理し、内容を理解する
5	授業内テスト1	授業内容	授業内テスト1
		予習	特になし
		復習	特になし
6	筋力伝達の補助装置	授業内容	筋力伝達の補助装置（筋線維内の張力伝達など）について学習する
		予習	教科書の該当項目を読み、専門用語を調べておくこと
		復習	教科書と講義資料を整理し、内容を理解する
7	運動と筋血管系	授業内容	運動と筋血管系について学習する
		予習	教科書の該当項目を読み、専門用語を調べておくこと
		復習	教科書と講義資料を整理し、内容を理解する
8	筋疾患と病態	授業内容	筋疾患と病態について学習する
		予習	教科書の該当項目を読み、専門用語を調べておくこと
		復習	教科書と講義資料を整理し、内容を理解する

9	授業内テスト2	授業内容	授業内テスト2
		予習	特になし
		復習	特になし
10	運動のとらえ方	授業内容	運動のとらえ方について学習する
		予習	教科書の該当項目を読み、専門用語を調べておくこと
		復習	教科書と講義資料を整理し、内容を理解する
11	肩関節の運動学	授業内容	肩関節の運動学について学習する
		予習	教科書の該当項目を読み、専門用語を調べておくこと
		復習	教科書と講義資料を整理し、内容を理解する
12	肩関節の臨床と運動学	授業内容	肩関節の臨床と運動学について学習する
		予習	教科書の該当項目を読み、専門用語を調べておくこと
		復習	教科書と講義資料を整理し、内容を理解する
13	授業内テスト3	授業内容	授業内テスト3
		予習	特になし
		復習	特になし
14	肘関節の運動学	授業内容	肘関節の運動学について学習する
		予習	配布資料を読み、専門用語を調べておくこと
		復習	配布資料、講義資料を整理し、内容を理解する
15	肘関節の臨床と運動学	授業内容	肘関節の臨床と運動学について学習する
		予習	配布資料を読み、専門用語を調べておくこと
		復習	配布資料、講義資料を整理し、内容を理解する
16	授業内テスト4	授業内容	授業内テスト4
		予習	特になし
		復習	特になし
17	手関節の運動学と臨床運動学	授業内容	手関節の運動学と臨床運動学について学習する
		予習	教科書の該当項目を読み、専門用語を調べておくこと
		復習	教科書と講義資料を整理し、内容を理解する
18	股関節の運動学	授業内容	股関節の運動学について学習する
		予習	配布資料を読み、専門用語を調べておくこと
		復習	配布資料、講義資料を整理し、内容を理解する
19	股関節の臨床と運動学	授業内容	股関節の臨床と運動学について学習する
		予習	教科書の該当項目を読み、専門用語を調べておくこと
		復習	教科書と講義資料を整理し、内容を理解する
20	授業内テスト5	授業内容	授業内テスト5
		予習	特になし
		復習	特になし
21	膝関節の運動学	授業内容	膝関節の運動学について学習する
		予習	教科書の該当項目を読み、専門用語を調べておくこと
		復習	教科書と講義資料を整理し、内容を理解する

22	膝関節の臨床と運動学	授業内容	膝関節の臨床と運動学について学習する
		予習	教科書の該当項目を読み、専門用語を調べておくこと
		復習	教科書と講義資料を整理し、内容を理解する
23	足関節の運動学	授業内容	足関節の運動学について学習する
		予習	配布資料を読み、寝返り・起き上がり動作を調べておくこと
		復習	配布資料、講義資料を整理し、各動作を理解する
24	足関節の臨床と運動学	授業内容	起立・着座動作について学習する
		予習	配布資料を読み、起立・着座動作を調べておくこと
		復習	配布資料、講義資料を整理し、動作を理解する
25	授業内テスト6	授業内容	授業内テスト6
		予習	配布資料を読み、各動作を調べておくこと
		復習	配布資料、講義資料を整理し、各動作を理解する
26	脊柱の運動学	授業内容	脊柱の運動学について学習する
		予習	教科書の該当項目を読み、専門用語を調べておくこと
		復習	教科書と講義資料を整理し、内容を理解する
27	脊柱の臨床と運動学	授業内容	脊柱の臨床と運動学について学習する 歩行時の各関節の運動について学習する
		予習	配布資料を読み、専門用語を調べておくこと
		復習	配布資料、講義資料を整理し、歩行動作を理解する
28	力と動作、運動学と動作	授業内容	力と動作、運動学と動作について学習する 歩行周期における下肢全体の運動について学習する
		予習	配布資料を読み、専門用語を調べておくこと
		復習	配布資料、講義資料を整理し、歩行動作を理解する
29	筋力低下と臨床	授業内容	筋力低下と臨床について学習する
		予習	歩行の運動学1, 2, 3の講義資料を読み、内容を理解しておくこと
		復習	講義資料を整理し、分析ポイントを理解する
30	授業内テスト7	授業内容	授業内テスト7
		予習	特になし
		復習	特になし

評価法基準	定期試験は後期末に実施する。 成績評価は、定期試験 60%、授業内テスト 25%、授業内レポート 15%により成績評価を行う。
教科書	「基礎運動学」中村隆一、齋藤宏、長崎浩 医歯薬出版 「骨格筋系のキネシオロジーカラー版」Donald A..Neumann、嶋田智明 医歯薬出版
参考書	なし
履修上の注意	・運動学Ⅱは運動学Ⅰにおける学習内容を基にするため、運動学Ⅰ単位を取得していることが必須 ・運動学は解剖学・生理学を基礎としているため、それらの単位を取得していることが望ましい
オフィスアワー	午前授業日：授業終了後昼休み（12:10～12:50）、4-6 研究室 午後授業日：授業後放課後（17:50～18:30）、4-6 研究室

科目名	運動学実習		担当教員	富田 義人	
学科	理学療法学科		学年	2 学年	
学期	後期	必修 / 選択	必修	授業形態	実習
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	<p>運動学実習は、これまで学んだ解剖学・生理学・運動学の理論を基に、理学療法を展開する上で必要な運動の知識を得ることを目的とする。各動作を客観的かつ定量的に評価し、観察・測定・記録・分析を行うことにより、データの分析・解析方法と評価の流れを学習する。生体力学の基礎の講義を行った上で、生体観察と動作分析、筋力測定と筋電図、床反力計による動作解析、各種の測定から得られるデータの分析各種動作の観察と分析を実習で行う。実習の取り組みとして、少数人数の学生によってグループを形成し実習を進行していく。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 動作分析を行う上で重要な生体力学を理解する。 2. 上肢・下肢・体幹の運動器と動作を説明することができる。 3. 日常生活動作上で重要な動作を相に区分し、説明することができる。 4. 各種検査機器から得られるデータを分析し、考察を行うことができる。

No.	テーマ		内容
1	オリエンテーション	授業内容	講義目的、実習計画、評価法基準について (学内)
		予習	教科書 第1章 「運動学とは」を熟読すること。
		復習	実習計画を元に、進行の概要を理解する。
2	生体力学の基礎①	授業内容	運動の表現、力の概念とエネルギーについて(学内)
		予習	教科書 第2章 「生体力学の基礎」を熟読すること。
		復習	運動学に関する表現法、ニュートンの運動の法則、仕事・仕事率を説明することができる。
3	生体力学の基礎②	授業内容	回転運動について (学内)
		予習	教科書 第2章 「生体力学の基礎」を熟読すること。
		復習	てこや滑車の原理を、人体例で示すことができる。
4	上肢の運動学	授業内容	肩関節と肘関節、手関節の構造とその働きについて (学内)
		予習	教科書 第4章 「四肢・体幹の運動」上肢帯を熟読すること。
		復習	肩甲帯の筋の役割を説明し、複合体としての肩関節の機能を理解する。
5	下肢の運動学①	授業内容	股関節の構造とその働きについて (学内)
		予習	教科書 第4章 「四肢・体幹の運動」下肢帯を熟読すること。
		復習	骨盤帯の筋を説明し、その作用を示すことができる。
6	下肢の運動学②	授業内容	膝関節の構造とその役割について (学内)
		予習	教科書 第4章 「四肢・体幹の運動」下肢帯を熟読すること。
		復習	膝関節の構造を踏まえ、運動の特徴と障害について説明することができる。
7	下肢の運動学③	授業内容	足関節の構造とその役割について (学内)
		予習	教科書 第4章 「四肢・体幹の運動」下肢帯を熟読すること。
		復習	足部のアーチ構造を理解し、姿勢との関係性を説明することができる。

8	体幹の運動学	授業内容	体幹の構造とその役割について (学内)
		予習	教科書 第4章 「四肢・体幹の運動」体幹を熟読すること。
		復習	体幹の層構造と働きを示し、呼吸との関係性を説明することができる。
9	運動と動作の分析	授業内容	動作分析の方法の学習 (学内)
		予習	教科書 第5章 「運動と動作の分析」を熟読すること。
		復習	動作分析を行う上で必要な用語を理解し、使用することができる。
10	姿勢の分析	授業内容	姿勢の分類、評価基準等の学習、分析の実践 (学内)
		予習	教科書 第7章 「姿勢」を熟読すること。
		復習	姿勢の分析を行う上で必要な用語を理解し、使用することができる。
11	寝返り動作の分析	授業内容	寝返り動作の評価基準等の学習、分析の実践 (学内)
		予習	前回の授業内容を踏まえ、次のテーマ・範囲の情報を得ておくこと。
		復習	寝返り動作の相を理解し、パターンを説明することができる。
12	立ち上がり動作の分析	授業内容	立ち上がり動作の評価基準等の学習、分析の実施 (学内)
		予習	前回の授業内容を踏まえ、次のテーマ・範囲の情報を得ておくこと。
		復習	立ち上がり動作の相を理解し、自分の身体で模倣することができる。
13	歩行の分析 ①	授業内容	歩行の相の理解と運動力学 (学内)
		予習	教科書 第8章 「歩行と走行」を熟読すること。
		復習	歩行の分析を行う上で必要な用語を使用することができる。
14	歩行の分析 ②	授業内容	姿勢分析の実践 (学内)
		予習	前回の授業内容を踏まえ、次のテーマ・範囲の情報を得ておくこと。
		復習	グループワークでの所見を再確認し、歩行の理解を深める。
15	運動力学的分析	授業内容	各種検査機器による運動力学的分析の学習
		予習	前回の授業内容を踏まえ、次のテーマ・範囲の情報を得ておくこと。
		復習	検査機器の種類・使用法を理解し、実際に測定した数値から、考察を行う。

評価法基準	定期試験 70%、授業内レポート 30%。 基準：講義・実習から学んだ知識を、定期試験とレポートにて評価する。 フィードバック：講義ならびに実習での疑問に対し、随時、フィードバックを実施する。
教科書	「基礎運動学」中村隆一、齋藤宏、長崎浩著 医歯薬出版 「筋骨格系のキネシオロジー」 Donald A. Neumann 原著/P.D. Andrew・有馬慶美・日高正巳 監訳 医歯薬出版
参考書	なし
履修上の注意	毎回、実習着を着用する。 スマートフォン、タブレット、ノート PC など画像や動画を再生・編集できるものを持参。
オフィスアワー	火曜 (12:10-12:50)、3-14 研究室

科目名	運動生理学		担当教員	田中 直樹	
学科・専攻	理学療法学科		学年	2 学年	
学期	前期	必修 / 選択	必修	授業形態	講義
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	運動生理学とは、運動によってヒトの身体の機能・構造にどのような変化が生じるのか、その現象と仕組みについて理解する学問である。解剖学・生理学を基礎として運動による生理学的変化やトレーニングによる生理学的変化について学修する。また、疾患に対する運動効果や加齢・老化に対する身体機能の変化を知ることによって運動療法の意義を運動生理学的の視点から理解する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・運動が身体に及ぼす影響（筋、循環、呼吸、関節、体温、内分泌、栄養）を運動生理学の視点から説明することができる。 ・疾患に対する運動の意義を運動生理学の視点から説明することができる。

No.	テーマ		内容
1	運動生理学の基礎	授業内容	生体恒常性について学修する。
		予習	教科書の該当項目を読み、専門用語を調べておくこと
		復習	教科書と講義資料を整理し、内容を理解する
2	筋の運動生理学 1	授業内容	筋収縮とエネルギー供給、筋線維の種類について学修する。
		予習	教科書の該当項目を読み、専門用語を調べておくこと
		復習	教科書と講義資料を整理し、内容を理解する
3	筋の運動生理学 2	授業内容	筋収縮における神経系の役割、筋収縮様式と筋力について学修する。
		予習	教科書の該当項目を読み、専門用語を調べておくこと
		復習	教科書と講義資料を整理し、内容を理解する（60分）
4	呼吸の運動生理学 1	授業内容	呼吸器の構造と換気メカニズムについて学修する。
		予習	教科書の該当項目を読み、専門用語を調べておくこと
		復習	教科書と講義資料を整理し、内容を理解する
5	呼吸の運動生理学 2	授業内容	ガス交換と呼吸循環応答について学修する。
		予習	教科書の該当項目を読み、専門用語を調べておくこと
		復習	教科書と講義資料を整理し、内容を理解する
6	循環の運動生理学 1	授業内容	循環器の構造と心血管の調整について学修する。
		予習	教科書の該当項目を読み、専門用語を調べておくこと
		復習	教科書と講義資料を整理し、内容を理解する
7	循環の運動生理学 2	授業内容	血圧と血圧調整について学修する。
		予習	教科書の該当項目を読み、専門用語を調べておくこと
		復習	教科書と講義資料を整理し、内容を理解する
8	関節の運動生理学	授業内容	関節の構造、関節運動、滑液と潤滑機能などについて学修する。
		予習	教科書の該当項目を読み、専門用語を調べておくこと
		復習	教科書と講義資料を整理し、内容を理解する

9	体温の運動生理学	授業内容	体温の生理的変動、体温調節機構、運動と体温調節などについて学修する。
		予習	教科書の該当項目を読み、専門用語を調べておくこと
		復習	教科書と講義資料を整理し、内容を理解する
10	ホルモンの運動生理学	授業内容	ホルモン、運動時におけるホルモン調節などについて学修する。
		予習	教科書の該当項目を読み、専門用語を調べておくこと
		復習	教科書と講義資料を整理し、内容を理解する
11	栄養の運動生理学	授業内容	栄養素、エネルギー代謝、栄養と運動などについて学修する。
		予習	教科書の該当項目を読み、専門用語を調べておくこと
		復習	教科書と講義資料を整理し、内容を理解する
12	身体組成とトレーニング	授業内容	身体組成モデル、身体組成異常、トレーニング効果などについて学修する。
		予習	教科書の該当項目を読み、専門用語を調べておくこと
		復習	教科書と講義資料を整理し、内容を理解する
13	運動処方	授業内容	運動処方について学習する。
		予習	教科書の該当項目を読み、専門用語を調べておくこと
		復習	教科書と講義資料を整理、内容を理解する
14	運動と生活習慣病	授業内容	腎機能と腎機能、代謝機能に与える運動の影響などについて学修する。
		予習	教科書の該当項目を読み、専門用語を調べておくこと
		復習	教科書と講義資料を整理し、内容を理解する
15	加齢と運動	授業内容	加齢の組織への影響、高齢者のトレーナビリティなどについて学修する。
		予習	教科書の該当項目を読み、専門用語を調べておくこと
		復習	教科書と講義資料を整理し、内容を理解する

評価法基準	定期試験 80%、授業内復習テスト 20%
教科書	「リハビリテーション運動生理学」 玉木彰監修
参考書	「入門運動生理学」 勝田茂編著
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・運動生理学は解剖学・生理学を基礎としているため、それらの単位を取得していることが望ましい。 ・復習テストを毎回講義開始 5 分程度で行うため、講義内容を十分復習し理解すること。 ・資料は電子媒体で配布します。授業時には各自で印刷するか資料が閲覧できるデバイスを持参してください。
オフィスアワー	金曜日 (12:10~12:50) 3-15 研究室

科目名	人間発達学		担当教員	新田 収	
学科	理学療法学科		学年	1 学年	
学期	後期	必修 / 選択	必修	授業形態	講義
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	<p>本科目では、発育・成長・発達（狭義）を新生児期から終末期までを発達（広義）に捉えて、運動発達と精神心理的な発達を中心として、講義を通じて学ぶ。特に、成人から老年期、終末期では、さまざまな退化や退行による課題も一連の流れとして捉えることやライフサイクルという観点からの対人関係やコミュニケーション、また成人期以降の退化・退行などについての「ひと」としての一生涯という全体的な観点で理解することを目標とする。</p>
到達目標	<p>①人の発生から、終焉までの過程を理解できること。 ②小児の運動発達、精神発達について過程を理解できること。 ③加齢による心身の変化を理解できること。</p>

No.	テーマ		内容
1	発達の概念	授業内容	人間発達期の区分、発達に関する定義
		予習	特に無し
		復習	授業内容をまとめておくこと
2	骨と筋の発生	授業内容	骨と筋の発生
		予習	前回授業をまとめておくこと
		復習	授業内容をまとめておくこと
3	1歳までの運動発達	授業内容	運動発達 1
		予習	前回授業をまとめておくこと
		復習	授業内容をまとめておくこと
4	姿勢反射	授業内容	姿勢反射と運動発達の関係
		予習	前回授業をまとめておくこと
		復習	授業内容をまとめておくこと
5	1歳からの運動発達	授業内容	運動発達 2
		予習	前回授業をまとめておくこと
		復習	授業内容をまとめておくこと
6	運動イメージの発達	授業内容	運動イメージの発達
		予習	前回授業をまとめておくこと
		復習	授業内容をまとめておくこと
7	運動発達のまとめ、小テスト	授業内容	運動発達のまとめと小テスト
		予習	前回授業をまとめておくこと
		復習	授業内容をまとめておくこと
8	感覚の発達	授業内容	感覚の発達
		予習	前回授業をまとめておくこと
		復習	授業内容をまとめておくこと

9	発達障害における感覚発達異常	授業内容	発達障害における感覚発達異常
		予習	前回授業をまとめておくこと
		復習	授業内容をまとめておくこと
10	認知発達	授業内容	認知の発達
		予習	前回授業をまとめておくこと
		復習	授業内容をまとめておくこと
11	コミュニケーション・社会性の発達	授業内容	コミュニケーション・社会性の発達
		予習	前回授業をまとめておくこと
		復習	授業内容をまとめておくこと
12	発達障害におけるコミュニケーション発達	授業内容	発達障害におけるコミュニケーション発達
		予習	前回授業をまとめておくこと
		復習	授業内容をまとめておくこと
13	日常生活活動の発達	授業内容	日常生活活動の発達
		予習	前回授業をまとめておくこと
		復習	授業内容をまとめておくこと
14	青年期・成人期・老年期の特徴	授業内容	青年期の特徴・成人期・老年期の特徴
		予習	前回授業をまとめておくこと
		復習	授業内容をまとめておくこと
15	授業のまとめ	授業内容	授業のまとめ
		予習	前回授業をまとめておくこと
		復習	授業内容をまとめておくこと

評価法基準	定期試験 80 %，授業内小テスト 20%
教科書	「発達障害の不思議な世界」. 新田収, ヒューマンプレス, 2021
参考書	なし
履修上の注意	詳細は講義初日に伝達する。
オフィスアワー	質問等は授業の前後に受け付ける。

科目名	病理学		担当教員	村井 達哉	
学科	理学療法学科		学年	3 学年	
学期	前期	必修 / 選択	必修	授業形態	講義
単位数	1 単位	時間数	15 時間	回数	8 回

授業概要	病理学は、疾病と症候の意義と分類、病因となる内因と外因を踏まえ、退行性病変、循環障害、進行性病変、炎症、免疫疾患、アレルギー疾患、腫瘍、先天異常などに含まれる主要疾患について理解することを目的とする。具体的には疾病の原因、発生メカニズム、経過と転帰などについて細胞、組織、臓器などの形態の変化の点から学ぶ。
到達目標	1) 進行性・退行性病変、循環障害、炎症、腫瘍、奇形などの疾患群を総論的に説明できる。 2) 疾患に関わる病理学的用語を理解し正しく使える。 3) 他の講座で学ぶ疾患と本講座の知識との関連性を見出し説明できる。

No.	テーマ		内容
1	病理学の概要 病因論(1)	授業内容	病理学の目的、医療における病理の役割、疾病の原因（外因・内因）を理解する
		予習	病理診断科とは何をする診療科か調べておく。メンデルの法則を復習しておく
		復習	授業内容をまとめておく
2	病因論(2)	授業内容	疾病の原因（外因・内因）を理解する
		予習	物理学、化学、生物学の知識を整理しておく
		復習	授業内容をまとめておく
3	進行性病変 退行性病変	授業内容	退行性病変・進行性病変について学ぶ
		予習	人体の正常な構造・機能について復習しておく
		復習	萎縮・変性・壊死・肥大・過形成・再生・化生の定義を見直しておく
4	循環障害(1)	授業内容	血液循環の基礎、循環障害の病因・病態について理解する
		予習	解剖・生理学で学んだ体液循環の内容を復習しておく
		復習	授業内容をまとめておく
5	循環障害(2) 炎症(1)	授業内容	循環障害の病因・病態について理解する。炎症の意義・徴候を理解する
		予習	生理学で学んだ免疫機構の内容を復習しておく
		復習	授業内容をまとめておく
6	炎症(2) 腫瘍(1)	授業内容	アレルギー、炎症仲介物質について理解する。腫瘍の定義や特徴を理解する
		予習	解剖学で学んだ上皮性組織・非上皮性組織について復習しておく
		復習	良性腫瘍と悪性腫瘍の違いを比較して理解する
7	腫瘍(2)	授業内容	腫瘍の形態、悪性腫瘍の進展形式、がんの発生原因を学ぶ
		予習	代表的な発がん物質を調べておく
		復習	授業内容をまとめておく
8	先天奇形	授業内容	先天奇形について学ぶ
		予習	人体の発生の概要について理解しておく
		復習	授業内容をまとめておく

評価法基準	定期試験の成績を基本とするが、授業への取り組み姿勢を加味することがある。
教科書	「疾病のなりたち 第14版」 医学書院
参考書	なし
履修上の注意	本講座で学ぶ医学用語・病理学用語につき、その定義や概念を確実に習得して欲しい。
オフィスアワー	授業の前後、またはメールにて対応。 E-mail : duo280c@nifty.ne.jp

科目名	臨床心理学		担当教員	小野寺 哲夫	
学科	理学療法学科		学年	1 学年	
学期	後期	必修 / 選択	必修	授業形態	講義
単位数	1 単位	時間数	15 時間	回数	8 回

授業概要	臨床心理学は、医療専門職として臨床実践する際の基礎（コア）となる学問である。患者のニーズを的確に把握し、患者から信頼されるためには、臨床心理学の知識と対人援助スキルは必要不可欠である。具体的には、フロイト精神分析学の基礎や認知行動療法、医療実践において必須であると考えられるロジャーズの対人援助技法としての傾聴技法や共感技法などのカウンセリング技法から各種心理検査法、各種心理療法の基本的な考え方や実践法までについて、座学と演習を通して学ぶ。
到達目標	・臨床心理学では、患者のニーズを的確に把握し、患者から信頼される医療専門職になるために必要不可欠な対人援助理論、心理検査法、各種心理療法の理論と実際について説明できる。また、対人援助スキルについては模倣できるようになる。

No.	テーマ		内容
1	臨床心理学 の総論	授業内容	臨床心理学とは何か？心理学と臨床心理学の違いは何か？などについての総論について講義する。
		予習	前期に学習した「心理学」の講義内容を復習しておくこと。
		復習	講義内容をまとめておくこと。
2	精神分析学	授業内容	フロイトの精神分析理論の基本的な考え方について、講義を通して学ぶ。特に、フロイトが提唱した心の構造論と葛藤などに焦点を当てる。
		予習	ジグムント・フロイトの概要について教科書等で調べておくこと。
		復習	フロイトの業績や精神分析理論の概要についてまとめておくこと。
3	精神分析学 ②	授業内容	フロイトの精神分析における自我防衛機制についてと、対象関係論、およびアタッチメント理論について、講義を通して学ぶ。
		予習	フロイト精神分析における防衛機制について調べておくこと。
		復習	国試に頻出する单元なので、それぞれの防衛機制についてまとめておくこと。
4	心理アセス メント論①	授業内容	心理学、および臨床心理学分野で開発されてきた心理テストを紹介する。具体的に、いくつかの性格テスト（質問紙法）を体験してもらいながら心理テストについて学ぶ。
		予習	心理テストの種類とその概要について調べておくこと。
		復習	心理テストの3分類について、まとめておくこと。
5	心理アセス メント論②	授業内容	心理学、および臨床心理学分野で開発されてきた心理テストを紹介する。具体的に、いくつかの投影法テスト（描画法）を体験してもらいながら心理テストについて学ぶ。
		予習	心理テストの「投影法テスト」について調べておくこと。
		復習	投影法テストの特徴と目的などについてまとめておくこと。

6	心理療法総論	授業内容	PTの国試に頻出する心理療法について概観する。具体的には、20種類ほどの心理療法の特徴と概要について、全体像が掴めるように講義を通して学ぶ。
		予習	PTの国試に出題される心理療法にはどのようなものがあり、各々の特徴等について、教科書等で調べておくこと。
		復習	PTの国試に頻出する心理療法それぞれについて、その概要について整理しておくこと。
7	心理療法 ①：認知行動療法 (CBT)	授業内容	現在、臨床心理学分野で中心的な心理療法として認められている認知行動療法(CBT)、特にCBTの基本原則等について、講義を通して学ぶ。
		予習	認知行動療法(CBT)の基本的な考え方について調べておくこと。
		復習	認知行動療法(CBT)の基本原則についてまとめておくこと。
8	心理療法 ②：認知行動療法 (CBT)	授業内容	認知行動療法(CBT)の基本原則、および基本モデルについての知識をベースにして、CBTアセスメントシートの記入法からロールプレーまで演習を通して学ぶ。
		予習	CBTアセスメントシートの記入法について、調べておくこと。
		復習	CBTアセスメントシートの記入、およびロールプレーを練習してみて気づいたこと等について、まとめておくこと。

評価法基準	定期試験 80%、授業内小レポート 20%を総合して評価を行う。小レポートは毎回行われる。
教科書	「PT・OTのための臨床心理学テキスト(改訂)」小野寺哲夫 JFAパブリッシング
参考書	「ロジャーズ クライエント中心療法」佐治守夫ほか 有斐閣新書 「はじめてまなぶ行動療法」三田村仰 金剛出版 「伊藤絵美の認知行動療法入門講義 上・下」伊藤絵美 公益財団法人 矯正協会 「森田療法を学ぶ 最新技法と治療の進め方」北西憲二 金剛出版
履修上の注意	毎回、授業の最後に「小レポート」を実施する。また、自己分析や自己理解を促すための心理テスト等を、できる限り多く実施していく予定である。
オフィスアワー	木曜日(12:10~12:50) 研究室 4-8

科目名	精神医学		担当教員	佐々 毅	
実務経験	精神科病院および精神科クリニックで各 10 年以上の実務経験から、基本的な診断と治療に加え、「生活者」として患者を支える視点を持つことを方針とする。また、職域や災害メンタルヘルスにかかわった経験から、メンタルヘルスの問題はいつ、だれにでも生じるものであることを卒業後も念頭に置いて行動できる人材育成を行う。				
学科	理学療法学科		学年	3 学年	
学期	前期	必修 / 選択	必修	授業形態	講義
単位数	2 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	精神医学における面接の仕方、症候学、各種疾患を理解することで精神障害の有無や程度を把握し、適切な治療につなげられる知識や技術を学ぶ。精神障害者の処遇の歴史を学習することで、偏見を取り除き、共生社会の一員として活躍できる学生をはぐくむ。また、アスリートの身体疾患に伴うメンタル不調、精神障害者がスポーツを通じ社会参加を図るスポーツ精神医学を学ぶ。
到達目標	①精神科的面接法の内容を理解し、それに従って面接を実施できる。 ②精神科症候学に基づき精神症状を測定でき、各種疾患を鑑別できる。 ③精神障害の特性を理解し配慮できる。 ④身近な場面で起きるメンタルヘルスの問題へのプライマリーケアができる。

No.	テーマ	内容	
1	精神医学総論	授業内容	精神の異常・正常とは、精神科の治療とは何かを学び、精神医学の領域を理解する。
		予習	予習の必要はありません。
		復習	授業内容をまとめておくこと。
2	精神科面接法・診断学	授業内容	精神科の面接法、症候の見方について学ぶ。
		予習	テキスト1を読んでおくこと（必須）。
		復習	授業内容をまとめておくこと。
3	統合失調症	授業内容	統合失調症の疫学、病態、予後、治療について理解する。
		予習	テーマについて調べ、「わからない・わかりたい」ことを抽出しておくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。
4	うつ病・双極性障害①	授業内容	うつ病・双極性障害の疫学、病態、予後、治療について理解する。
		予習	テーマについて調べ、「わからない・わかりたい」ことを抽出しておくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。
5	うつ病・双極性障害②	授業内容	認知行動療法を理解し、実践する（ワークショップ）。
		予習	テキスト2を見ておくこと（必須）
		復習	ワークショップで行った内容を実践する。
6	神経症性障害及び不眠症	授業内容	パニック障害・強迫性障害等の疫学、病態、予後、治療について理解する。
		予習	テーマについて調べ、「わからない・わかりたい」ことを抽出しておくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。

7	発達障害	授業内容	発達障害や知的障害、児童青年期の精神障害の疫学、病態、予後、治療について理解する。
		予習	テーマについて調べ、「わからない・わかりたい」ことを抽出しておくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。
8	薬物関連障害	授業内容	薬物関連障害の疫学、病態、予後、治療について理解する。
		予習	テーマについて調べ、「わからない・わかりたい」ことを抽出しておくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。
9	摂食障害	授業内容	摂食障害の疫学、病態、予後、治療について理解する。
		予習	テーマについて調べ、「わからない・わかりたい」ことを抽出しておくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。
10	認知症	授業内容	認知症の疫学、病態、予後、治療、対応について理解する。
		予習	テーマについて調べ、「わからない・わかりたい」ことを抽出しておくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。
11	器質性精神障害	授業内容	身体疾患に伴う精神障害の疫学、病態、予後、治療について理解する。
		予習	テーマについて調べ、「わからない・わかりたい」ことを抽出しておくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。
12	法と精神医学	授業内容	精神疾患の治療に必要な法律、及び法を通じた精神障害者処遇の歴史を理解する。
		予習	テーマについて調べ、「わからない・わかりたい」ことを抽出しておくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。
13	集団や状況による精神医学的問題	授業内容	職場等の集団や災害場面におけるメンタルヘルスの問題とその対処を理解する。
		予習	テーマについて調べ、「わからない・わかりたい」ことを抽出しておくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。
14	スポーツ精神医学	授業内容	アスリートの精神障害、精神障害者スポーツの有用性を理解する。
		予習	テーマについて調べ、「わからない・わかりたい」ことを抽出しておくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。
15	まとめ	授業内容	あらためて精神障がいとは何かを考える（ワークショップ）。
		予習	予習の必要はありません。
		復習	個人として、職業人として精神障がい者にどう相對するか、社会における精神障がい者の処遇から見たおよびダイバーシティについて考えてください。

評価法基準	講義内で教える基本的知識の評価（定期試験）60% ワークショップで得た課題の抽出と解決のプロセスを論理的思考で展開できるかの評価（レポート）40%
教科書	「新訂 方法としての面接」土居健郎 医学書院 1992年
参考書	こころのスキルアップ・トレーニング https://www.cbtjp.net/
履修上の注意	具体的な予習項目は各授業の最後に提示します。復習については各授業の最初に振り返りを行います。授業内で得た個人情報は他者に話さないようお願いします。
オフィスアワー	UNIVERSAL PASSPORT の授業 Q&A で受け付ける E-mail : saspsyc@fa2.so-net.ne.jp

科目名	整形外科学		担当教員	松井 彩乃、三島 初、 半谷 美夏、原 友紀、西田雄亮	
実務経験	担当者5名はいずれも整形外科専門医で現在も所属先医療機関等で外来診療、手術など臨床を担っている。それぞれが整形外科の中でも関節診、脊椎診など専門性の高い領域のエキスパートであり、実臨床を踏まえた上で理学療法士に必要な知識を提供するに最適な講師陣である。				
学科	理学療法学科, 作業療法学科		学年	2 学年	
学期	前期	必修 / 選択	必修	授業形態	講義
単位数	2 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	本科目では、整形外科領域における外傷学等の総論と各身体部位等による各論により、理学療法の対象となりやすい運動器疾患の診断治療の概要を学ぶ。またロコモティブ・シンドロームの概念について学ぶ。診断学については各種検査の見方、考え方や観血的治療、保存治療などの治療方法について理解を深める。
到達目標	理学療法士が遭遇しやすい運動器疾患について疾患概念、診断、治療、リハビリテーションの一連の流れについて説明ができる。

No.	テーマ		内容
1	筋骨格系感染症と対応	授業内容	筋骨格系の感染症の概略を学ぶ
		予習	教科書の当該章を読み、疑問点を整理しておく
		復習	章末問題を実施し、解説を読んで理解を深める
2	頸椎・腰椎障害と対応	授業内容	脊椎の構造と機能、脊椎疾患の概略について学ぶ
		予習	教科書の当該章を読み、疑問点を整理しておく
		復習	章末問題を実施し、解説を読んで理解を深める
3	運動器の構造と機能	授業内容	骨、関節、神経、筋、腱、靭帯等の運動器の基本構造を学ぶ
		予習	教科書の当該章を読み、疑問点を整理しておく
		復習	章末問題を実施し、解説を読んで理解を深める
4	関節障害と対応	授業内容	関節の障害の概略について学ぶ
		予習	教科書の当該章を読み、疑問点を整理しておく
		復習	章末問題を実施し、解説を読んで理解を深める
5	骨折・脱臼・捻挫の特性と対応	授業内容	骨折、脱臼、捻挫の概略について学ぶ
		予習	教科書の当該章を読み、疑問点を整理しておく
		復習	章末問題を実施し、解説を読んで理解を深める
6	救急・外傷処置の特性と対応	授業内容	救急・外傷処置の概略について学ぶ
		予習	教科書の当該章を読み、疑問点を整理しておく
		復習	章末問題を実施し、解説を読んで理解を深める
7	下肢障害の特性と対応	授業内容	下肢の構造と機能、下肢疾患の概略について学ぶ
		予習	教科書の当該章を読み、疑問点を整理しておく
		復習	章末問題を実施し、解説を読んで理解を深める

8	下肢外傷と対応	授業内容	下肢の外傷と対応の概略を学ぶ
		予習	教科書の当該章を読み、疑問点を整理しておく
		復習	章末問題を実施し、解説を読んで理解を深める
9	四肢循環障害と対応	授業内容	四肢の循環障害の概略について学ぶ
		予習	教科書の当該章を読み、疑問点を整理しておく
		復習	章末問題を実施し、解説を読んで理解を深める
10	神経・筋疾患と対応	授業内容	神経疾患、筋疾患の整形外科的対応の概略を学ぶ
		予習	教科書の当該章を読み、疑問点を整理しておく
		復習	章末問題を実施し、解説を読んで理解を深める
11	脊椎・脊髄損傷と対応	授業内容	脊椎損傷、脊髄損傷の概略を学ぶ
		予習	教科書の当該章を読み、疑問点を整理しておく
		復習	章末問題を実施し、解説を読んで理解を深める
12	上肢障害の特性と対応	授業内容	上肢の構造と機能、上肢疾患の概略について学ぶ
		予習	教科書の当該章を読み、疑問点を整理しておく
		復習	章末問題を実施し、解説を読んで理解を深める
13	上肢外傷と対応	授業内容	上肢の外傷と対応の概略について学ぶ
		予習	教科書の当該章を読み、疑問点を整理しておく
		復習	章末問題を実施し、解説を読んで理解を深める
14	まとめ	授業内容	整形外科疾患の概略について復習する
		予習	教科書全体で学んだ点、疑問点を整理しておく
		復習	章末問題全般を復習する
15	筋骨格系腫瘍と対応	授業内容	筋骨格系の腫瘍の概略について学ぶ
		予習	教科書の当該章を読み、疑問点を整理しておく
		復習	章末問題を実施し、解説を読んで理解を深める

評価法基準	定期試験 100%
教科書	「新版 筋骨格障害学—理学療法学科・作業療法学科の整形外科学」 和田野安良監修、六崎裕高著 理工図書 メディカルスタッフ専門基礎科目シリーズ
参考書	なし
履修上の注意	履修順序がシラバス及び教科書の順番と異なるため、日程をよく確認しておくこと。(順番は初日にガイダンスを行う。) 章末問題をまんべんなく回答できるよう熟読すること。中途半端な知識で臨床に臨むと、患者の状態を悪化させる。臨床上即戦力となれるよう真摯に学んでほしい。
オフィスアワー	質問等は授業の前後に受け付ける。

科目名	神経内科学		担当教員	草野 修輔	
実務経験	20年以上にわたり、リハビリテーション専門医として、臨床において神経内科疾患に関するリハビリテーション医療を行ってきた。また大学において、理学療法学科の学生に神経内科の講義も行ってきた。その経験を活かし、解剖・生理に関する理解はもちろん、臨床におけるリハビリテーションでも活用できるよう各種神経疾患についてわかりやすく講義する				
学科	理学療法学科		学年	2 学年	
学期	前期	必修 / 選択	必修	授業形態	講義
単位数	2 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	リハビリテーション医療の対象疾患としては、脳卒中、変性性疾患、感染性疾患、腫瘍性疾患など、多くの神経系疾患があるため、リハビリテーション医療に必要な神経内科領域の疾患の知識だけでなく、解剖学的基礎知識、画像診断学、診療技術について理解を深める
到達目標	<p>①神経疾患の理解の基礎となる神経系解剖と働きについて説明できる</p> <p>②神経疾患の診断に必要な画像診断について、その働きと実際の画像診断について説明できる</p> <p>③各種神経疾患について、病態、症状、診断法、治療法などについて説明できる</p> <p>④神経疾患の診断、障害の評価などについての診療技術を習得できる</p>

No.	テーマ		内容
1	神経解剖	授業内容	神経系のマクロ解剖学、ミクロ解剖学
		予習	神経系統の解剖について概略を理解しておく
		復習	授業内容をまとめておくこと
2	神経診断学 その①	授業内容	脳神経系、自律神経系の働き、反射
		予習	各種神経機能について概略を理解しておく
		復習	授業内容をまとめておくこと
3	神経診断学 その②	授業内容	運動機能・感覚機能と運動障害・感覚障害
		予習	運動機能・感覚機能とその障害について概略を理解しておく
		復習	授業内容をまとめておくこと
4	神経診断学 その③	授業内容	各種高次脳機能とその障害
		予習	各種高次脳機能について概略を理解しておく
		復習	授業内容をまとめておく
5	神経診断学 その④	授業内容	画像診断学、電気生理学的診断法
		予習	各種画像検査機器・電気生理学的機器について概略を理解しておく
		復習	授業内容をまとめておく
6	脳血管疾患 その①	授業内容	分類、診断、評価法
		予習	脳血管疾患の分類、診断などについて概略を理解しておく
		復習	授業内容をまとめておく
7	脳血管疾患 その②	授業内容	脳血管疾患に伴う各種障害評価と急性期リハビリテーション
		予習	脳血管疾患に伴う各種障害やリハビリテーションについて概略を理解しておく
		復習	授業内容をまとめておく

8	感染症 腫瘍性疾患	授業内容	神経系の感染症、神経系の腫瘍性疾患
		予習	神経系の感染症・腫瘍性疾患について概略を理解しておく
		復習	授業内容をまとめておく
9	変性性疾患	授業内容	パーキンソン病、その他の神経変性性疾患
		予習	各種変性性疾患について概略を理解しておく
		復習	授業内容をまとめておく
10	脱髄性疾患 ニューロパ チー	授業内容	多発性硬化症、視神経脊髄炎、各種末梢神経疾患など
		予習	脱髄性疾患、ニューロパチーについて概略を理解しておく
		復習	授業内容をまとめておく
11	ミオパチー	授業内容	筋ジストロフィー、多発性筋炎など
		予習	各種ミオパチーについて概略を理解しておく
		復習	授業内容をまとめておく
12	運動ニュー ロン疾患	授業内容	筋萎縮性側索硬化症、脊髄性筋萎縮症など
		予習	各種運動ニューロン疾患について概略を理解しておく
		復習	授業内容をまとめておく
13	機能性疾患	授業内容	てんかん、頭痛、めまい、ナルコレプシーなど
		予習	各種機能性疾患について概略を理解しておく
		復習	授業内容をまとめておく
14	先天性疾患	授業内容	進行性筋ジストロフィー、脳性麻痺、二分脊椎など
		予習	進行性筋ジストロフィー、脳性麻痺、二分脊椎について概略を理解しておく
		復習	授業内容をまとめておく
15	認知症	授業内容	認知症の分類、診断、症状、予防
		予習	認知機能障害、認知症について概略を理解しておく
		復習	授業内容をまとめておく

評価法基準	定期試験 90%、授業内小テスト 10% 基準：定期試験をメインの評価基準とするが、各講義後の小テストについても、講義のまとめをかねて、評価する。
教科書	なし
参考書	なし
履修上の注意	神経疾患については、その理解の基礎となる神経系の解剖と生理、画像診断などが重要である。さらにリハビリテーション医療に生かすためには、神経疾患から生ずる障害に対する理解も重要である。このため、単に神経疾患の理解だけではなく、障害の理解とそれをどのようにリハビリテーション医療に生かしていけるかを絶えず考えながら講義、実習に臨むこと。
オフィスアワー	

科目名	小児科学		担当教員	江添 隆範	
学科	理学療法学科		学年	3 学年	
学期	後期	必修 / 選択	必修	授業形態	講義
単位数	1 単位	時間数	15 時間	回数	8 回

授業概要	<p>小児科が対象とする 0 歳から 16 歳までを中心とした年齢期に発症等による疾患疾病の発現機序等の診断（検査含む）等の総論と感染、代謝、神経・筋等の疾患疾病の診断と治療の各論について、講義を通じて学ぶ。</p> <p>内容としては、診断学のうち各種検査の結果の考え方（X 線、CT や MRI、その他の発達学的諸検査を含む）や投薬等の治療方法について理解する。</p> <p>なお、新生児期に関連する周産期や胎児期からの染色体異常等、また年齢に因らず治療を必要とする場合の青年期や成人期等の対象についても、可能な限り取り扱う。</p>
到達目標	<p>① 小児の特性を理解する</p> <p>② 小児の発達を理解する</p> <p>③ 小児特有の疾患を理解する</p>

No.	テーマ		内容
1	小児の特性 小児の発達	授業内容	胎児から小児期の身体的変化 発達の理解
		予習	胎内から出生後の小児期に起きる様々な変化があること 典型的な発達想像する
		復習	授業内容のまとめ
2	小児保健 診察/治療	授業内容	健診、ワクチンなどの小児保健
		予習	上記を想定しておく 可能なら自分の母子手帳を見ておく
		復習	月齢、年齢ごとに発達や反射をまとめる ワクチンなどの理解
3	新生児 遺伝学	授業内容	新生児の特性、新生児の疾患 臨床遺伝学や染色体異常症を中心に説明
		予習	簡単な遺伝学の教科書（高校の教科書等）やサイトの確認
		復習	授業内容のまとめ
4	小児神経学	授業内容	2 回にわたり、先天性疾患、髄膜炎、脳症、てんかん、筋疾患、発達障害を解説
		予習	発達の理解、すでに履修している筋疾患や発達障害などがあれば確認する
		復習	授業内容のまとめ
5	小児循環器 感染症	授業内容	先天性心疾患や川崎病 小児特有の感染症
		予習	内科で関連領域があれば確認しておく
		復習	授業内容の確認
6	消化器疾患 内分泌疾患	授業内容	小児の先天性消化器疾患 成長ホルモンや甲状腺ホルモンの異常
		予習	生理学の知識の確認
		復習	授業内容のまとめ
7	血液・腫瘍 腎疾患	授業内容	血液疾患としては白血病や血友病など ネフローゼなどの腎疾患
		予習	内科関連領域の確認
		復習	授業内容のまとめ

8	アレルギー	授業内容	喘息、アトピー性皮膚炎など 重症心身障害児・者や医ケア児の医療
	重症心身障	予習	神経疾患の復習
	害	復習	授業内容のまとめ

評価法基準	評価法：定期試験
教科書	標準理学療法・作業療法学 小児科学 最新版 医学書院
参考書	特にありませんが、関連学会のホームページを講義で示します。また講義中の資料にも教科書の補足的な知識を記載します
履修上の注意	可能な限り、講義中に理解して、講義時間を最大限に活かして下さい。 講義の進行は、内容により若干のずれが生じる可能性があります。
オフィスアワー	授業の前後で受付ける

科目名	内科学		担当教員	佐久間 肇	
学科	理学療法学科		学年	2 学年	
学期	後期	必修 / 選択	必修	授業形態	講義
単位数	2 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	リハビリテーション医学は、当初、肢体不自由を中心に発展してきたが、今やリハビリテーションの対象は肢体不自由にとどまらず、視覚障害、聴覚障害、嚥下・言語機能障害、高次脳機能障害、さらには内部障害、がんなどにも広がっている。内科学では、内部障害の原因となる内科疾患やがん、他の障害にも合併することが多い内科疾患について、理学療法士として必須の知識を習得する。
到達目標	内科疾患（循環器疾患、呼吸器疾患、消化器疾患、内分泌・代謝疾患、血液疾患、腎臓疾患、膠原病）について以下を目標にする。 ① 疾患を分類し、それぞれの病因・病態の概要を説明できる。 ② 代表的な疾患の発症様式と症候、診断の要点を説明できる。 ③ 代表的な疾患の治療と予後について概説できる。

No.	テーマ		内容
1	総論 1	授業内容	診察の流れ、身体診察法、疾病の要因、障害に対する細胞の反応
		予習	参考書等で授業の該当部分を調べておくこと
		復習	授業で配布され、自分で追加記載した資料で復習すること
2	総論 2	授業内容	内科疾患の症候（発熱、動悸、咳・痰、呼吸困難、胸痛と腹痛、浮腫など）
		予習	参考書等で授業の該当部分を調べておくこと
		復習	授業で配布され、自分で追加記載した資料で復習すること
3	総論 3	授業内容	尿・便・血液、生理機能検査、画像検査
		予習	参考書等で授業の該当部分を調べておくこと
		復習	授業で配布され、自分で追加記載した資料で復習すること
4	循環器 1	授業内容	虚血性心疾患、不整脈
		予習	参考書等で授業の該当部分を調べておくこと
		復習	授業で配布され、自分で追加記載した資料で復習すること
5	循環器 2	授業内容	心不全、弁膜症、心筋・心膜疾患
		予習	参考書等で授業の該当部分を調べておくこと
		復習	授業で配布され、自分で追加記載した資料で復習すること
6	循環器 3	授業内容	高血圧、脈管疾患、先天性心疾患
		予習	参考書等で授業の該当部分を調べておくこと
		復習	授業で配布され、自分で追加記載した資料で復習すること
7	呼吸器 1	授業内容	慢性閉塞性肺疾患、肺腫瘍、胸膜疾患など
		予習	参考書等で授業の該当部分を調べておくこと
		復習	授業で配布され、自分で追加記載した資料で復習すること
8	呼吸器 2	授業内容	肺感染症、間質性肺炎、ARDS、肺血栓塞栓症など
		予習	参考書等で授業の該当部分を調べておくこと
		復習	授業で配布され、自分で追加記載した資料で復習すること

9	消化器 1	授業内容	消化管疾患（食道・胃・十二指腸・小腸・大腸疾患）
		予習	参考書等で授業の該当部分を調べておくこと
		復習	授業で配布され、自分で追加記載した資料で復習すること
10	消化器 2	授業内容	肝臓・胆道系・すい臓疾患
		予習	参考書等で授業の該当部分を調べておくこと
		復習	授業で配布され、自分で追加記載した資料で復習すること
11	内分泌・代謝	授業内容	下垂体、副腎疾患、甲状腺・副甲状腺疾患、糖尿病など
		予習	参考書等で授業の該当部分を調べておくこと
		復習	授業で配布され、自分で追加記載した資料で復習すること
12	血液	授業内容	貧血、多血症、血小板異常・凝固系異常、白血病、悪性リンパ腫、骨髄腫
		予習	参考書等で授業の該当部分を調べておくこと
		復習	授業で配布され、自分で追加記載した資料で復習すること
13	腎臓	授業内容	腎不全、CKD、糸球体腎炎、ネフローゼ症候群など
		予習	参考書等で授業の該当部分を調べておくこと
		復習	授業で配布され、自分で追加記載した資料で復習すること
14	膠原病 1	授業内容	SLE、SSc、多発性筋炎//皮膚筋炎、MCTD
		予習	参考書等で授業の該当部分を調べておくこと
		復習	授業で配布され、自分で追加記載した資料で復習すること
15	膠原病 2	授業内容	RA、SJS、ベーチェット病、結節性多発血管炎
		予習	参考書等で授業の該当部分を調べておくこと
		復習	授業で配布され、自分で追加記載した資料で復習すること

評価法基準	期末試験を基本（100%）にして、授業内レポート成績を加味して総合的に判定する。
教科書	なし
参考書	病気がみえる（シリーズ）、メディックメディア
履修上の注意	なし
オフィスアワー	質問は授業の前後で受け付ける。

科目名	老年医学		担当教員	草野 修輔	
学科	理学療法学科		学年	3 学年	
学期	後期	必修 / 選択	必修	授業形態	講義
単位数	2 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	<p>老年医学が対象とする加齢に伴う機能的変化を主変とする疾患疾病の発現機序等による診断（検査を含む）等の総論と内科疾患を中心とするほか、認知症を含めた診断と治療の各論について、またフレイルなど健康寿命の延伸の阻害要因なども、講義を通じて学ぶ。</p> <p>内容としては、診断学のうち各種検査の結果とその考え方（認知機能評価、CT や MRI 等を含む）や投薬等の治療方法について理解する。</p> <p>なお、がんに限らず、終末期や緩和ケアの考え方、健康寿命の延伸についても本科目で取り扱う。</p>
到達目標	<p>①加齢に伴う心身の変化について説明できる</p> <p>②老年期にみられる疾患の診断・治療について説明できる</p> <p>③高齢者をとりまく医療・介護の環境・制度について説明できる</p>

No.	テーマ		内容
1	老年医学とは、加齢と老化	授業内容	老年医学を学ぶための基本的な事項
		予習	高齢者の定義、老化、加齢に伴う各種変化などについて理解しておく
		復習	授業中に復習を指示した箇所を再確認しておくこと
2	高齢者へのアプローチ	授業内容	高齢者へのアプローチ
		予習	高齢者への接し方、高齢者の機能評価について理解しておく
		復習	授業中に復習を指示した箇所を再確認しておくこと
3	老年症候群	授業内容	老年症候群
		予習	老年症候群について理解しておく
		復習	授業中に復習を指示した箇所を再確認しておくこと
4	循環器疾患	授業内容	循環器疾患
		予習	循環器疾患について理解しておく
		復習	授業中に復習を指示した箇所を再確認しておくこと
5	呼吸器疾患	授業内容	呼吸器疾患
		予習	呼吸器疾患について理解しておく
		復習	授業中に復習を指示した箇所を再確認しておくこと
6	消化器疾患	授業内容	消化器疾患
		予習	消化器疾患について理解しておく
		復習	授業中に復習を指示した箇所を再確認しておくこと
7	神経疾患	授業内容	神経疾患
		予習	神経疾患について理解しておく
		復習	授業中に復習を指示した箇所を再確認しておくこと

8	認知症と精神疾患	授業内容	認知症と精神疾患
		予習	認知症と精神疾患について理解しておく
		復習	授業中に復習を指示した箇所を再確認しておくこと
9	糖尿病と内分泌疾患、血液・免疫疾患、腎疾患、泌尿器疾患	授業内容	糖尿病と内分泌疾患、血液・免疫疾患、腎疾患、泌尿器疾患
		予習	糖尿病と内分泌疾患、血液・免疫疾患、腎疾患、泌尿器疾患について理解しておく
		復習	授業中に復習を指示した箇所を再確認しておくこと
10	骨・運動器疾患	授業内容	骨・運動器疾患
		予習	骨・運動器疾患について理解しておく
		復習	授業中に復習を指示した箇所を再確認しておくこと
11	皮膚・口腔疾患、感染症、耳鼻咽喉疾患、眼疾患	授業内容	皮膚・口腔疾患、感染症、耳鼻咽喉疾患、眼疾患
		予習	皮膚・口腔疾患、感染症、耳鼻咽喉疾患、眼疾患について理解しておく
		復習	授業中に復習を指示した箇所を再確認しておくこと
12	高齢者の介護と在宅医療	授業内容	高齢者の介護と在宅医療
		予習	高齢者の介護と在宅医療について理解しておく
		復習	授業中に復習を指示した箇所を再確認しておくこと
13	高齢者の緩和医療、終末期医療	授業内容	高齢者の緩和医療、終末期医療
		予習	高齢者の緩和医療、終末期医療について理解しておく
		復習	授業中に復習を指示した箇所を再確認しておくこと
14	健康寿命の延伸	授業内容	健康寿命の延伸
		予習	健康寿命の延伸について理解しておく
		復習	授業中に復習を指示した箇所を再確認しておくこと
15	要点	授業内容	老年医学の要点
		予習	14回までの講義内容を復習しておく
		復習	授業中に復習を指示した箇所を再確認しておくことと

評価法基準	定期試験（筆記試験）100%
教科書	なし
参考書	標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 老年学 第5版, 医学書院,2020 (ISBN978-4-260-03947-5)
履修上の注意	老年医学については、老化のメカニズムと老年期に特徴的な病態や疾患についての理解が重要である。高齢者における各種疾患では、多くの疾患でリハビリテーション介入が必要とされるため、単に老年期疾患の理解だけではなく、老年症候群としての理解とそれをどのようにリハビリテーション医療に生かしていけるかを絶えず考えながら講義に臨むこと。
オフィスアワー	

科目名	救急救命の基礎		担当教員	陶山 哲夫、佐久間 肇	
学科	理学療法学科		学年	2 学年	
学期	後期	必修 / 選択	必修	授業形態	実習
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	災害や屋外の公衆の出入りする場所において生じた事故、又はそれらに準ずる事故などの原因にて傷病者となった方を、医療機関その他の場所へ緊急に搬送する必要がある場合、全身状態と局所状態を速やかに評価・判定して救命・救急および必要となる処置を行えるような教育を行うものである。
到達目標	災害や事故の発生に伴う局所反応および呼吸・循環・代謝・その他の機能の評価・判定を理解して、迅速な処置を行い、救急搬送に至る流れを理解し、実行できる能力を獲得することを目標とする。

No.	テーマ		内容
1	救命の連鎖 (1)	授業内容	救助者が守ること、状況の観察と傷病者の観察、傷病者の安静法と搬送法
		予習	受傷現場の状況、傷病者の状況の把握法
		復習	全身状態の評価と搬送
2	救命の連鎖 (2)	授業内容	状況の観察と傷病者の観察、傷病者の安静法と搬送法
		予習	傷病者の状況の把握
		復習	全身・局所状態の評価と搬送
3	急性中枢疾患と頭部外傷 (1)	授業内容	急性中枢性神経疾患および頭部外傷の病態、原因、救急処置について理解する。
		予習	急性中枢神経疾患および頭部外傷について神経内科授業内容を復習しておく。
		復習	中枢神経疾患および頭部外傷の緊急度、重症度の判断、救急処置
4	急性中枢疾患と頭部外傷 (2)	授業内容	脳神経のフィジカルアセスメントについて理解し、実施できるようにする。
		予習	脳神経の解剖・機能について神経内科授業資料を見ておく。
		復習	脳神経のフィジカルアセスメントの手順と結果解釈
5	呼吸困難・胸痛 (1)	授業内容	呼吸困難および胸痛の病態、原因、救急処置について理解する。
		予習	呼吸器・循環器疾患について内科学授業内容を復習しておく。
		復習	呼吸器・循環器疾患の緊急度、重症度の判断、救急処置
6	呼吸困難・胸痛 (2)	授業内容	呼吸器・循環器系のフィジカルアセスメントについて理解、実施できるようにする。
		予習	呼吸器および循環器のフィジカルアセスメントについて内科学授業資料を見る。
		復習	胸部のフィジカルアセスメントの手順と結果解釈
7	急性腹症 (1)	授業内容	内臓痛と体性痛、急性腹症の病態と原因、救急処置について理解する。
		予習	消化器疾患について内科学授業内容を復習しておく。
		復習	急性腹症の原因と診断について
8	急性腹症 (2)	授業内容	腹部のフィジカルアセスメントについて理解し、実施できるようにする。
		予習	腹部のフィジカルアセスメントについて内科学授業資料を見ておく。
		復習	腹部のフィジカルアセスメントの手順と結果解釈
9	小児救急法 (1)	授業内容	小児の呼吸・循環・代謝の理解、および救急疾患と外傷
		予習	小児の特徴を知る
		復習	起こりやすい救急疾患と外傷の発生

10	小児救急法 (2)	授業内容	小児の救急疾患と外傷、搬送までの救急対処法
		予習	小児の特徴と輸液
		復習	救急搬送と脱水予防
11	高齢者の骨折 (1)	授業内容	高齢者の易骨折部と診断、および救急対処法
		予習	高齢者の骨折部の治療
		復習	全身状態と輸液法
12	高齢者の骨折 (2)	授業内容	高齢者の全身状態の把握と輸液法、骨折部の応急処置
		予習	高齢者の易骨折部位を知る
		復習	骨折の予防
13	熱傷・熱中 症・中毒	授業内容	熱傷の病態像と処置法、熱中症の予防と輸液法、農薬中毒・一酸化炭素中毒・金属中毒の病態と救急処置法
		予習	熱中症・熱傷・中毒の種類を知る
		復習	救急処置法を知る
14	心肺機能停 止状態 (1)	授業内容	心肺停止の病態と原因、蘇生処置に伴う循環動態の変化について理解する。
		予習	心肺停止に至る病態について調べておく。
		復習	心肺停止の病態と原因、診断
15	心肺機能停 止状態 (2)	授業内容	心肺停止状態に対する蘇生術（AED(自動体外式除細動器)使用を含む）の手順を理解し、実施できるようにする。
		予習	心肺蘇生術について調べておく
		復習	AED 使用を含む心肺蘇生術の手順

評価法基準	講義のテスト 80%, 授業後の提出課題 20%で評価する。
教科書	なし
参考書	福井大学医学部附属病院 総合診療部 教授 林 寛之、今井明秀 著、メディカ出版 「Dr. 林&今の外来でも病棟でもバリバリ役立つ！ 救急・急変対応」 介護と医療の研究会 河村雅明 監修 翔泳社 「介護現場で使える 急変時対応便利帖」
履修上の注意	全身状態の基本的な評価法（脈拍・血圧・意識状態など）を充分理解して実際に実行できるようにしておくこと。また急性期疾患・外傷や各種外傷を知っておくことがポイントである。
オフィスアワー	質問等は授業の前後に受け付ける。

科目名	薬理学		担当教員	佐久間 肇	
学科	理学療法学科		学年	3 学年	
学期	前期	必修 / 選択	必修	授業形態	講義
単位数	1 単位	時間数	15 時間	回数	8 回

授業概要	<p>疾病の回復を促進するために薬物療法は重要な役割を果たしている。一方で、薬物の多くには副作用があり、薬物副作用による運動機能障害でリハビリ対象になることもある。本科目では、薬物の取り扱いに当たって必要な、法令、各種薬物の作用機序と適応、効果と副作用について（自律神経系作用薬、中枢神経系作用薬、循環器系作用薬、血液系作用薬、消化器系作用薬、抗感染薬、抗悪性腫瘍薬など）理解し、説明できることを目標とする。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 薬物の使用を規制する法令について説明できる。 2) 薬物受容体と用量反応関係を説明できる。 3) 薬物効果に影響を及ぼす要因を説明できる。 4) 薬物の体内動態を説明できる。 5) 薬物の剤形および投与方法を説明できる。 6) 臨床で使用される代表的な薬物の薬理作用、副作用、臨床応用、使用上の注意を説明できる。

No.	テーマ		内容
1	薬理学総論	授業内容	法令、薬物の作用、薬物効果に影響する要因、薬物の動態、副作用、薬害、投与方法について理解し、説明できるようにする。
		予習	教科書の該当箇所を予め読んでおく。
		復習	講義で話した教科書部分を見直しておく。
2	自律神経作用薬	授業内容	自律神経系の役割、アドレナリン作用薬、抗アドレナリン作用薬、コリン作用薬、抗コリン作用薬の特徴、作用機序、副作用を理解し、説明できるようにする。
		予習	教科書の該当箇所を予め読んでおく。
		復習	講義で話した教科書部分を見直しておく。
3	中枢神経作用薬	授業内容	麻酔薬、催眠薬、抗てんかん薬、抗パーキンソン病薬、鎮痛薬、向精神薬、の特徴、作用機序、副作用を理解し、説明できるようにする。
		予習	教科書の該当箇所を予め読んでおく。
		復習	講義で話した教科書部分を見直しておく。
4	循環器系作用薬	授業内容	強心薬、抗不整脈薬、抗狭心症薬、抗高血圧薬、利尿薬の特徴、作用機序、副作用を理解し、説明できるようにする。
		予習	教科書の該当箇所を予め読んでおく。
		復習	講義で話した教科書部分を見直しておく。
5	血液系作用薬および呼吸器系作用薬	授業内容	貧血治療薬、抗血栓薬、喘息治療薬の特徴、作用機序、副作用を理解し、説明できるようにする。
		予習	教科書の該当箇所を予め読んでおく。
		復習	講義で話した教科書部分を見直しておく。

6	消化器系作用薬および内分泌系作用薬	授業内容	消化性潰瘍治療薬、ホルモン類似薬、抗ホルモン薬、糖尿病治療薬の特徴、作用機序、副作用を理解し、説明できるようにする。
		予習	教科書の該当箇所を予め読んでおく。
		復習	講義で話した教科書部分を見直しておく。
7	抗感染薬	授業内容	抗生物質、合成抗菌薬の特徴、作用機序、副作用を理解し、説明できるようにする。
		予習	教科書の該当箇所を予め読んでおく。
		復習	講義で話した教科書部分を見直しておく。
8	抗腫瘍薬および抗ウイルス薬	授業内容	抗腫瘍薬、抗ウイルス薬、免疫関連薬物の特徴、作用機序、副作用を理解し、説明できるようにする。
		予習	教科書の該当箇所を予め読んでおく。
		復習	講義で話した教科書部分を見直しておく。
評価法基準	定期試験期間に行う筆記試験により評価する（100%）。		
教科書	新訂版 クイックマスター薬理学（サイオ出版）		
参考書	NEW 薬理学（改訂7版）（南江堂）		
履修上の注意	薬物療法を正しく理解するためには基礎的な生理学、解剖学に関する知識が必要となります。本授業では基本的な人体の生理学、解剖学についても、講義前にこれらを各自が調べておくと講義がより良く理解できると思います。		
オフィスアワー	質問等は授業の前後に受け付ける。		

科目名	栄養学		担当教員	高橋 浩平	
学科	理学療法学科		学年	1 学年	
学期	後期	必修 / 選択	必修	授業形態	講義
単位数	1 単位	時間数	15 時間	回数	8 回

授業概要	理学療法士に必要な栄養学について学習する。理学療法の対象者は栄養障害を合併していることが多いため、栄養評価を併用する必要がある。理学療法士にも出来る栄養評価・嚥下評価の方法を知る。また、理学療法の効果を最大限高める栄養管理について知り、管理栄養士や医師、看護師などと連携しながらリハ栄養管理が実践できるようにする。
到達目標	①なぜ理学療法に栄養学が必要かを説明できる。 ②低栄養の原因を分類できる。 ③栄養評価が実施でき、栄養状態を踏まえた理学療法のゴール設定、プログラムの立案ができる。 ④栄養管理における理学療法の役割を説明できる。

No.	テーマ		内容
1	なぜ栄養学が必要か	授業内容	講義・グループワーク
		予習	教科書 p8～14
		復習	授業内容をまとめておくこと
2	栄養学の基礎	授業内容	講義・グループワーク
		予習	教科書 p16～22
		復習	授業内容をまとめておくこと
3	栄養学の基礎 2	授業内容	講義・グループワーク
		予習	教科書 p40～65
		復習	授業内容をまとめておくこと
4	栄養評価	授業内容	講義・症例検討・グループワーク
		予習	教科書 p90～95
		復習	授業内容をまとめておくこと
5	リハビリテーション栄養	授業内容	講義・グループワーク
		予習	教科書 p80～86
		復習	授業内容をまとめておくこと
6	栄養障害に対するリハ栄養	授業内容	講義・症例検討・グループワーク
		予習	教科書 p96～103
		復習	授業内容をまとめておくこと
7	嚥下と栄養サポート	授業内容	講義・症例検討・グループワーク
		予習	教科書 p104～119
		復習	授業内容をまとめておくこと

8	国家試験問題とまとめ	授業内容	講義・症例検討・グループワーク
		予習	教科書 p146～150
		復習	授業内容をまとめておくこと

評価法基準	定期試験 100%
教科書	リハベーシック 生化学・栄養学
参考書	なし
履修上の注意	なし
オフィスアワー	授業前後およびメール（授業内で指示）

科目名	リハビリテーション医学		担当教員	佐久間 肇	
学科	理学療法学科		学年	1 学年	
学期	前期	必修 / 選択	必修	授業形態	講義
単位数	1 単位	時間数	15 時間	回数	8 回

授業概要	障害を治療対象とした医学として、リハビリテーション医学は発展してきた。リハビリテーション医学の概要、リハビリテーション医学に基づく診察・評価、障害の病態生理や治療などについて学修し、リハビリテーション医学の基本的理解を目指す。またその基本的理解に基づき、主要な疾患や障害に対するリハビリテーション医学的知識を修得する。
到達目標	① リハビリテーション医学の概要を理解する。 ② リハビリテーション医学に基づく診察・評価の基礎を学習する。 ③ 主な障害の病態生理について理解する。 ④ 主な障害の治療について理解する。 ⑤ 主要な疾患に対するリハビリテーション医学的知識を学習する。

No.	テーマ		内容
1	リハビリテーション医学総論	授業内容	リハビリテーション医学の概要
		予習	事前配布資料・参考資料をよく読んでおくこと
		復習	授業内容をまとめておくこと
2	障害とその分類	授業内容	疾病・障害の概要と分類
		予習	事前配布資料・参考資料をよく読んでおくこと
		復習	授業内容をまとめておくこと
3	脊髄疾患	授業内容	脊髄疾患の評価、脊髄疾患・障害とその治療・リハビリテーション
		予習	事前配布資料・参考資料をよく読んでおくこと
		復習	授業内容をまとめておくこと
4	中枢神経系疾患	授業内容	中枢神経系疾患の症候とその検査・評価、治療とリハビリテーション
		予習	事前配布資料・参考資料をよく読んでおくこと
		復習	授業内容をまとめておくこと
5	内部障害 (循環器・呼吸器系)	授業内容	循環器系・呼吸器系内部障害の評価、治療・リハビリテーションとリスク管理
		予習	事前配布資料・参考資料をよく読んでおくこと
		復習	授業内容をまとめておくこと
6	内部障害 (代謝系他)	授業内容	代謝障害系内部障害の評価、治療とリハビリテーションとリスク管理
		予習	事前配布資料・参考資料をよく読んでおくこと
		復習	授業内容をまとめておくこと
7	骨関節系疾患	授業内容	骨・関節系疾患の評価、治療とリハビリテーション、リスク管理
		予習	事前配布資料・参考資料をよく読んでおくこと
		復習	授業内容をまとめておくこと

8	リハビリテーションに関する評価法	授業内容	チーム医療、ADL 他リハビリテーションの評価法
		予習	事前配布資料・参考資料をよく読んでおくこと
		復習	授業内容をまとめておくこと

評価法基準	定期試験 70%、中間試験 30%
教科書	授業ごとに参考資料を配布する。
参考書	なし
履修上の注意	事前に指定された授業の予習をして該当課題の参考資料をよく読んでおくこと。
オフィスアワー	質問等は授業の前後に受け付ける。

科目名	リハビリテーション概論	担当教員	大塚 幸永		
実務経験	長年、医療機関に勤務して医療保険・介護保険事業の業務を行い、リハビリテーション部門の管理者として組織のマネージメントと人材の育成を行なってきました。 その経験を生かして、リハビリテーション概論では、理学療法にかかせない基礎的知識を伝えていきます。				
学科	理学療法学科	学年	1 学年		
学期	前期	必修 / 選択	必修	授業形態	講義
単位数	1 単位	時間数	15 時間	回数	8 回

授業概要	リハビリテーションの歴史の変遷、WHO 他が提示したリハビリテーションの定義、ノーマライゼーション、リハビリテーションに関連する社会制度などについて学習する。また、障害の国際分類(ICIDH、ICF)、障害評価法、リハビリテーション治療アプローチ、チーム医療の意義と関連職種の種類や役割についても学習する。
到達目標	リハビリテーション理念・定義・障害の捉え方を理解し、理学療法に生かせるリハビリテーションの基礎的知識を身に付ける。

No.	テーマ		内容
1	概念、理念、定義	授業内容	オリエンテーション・リハビリテーションの概念・理念・定義、障害の概念と分類
		予習	テキスト第 1 章、第 2 章および関連事項の予習
		復習	授業内容をまとめておくこと
2	心理と発達	授業内容	障害の心理的・社会的視点、人の発達とリハビリテーション
		予習	テキスト第 3 章、第 4 章および関連事項の予習
		復習	授業内容をまとめておくこと
3	過程と評価	授業内容	リハビリテーションの過程と評価について
		予習	テキスト第 5 章および関連事項の予習
		復習	授業内容をまとめておくこと
4	リハビリの諸段階	授業内容	リハビリテーションの諸段階
		予習	テキスト第 6 章および関連事項の予習
		復習	授業内容をまとめておくこと
5	関連職種、チーム医療	授業内容	リハビリテーション関連職種とその役割、チームアプローチ
		予習	テキスト第 7 章、第 8 章および関連事項の予習
		復習	授業内容をまとめておくこと
6	ADL,QOL の概念、地域リハ	授業内容	ADL、QOL の概念、地域リハビリテーション
		予習	テキスト第 9 章、第 10 章、第 11 章および関連事項の予習
		復習	授業内容をまとめておくこと
7	高齢化対策、制度や法律	授業内容	医療福祉制度、関係法規
		予習	テキスト第 13 章、第 14 章および関連事項の予習する
		復習	授業内容をまとめておくこと

8	高齢化への支援	授業内容	高齢化と認知症について理解する（認知症サポーター講座含む）
		予習	テキスト第12章および関連事項の予習する
		復習	授業内容をまとめておくこと

評価法基準	期末試験 70%、授業内小テスト 30%
教科書	「医学生・コメディカルのための手引書 リハビリテーション概論 改訂第3版」 上好昭孝、田島文博編 永井書店
参考書	なし
履修上の注意	リハビリテーション概論は、理学療法にかかせない基礎的知識を身に付ける科目であり、今後の学修に必要なリハビリテーションに関わる幅広い知識を学ぶ科目です。その内容を十分に理解し、知識を身に付けられるよう努力することを求めます。 この授業の中で、認知症サポーターの講座を開催しますが、日程が変更になる場合があります。
オフィスアワー	火曜（12:10～13:00） 3-13 研究室

科目名	公衆衛生学		担当教員	佐久間 肇	
学科	理学療法学科		学年	3 学年	
学期	前期	必修 / 選択	必修	授業形態	講義
単位数	1 単位	時間数	15 時間	回数	8 回

授業概要	公衆衛生学・予防医学の概念と方法を理解し、また現状の問題点を把握する。そして、さらに将来、医療人として公衆衛生の向上、予防医学活動を実践できるようにするために必要な知識と国家試験に対応するための十分な知識を身につける。授業内容には我が国の保健統計指標の動向や意義、疾病予防、健康の保持増進、健康管理、産業保健、環境衛生に関する事項のほか、食品衛生などの衛生学の基礎知識に関する内容も含み、また環境と生活の健康の視点から環境汚染とその対策や産業中毒と職業性疾患とその対策などを取り上げる。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 用語の定義を正確に述べることができる。 2) 発生原因を列挙できる。 3) 機序や病態を説明できる。 4) 管理の実際について具体的に説明できる。 5) 予防法を具体的に述べることができる。 6) 関連する法規を列挙し、その内容を説明できる。

No.	テーマ		内容
1	公衆衛生学 序論	授業内容	公衆衛生学の考え方と目的、主な健康指標の定義と意味、生活と健康の関連、公衆衛生活動の基本と分類、生命倫理と保健医療福祉の倫理について理解し、説明できるようにする。
		予習	教科書の該当箇所を予め読んでおく。
		復習	講義で配布した資料を見直しておく。
2	地域保健と 衛生行政	授業内容	地域保健・地域医療と医療従事者の役割、地域保健活動と行政の役割、地域における保健・医療・福祉活動の連携について理解し、説明できるようにする。
		予習	教科書の該当箇所を予め読んでおく。
		復習	講義で配布した資料を見直しておく。
3	産業保健	授業内容	産業疲労の原因と検査法、産業疲労に起因する疾病と予防法、産業災害の現状、産業災害の予防対策について理解し、説明できるようにする。
		予習	教科書の該当箇所を予め読んでおく。
		復習	講義で配布した資料を見直しておく。
4	食品保健	授業内容	食品衛生学の定義、食品の安全性確保と安全基準、食品・栄養に起因する疾病の成因と病態について理解し、説明できるようにする。
		予習	教科書の該当箇所を予め読んでおく。
		復習	講義で配布した資料を見直しておく。

5	高齢者保健、医療制度	授業内容	老人の生活と健康の現状と問題点、老人保健法の役割、介護保険制度の現状と問題点、老人福祉対策の現状と問題点、医療保険制度の現状と問題点について理解し、説明できるようにする。
		予習	教科書の該当箇所を予め読んでおく。
		復習	講義で配布した資料を見直しておく。
6	母子保健	授業内容	母子保健指標の定義と意味、母子保健の現状と動向、母子保健指標からわかる現状の問題点、母子保健活動における行政の役割と母子保健対策について理解し、説明できるようにする。
		予習	教科書の該当箇所を予め読んでおく。
		復習	講義で配布した資料を見直しておく。
7	学校保健	授業内容	学齢期児童の健康状況、学校保健の組織と運営、学校保健管理、保健教育・保健指導の現状について理解し、説明できるようにする。
		予習	教科書の該当箇所を予め読んでおく。
		復習	講義で配布した資料を見直しておく。
8	環境保健	授業内容	大気汚染の原因と発生源、大気汚染物質とその健康影響、大気汚染対策、上・下水道の種類と普及状況、浄水法と下水処理法、水質汚濁の現状と対策、水質汚濁により発生した公害事件について理解し、説明できるようにする。
		予習	教科書の該当箇所を予め読んでおく。
		復習	講義で配布した資料を見直しておく。

評価法基準	定期試験期間に行う筆記試験により評価する（100%）。
教科書	わかりやすい公衆衛生学（三共出版）、国民衛生の動向（最新版）（厚生労働統計協会）
参考書	なし
履修上の注意	予習・復習を欠かさずに行ってください。
オフィスアワー	質問は授業の前後で受け付ける。

科目名	地域福祉論		担当教員	菊地 みほ	
学科	理学療法学科		学年	1 学年	
学期	前期	必修 / 選択	必修	授業形態	講義
単位数	1 単位	時間数	15 時間	回数	8 回

授業概要	地域福祉の基本的な構成要素、コミュニティ論、地域福祉の歴史的展開、地域福祉を推進する様々な組織・機関について学ぶ。古代から現代までの地域福祉について概観することで、わが国の地域福祉の課題を政治・経済・文化の歴史的展開という視点から理解する。地域福祉を推進する様々な機関や人材について学び、現在の地域福祉の課題について考える。また受講生の地域福祉への関心を高めるため、NPO 法人設立（模擬）の事例研究を行う。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ① 「地域」「コミュニティ」とは何かについて、説明することができる。 ② 地域福祉の歴史的展開と現代との関係性について、説明することができる。 ③ 自分なりの視点で現在の地域福祉の課題について論じることができる。 ④ ワークショップを通じて NPO 法人への理解を深め、設立方法について説明することができる。

No.	テーマ		内容
1	地域福祉と コミュニティ論	授業内容	講義概要、履修上の留意点、地域福祉コミュニティ論
		予習	「地域」「福祉」「コミュニティ」についてまとめておくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。
2	地域福祉の 歴史（古代 ～中世）	授業内容	古代～中世における地域福祉の歴史的展開
		予習	「奈良時代の鰥寡条」「鎌倉時代の一遍聖絵」について調べておくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。
3	地域福祉の 歴史（近代 ～現代）	授業内容	近代～現代における地域福祉の歴史的展開
		予習	「江戸時代における救貧制度」「地域包括支援センター」について調べておくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。
4	地域福祉の 課題（行 政・民間）	授業内容	地域福祉行政の現状と課題、社会福祉法人、社会福祉協議会の現状と課題
		予習	「福祉行政の問題点」「社会福祉協議会」について調べておくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。
5	地域福祉の 課題 (その他)	授業内容	共同募金、民生委員の現状と課題、NPO、NGO の現状と課題、
		予習	「民生委員」「NPO と NGO の違い」について調べておくこと
		復習	授業内容をまとめておくこと
6	NPO と NGO	授業内容	NPO 法人設立事例研究（演習）
		予習	NPO20 活動分野について調べておくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと
7	発表と評価	授業内容	NPO 法人設立事例研究（演習）
		予習	発表の準備を行うこと。
		復習	各発表と総評から得られたことをまとめておくこと。

8	総まとめ	授業内容	全ての授業を通した振り返りとまとめ
		予習	これまでの授業のまとめを読み直しておくこと。
		復習	授業内容をまとめ、試験に向けて整理すること。

評価法基準	期末レポート 100%
教科書	なし。講義については毎回レジユメと資料を配布する。
参考書	なし。
履修上の注意	グループワークに関して、主体的・積極的に参加すること。
オフィスアワー	木曜（12:10～12:50）、6-8 研究室

科目名	地域共生のための連携活動 I		担当教員	熊本 圭吾、中村 泰規	
学科	理学療法学科		学年	3 学年	
学期	後期	必修 / 選択	必修	授業形態	講義
単位数	2 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	<p>2025 年の地域包括ケアシステム構築のために、各自治体は、様々な取り組みを試行している。その人が住み慣れた地域でその人らしい生活を送るといった、保健医療福祉等の生活支援にかかわる諸サービス・諸活動を一体的かつ有機的・効果的に展開していくためには、当事者である本人とその家族を中心として関連する専門職間の連携・協働と地域住民のネットワーキングが不可欠なものとなる。この講義では特に、本人とその家族が生活するための地域社会における専門職の役割、地域住民の主体的参加、関連専門職の連携・協働と地域住民との相互関係づくりを通して、いかにしたら地域共生の実現に向けての礎ができていくのか、多面的かつ具体的・実践的に学ぶことを目標とする。</p>
到達目標	<p>一般目標 (GIO)</p> <p>地域共生、関連専門職の連携を理解し、理学療法士として何をすべきか説明ができる</p> <p>行動目標 (SBO)</p> <p>①地域包括ケアシステムの概要を理解し、説明できる</p> <p>②地域における関連する各専門職の役割を説明できる</p> <p>③当事者である本人とその家族を中心とした連携・協働について概要を理解し、説明できる</p> <p>④リハビリテーション専門職に求められる知識・技能を説明できる</p>

No.	テーマ		内容
1	地域共生社会の理念の実現	授業内容	地域共生社会の理念を明確化し、地域包括ケアシステムの意味と意義を把握する。
		予習	地域包括ケアシステムの概要をネット及び関連文献で調べておく。
		復習	予習内容と講義内容を整理し重要事項をリストアップしておく。
2	地域包括ケアシステムについて	授業内容	地域包括ケアシステムの法制度的基盤を明確にし、当事者がどのように利用するか把握する。
		予習	医療介護総合確保推進法、介護保険法、地域保健法の概要を調べておく。
		復習	予習内容と講義内容を整理し重要事項をリストアップしておく。
3	高齢者支援のための連携・協働①	授業内容	地域における高齢者支援の法制度的基盤を明確にし、当事者がどのように利用するか把握する。
		予習	高齢者支援の概要を調べておく。
		復習	予習内容と講義内容を整理し重要事項をリストアップしておく。
4	高齢者支援のための連携・協働②	授業内容	要介護高齢者の支援事例を通して関連専門職の役割を明確にする。
		予習	精神科病院の概要や関連職種 of 役割を調べておく。
		復習	予習内容と講義内容を整理し重要事項をリストアップしておく。
5	高齢者の支援事例研究①	授業内容	要介護高齢者・認知症高齢者の支援事例を通して関連専門職の役割を明確にする。
		予習	高齢者支援施設・精神科病院の概要や関連職種 of 役割を調べておく。
		復習	予習内容と講義内容を整理し重要事項をリストアップしておく。

6	障害者支援のための連携・協働	授業内容	地域における障害者支援・ケアの法制度的基盤を明確にし、当事者がどのように利用するか把握する。
		予習	障害者総合支援法、身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、精神保健福祉法の概要を調べておく。
		復習	予習内容と講義内容を整理し重要事項をリストアップしておく。
7	障害者の支援事例研究①	授業内容	身体障害者の支援事例を通して地域社会における連携・協働の意義を明確にする。
		予習	身体障害者更生相談所の概要や関連職種の役割を調べておく。
		復習	予習内容と講義内容を整理し重要事項をリストアップしておく。
8	障害者の支援事例研究②	授業内容	精神障害者の支援事例を通して地域社会における連携・協働の意義を明確にする。
		予習	保健所の概要、地域活動支援センターの概要や関連職種の役割を調べておく。
		復習	予習内容と講義内容を整理し重要事項をリストアップしておく。
9	児童・家庭支援のための連携・協働	授業内容	地域における児童・家庭支援の法制度的基盤を明確にし、当事者がどのように利用するか把握する。
		予習	児童福祉法、母子保健法、児童虐待防止法の概要を調べておく。
		復習	予習内容と講義内容を整理し重要事項をリストアップしておく。
10	児童・家庭支援の事例研究①	授業内容	心身障害児の支援事例を通して地域社会における連携・協働の意義を明確にする。
		予習	関連行政機関（福祉事務所、保健所、児童相談所）の連携・協働について調べておく。
		復習	予習内容と講義内容を整理し重要事項をリストアップしておく。
11	児童・家庭支援の事例研究②	授業内容	児童虐待事例を通して地域社会における連携・協働の意義を明確にする。
		予習	児童相談所、児童家庭支援センターの概要や関連職種の役割を調べておく。
		復習	予習内容と講義内容を整理し重要事項をリストアップしておく。
12	貧困者支援のための連携・協働	授業内容	貧困者支援の法制度的基盤を明確にし、当事者がどのように利用するか把握する。
		予習	生活保護法、ホームレス自立支援法、生活困窮者自立支援法の概要を調べておく。
		復習	予習内容と講義内容を整理し重要事項をリストアップしておく。
13	貧困者支援の事例研究	授業内容	ホームレス支援事例を通して地域社会における連携・協働の意義を明確にする。
		予習	福祉事務所、社会福祉協議会の役割と機能について調べておく。
		復習	予習内容と講義内容を整理し重要事項をリストアップしておく。
14	リハビリテーション専門職の役割	授業内容	地域共生社会における当事者とその家族、リハビリテーション専門職の役割を理解する。
		予習	リハビリテーション専門職の地域展開支援事例を調べておく。
		復習	前回までの講義を振り返り、リハビリテーション専門職にできること（可能性を含む）をリストアップしておく。
15	理学療法士の役割	授業内容	地域共生社会における当事者とその家族、理学療法士の役割を理解する。
		予習	理学療法士の地域展開支援事例を調べておく。
		復習	15回の講義を振り返り、理学療法士にできること（可能性を含む）をリストアップしておく。

評価法基準	評価方法：学期末レポート、リアクションペーパーの内容と提出回数 (成績評価比率：学期末レポート 70%、リアクションペーパー 30%)
-------	--

教科書	資料配布
参考書	医療福祉をつなぐ関連職種連携 南江堂 よくわかる地域包括ケア ミネルヴァ書房
履修上の注意	事例研究の際は、グループ討論、プレゼンテーション、ロールプレイ等を織り交ぜながら、教員と学生の相互主体的学習方法を展開することもある。 毎回の復習時に、講義内容のポイントを自分なりの言葉で整理しまとめておくこと。
オフィスアワー	熊本：授業の前後 中村：授業日の昼休み（12:10～12:50） 5-10 研究室

科目名	地域共生のための連携活動Ⅱ		担当教員	里村 恵子、大塚 幸永、齋藤 久恵	
学科	理学療法学科		学年	4 学年	
学期	後期	必修 / 選択	必修	授業形態	演習
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	<p>地域共生社会の創造や地域包括ケアシステムの構築に当たっては、それぞれの地域の特性に応じた職種間の連携・協働、また、対象者とその家族とのつながりが重要である。</p> <p>この科目では、「チームワーク概論」で修得した基礎的な知識、「地域共生のための連携活動Ⅰ」による課題への解決能力を基盤として、学科を横断した小グループで地域実習での経験を検討することを通じて保健医療の現状やニーズの把握や抽出の方法等について学ぶ。</p> <p>グループワークの結果については、発表のためのプレゼンテーションを行うために内容を整理すると共に、他の症例や事例を共有することで広く実践に資する関連職種との連携や協働、対象者とその家族とのつながりをもつ能力を養う。</p>
到達目標	<p>① 地域住民や地域で実践を行うさまざまな人々と連携協働するための基礎力を養成する。</p> <p>② 地域での保健医療に関する現状やニーズの把握、課題抽出ができるようになる。</p> <p>③ 地域における保健医療分野に対して自らの専門性を活かした包括的支援体制について考察できる。</p>

No.	テーマ		内容
1	オリエンテーション	授業内容	当該科目で学ぶ内容、授業の進め方、学生に期待する点等についてのオリエンテーション、評価の方法等のガイダンス、グループ（チーム）編成。
		予習	なし
		復習	「チームワーク概論」や「地域共生のために連携活動Ⅰ」の資料等を読み返してくる。
2	連携における課題の明確化 その①	授業内容	チームビルディング、連携における課題の明確化
		予習	なし
		復習	チームへの参加等に関するリフレクションを行ってくる。
3	連携における課題の明確化 その②	授業内容	連携における課題の明確化とその発表
		予習	発表できるように準備してくる。
		復習	自己やチームに関するリフレクションを行ってくる。
4	コミュニティワーク（課題研究）	授業内容	地域実習施設本学周辺の地域での保健医療の現状やニーズ把握や課題の抽出方法について学び、グループごとに取り組む課題を決定する。
		予習	地域実習施設について調べてくる。
		復習	自己やチームに関するリフレクションを行ってくる。

5	コミュニティワーク (課題研究)	授業内容	グループで、課題に取り組む。
		予習	自己やチームに関するリフレクションを行ってくる。
		復習	授業中に取り組んだ課題を、指定した日までに発表できるように準備する。
6	コミュニティワーク (課題研究)	授業内容	グループで、課題に取り組む。
		予習	自己やチームに関するリフレクションを行ってくる。
		復習	授業中に取り組んだ課題を、指定した日までに発表できるように準備する。
7	コミュニティワーク (課題研究)	授業内容	グループで、課題に取り組む。
		予習	自己やチームに関するリフレクションを行ってくる。
		復習	授業中に取り組んだ課題を、指定した日までに発表できるように準備する。
8	コミュニティワーク (課題研究)	授業内容	中間報告、スーパービジョン
		予習	自己やチームに関するリフレクションを行ってくる。
		復習	スーパービジョンを受けて、自分自身とチームの課題についてリフレクションし、レポートを作成する。
9	コミュニティワーク (課題研究)	授業内容	グループで、課題に取り組む。
		予習	自己やチームに関するリフレクションを行ってくる。
		復習	授業中に取り組んだ課題を、指定した日までに発表できるように準備する。
10	コミュニティワーク (課題研究)	授業内容	グループで、課題に取り組む。
		予習	自己やチームに関するリフレクションを行ってくる。
		復習	授業中に取り組んだ課題を、指定した日までに発表できるように準備する。
11	コミュニティワーク (課題研究)	授業内容	グループで、課題に取り組む。
		予習	自己やチームに関するリフレクションを行ってくる。
		復習	授業中に取り組んだ課題を、指定した日までに発表できるように準備する。
12	コミュニティワーク (課題研究)	授業内容	グループで、課題に取り組む。
		予習	自己やチームに関するリフレクションを行ってくる。
		復習	授業中に取り組んだ課題を、指定した日までに発表できるように準備する。
13	コミュニティワーク (課題研究)	授業内容	発表、総括
		予習	前回までの取り組みを振り返り、必要な資料などを読んでくる。
		復習	自己やチームに関するリフレクションを行ってくる。
14	コミュニティワーク (課題研究)	授業内容	発表、総括
		予習	前回までの取り組みを振り返り、必要な資料などを読んでくる。
		復習	自己やチームに関するリフレクションを行ってくる。

15	コミュニティワーク (課題研究)/振り返り	授業内容	授業の振り返り
		予習	自己やチームに関するリフレクションを行ってくる。
		復習	レポートを作成し、期日までに提出する。

評価法基準	レポート：60%、口頭発表：40%
教科書	1) 大嶋伸雄『ラーニングシリーズ IP 保健・医療・福祉専門職の連携教育・実践 ③はじめての IP 連携を学びはじめる人のための IP 入門』(協同医書出版社、2018年) 2) 埼玉県立大学『IPWを学ぶ—利用者中心の保健医療福祉連携』(中央法規出版、2009年)
参考書	なし
履修上の注意	この科目は、チームを形成し行動する力や専門性・志向を柔軟に発揮する力、自己とチームでリフレクションをする力を醸成することを、演習を通じて行います。自らの言葉で発言、考察し、チームとして行動する積極的な態度が求められます。
オフィスアワー	水曜日 12時10分より13時 (里村) 火曜日 12時10分より13時 (大塚) 木曜日 12時10分より13時 (齋藤)

科目名	予防理学療法		担当教員	富田 義人	
学科	理学療法学科		学年	3 学年	
学期	前期	必修 / 選択	選択	授業形態	講義
単位数	2 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	理学療法士の活動範囲は医療保険、介護保険分野におけるリハビリテーションに留まらず、健康寿命の延伸のための予防を目的とした介入へと広がっている。他の専門科目の一部として触れられてきた内容を、予防理学療法学という視点で理学療法士の役割、活動内容を整理することで、健康寿命の延伸に関わるための基礎的な知識を身につけることを目的とする。
到達目標	① 予防理学療法に関連する制度について説明できる。 ② 予防理学療法の領域を説明できる。 ③ 各領域における予防理学療法の役割・活動内容を説明できる。

No.	テーマ		内容
1	予防理学療法 法の概要	授業内容	予防理学療法の領域や関連する制度について概説する
		予習	予防理学療法について調べておくこと
		復習	講義内容をまとめる
2	予防理学療法 法の領域①	授業内容	メタボリックシンドロームの予防について学ぶ
		予習	事前に配布した資料を読んでおくこと
		復習	講義内容をまとめる
3	予防理学療法 法の領域②	授業内容	ロコモティブシンドロームの予防について学ぶ
		予習	事前に配布した資料を読んでおくこと
		復習	講義内容をまとめる
4	予防理学療法 法の領域③	授業内容	廃用症候群の予防について学ぶ
		予習	事前に配布した資料を読んでおくこと
		復習	講義内容をまとめる
5	予防理学療法 法の領域④	授業内容	認知症の予防について学ぶ
		予習	事前に配布した資料を読んでおくこと
		復習	講義内容をまとめる
6	予防理学療法 法の領域⑤	授業内容	労働災害の予防について学ぶ
		予習	事前に配布した資料を読んでおくこと
		復習	講義内容をまとめる
7	予防理学療法 法の領域⑥	授業内容	糖尿病の予防について学ぶ
		予習	事前に配布した資料を読んでおくこと
		復習	講義内容をまとめる
8	予防理学療法 法の領域⑦	授業内容	脳卒中および心疾患の再発予防について学ぶ
		予習	事前に配布した資料を読んでおくこと
		復習	講義内容をまとめる

9	予防理学療法 法の領域⑧	授業内容	心疾患および呼吸器疾患の再発予防について学ぶ
		予習	事前に配布した資料を読んでおくこと
		復習	講義内容をまとめる
10	予防理学療法 法の領域⑨	授業内容	整形外科疾患の再発予防について学ぶ
		予習	事前に配布した資料を読んでおくこと
		復習	講義内容をまとめる
11	予防理学療法 法の領域⑩	授業内容	スポーツを利用した予防について学ぶ
		予習	事前に配布した資料を読んでおくこと
		復習	講義内容をまとめる
12	予防理学療法 法の領域⑪	授業内容	メンタルヘルスについて学ぶ
		予習	事前に配布した資料を読んでおくこと
		復習	講義内容をまとめる
13	予防理学療法 法の領域⑫	授業内容	ウィメンズヘルス・メンズヘルスについて学ぶ
		予習	事前に配布した資料を読んでおくこと
		復習	講義内容をまとめる
14	予防理学療法 法の領域⑬	授業内容	ヘルスコミュニケーションについて学ぶ
		予習	事前に配布した資料を読んでおくこと
		復習	講義内容をまとめる
15	予防理学療法 法の領域⑭	授業内容	コミュニティ・プロモーションについて学ぶ
		予習	事前に配布した資料を読んでおくこと
		復習	講義内容をまとめる

評価法基準	レポート 100%
教科書	配布資料で実施
参考書	予防理学療法学要論 出版社 医歯薬出版 予防と産業の理学療法 出版社 南江堂
履修上の注意	家族・親族の仕事や疾病について、事前に情報を得ておくことよ。 江東区との地域連携事業における、体力測定会へ参加する。詳細は授業の中で知らせる。
オフィスアワー	木曜（10:30-11:10）、3-14 研究室

科目名	リハビリテーション医療工学	担当教員	安田 和弘		
実務経験	平成 10 年からリハビリテーション専門病院にて理学療法士として勤務。平成 24 年から早稲田大学グローバルロボットアカデミア研究所にてリハビリテーション支援機器の開発に従事、平成 27 年から早稲田大学理工学術院総合研究所（研究院講師）として東京都次世代イノベーション創出事業等の臨床試験を統轄。令和 2 年より同大学理工学術院総合研究所（研究院客員准教授）、同大学にて VR リハビリシステムの開発等に従事。				
学科	理学療法学科	学年	3 学年		
学期	後期	必修 / 選択	選択	授業形態	演習
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	リハビリテーション医療工学は、機能障害や能力障害の問題に対して工学的アプローチを用いて解決を考える学問である。本科目では、医工学で必要な計測を学び、近年、加速的に広がりつつある工学的アプローチを理学療法士の視点から理解することを目的とする。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ① リハビリテーション医療工学について説明することができる。 ② 各計測について説明することができ、各計測を実施することができる。 ③ 各工学的アプローチを理解し、リハビリテーションの視点から期待できる効果を説明することができ、それぞれの工学的アプローチを実施することができる。

No.	テーマ		内容
1	リハビリテーション医療工学	授業内容	リハビリテーション医療工学と医工連携について学修する
		予習	資料を読んでおくこと
		復習	資料を整理し、内容を理解する
2	バーチャルリアリティ 1	授業内容	VR の概要について学修する
		予習	資料を読み、専門用語を調べておくこと
		復習	資料を整理し、内容を理解する
3	バーチャルリアリティ 2	授業内容	VR の適応について学修し、演習を実施する
		予習	資料を読み、使用方法を調べておくこと
		復習	適応方法を整理し、理解する
4	ロボットリハ 1	授業内容	ロボットリハビリの概要について学修する
		予習	資料を読み、専門用語を調べておくこと
		復習	資料を整理し、内容を理解する
5	ロボットリハ 2	授業内容	ロボットリハビリの適応について学修し、演習を実施する
		予習	資料を読み、使用方法を調べておくこと
		復習	適応方法を整理し、理解する
6	ゲームリハ 1	授業内容	ゲームリハの概要について学修する
		予習	資料を読み、専門用語を調べておくこと
		復習	資料を整理し、内容を理解する

7	ゲームリハ 2	授業内容	ゲームリハの適応方法について学修し、計測を実施する
		予習	資料を読み、使用方法を調べておくこと
		復習	適応方法を整理し、理解する
8	センシング1	授業内容	センシングについて学修する
		予習	資料を読み、専門用語を調べておくこと
		復習	資料を整理し、内容を理解する
9	センシング2	授業内容	センシング技術を応用した機器を体験する
		予習	資料を読み、使用方法を調べておくこと
		復習	適応方法を整理し、内容を理解する
10	バイオフィー ドバック1	授業内容	バイオフィードバックを用いたリハビリについて学修する
		予習	資料を読み、専門用語を調べておくこと
		復習	資料を整理し、内容を理解する
11	バイオフィー ドバック2	授業内容	バイオフィードバックの適応について学修する
		予習	資料を読み、使用方法を調べておくこと
		復習	適応を整理し、内容を理解する
12	中枢電気刺激 装置1	授業内容	中枢電気刺激装置について学修し、機器を体験する
		予習	資料を読み、専門用語を調べておくこと
		復習	資料を整理し、内容を理解する
13	中枢電気刺激 装置2	授業内容	中枢電気刺激装置の適応について学修し、機器を体験する
		予習	資料を読み、使用方法を調べておくこと
		復習	適応方法を整理し、内容を理解する
14	ブレインマ シンインタ フェース1	授業内容	ブレインマシンインタフェースについて学修する
		予習	資料を読み、専門用語を調べておくこと
		復習	資料を整理し、内容を理解する
15	ブレインマ シンインタ フェース2	授業内容	ブレインマシンインタフェースの適応について学修し、体験する
		予習	資料を読み、使用方法を調べておくこと
		復習	適応方法を整理し、内容を理解する

評価法基準	課題レポート100%
教科書	なし
参考書	配布資料
履修上の注意	リハビリテーション医療工学は、演習を実施するため、他の学生と協調してグループワークに取り組むこと。
オフィスアワー	火曜（12:10～12:50）、6-6 研究室

科目名	基礎理学療法概論		担当教員	安田 和弘	
学科	理学療法学科		学年	1 学年	
学期	前期	必修 / 選択	必修	授業形態	講義
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	<p>この科目では、専門職としての理学療法士が生業とする理学療法についての概要を学ぶ。その内容としては、理学療法の名称と意味、定義、歴史、物理医学と治療技術としての理学療法、リハビリテーションと障がい者の社会統合手段としての理学療法、理学療法の各種技術（物理療法、運動療法、日常生活活動支援、補装具療法、環境整備他）の概要、理学療法の様々な対象分野、社会的意義などについて学び、以後に学ぶ様々な専門科目のための基本的理学療法関連知識を身につける。また、同時に専門職としての理学療法士を目指す者としての目的意識を明確にすることもこの科目の内容とする。</p> <p>別途、理学療法士を目指す者としての視野を広める目的で、関連分野におけるボランティア活動を実施する。対象は、医療、福祉関係領域の業種もしくは社会活動とする。</p>
到達目標	<p>①専門職としての理学療法士になるための自分自身の課題を明確にし、その克服のために必要な取り組み方法や、具体的に必要な知識や技術などについて説明できる。</p> <p>②理学療法業務内容および理学療法士の役割について説明できる。</p> <p>③理学療法の対象となる疾患、障害との関連性について理解し、必要な理学療法手段について説明できる。</p> <p>④治療医学、リハビリテーション医学と理学療法の位置づけと、その概要について説明できる。</p>

No.	テーマ		内容
1	理学療法を学ぶために	授業内容	理学療法の概要
		予習	テキスト「イントロダクション」の予習
		復習	講義で聴講した内容の復習
2	理学療法士の仕事	授業内容	理学療法の対象の理解：脳卒中
		予習	テキスト「脳血管障害による片麻痺」の予習
		復習	講義で聴講した内容の復習
3	理学療法士の仕事	授業内容	理学療法の対象の理解：パーキンソン病、神経・筋疾患
		予習	テキスト「パーキンソン病、神経・筋疾患」の予習
		復習	講義で聴講した内容の復習
4	理学療法の概要	授業内容	理学療法の対象の理解：変形性関節症
		予習	テキスト「変形性股関節症」の予習
		復習	講義で聴講した内容の復習
5	理学療法の概要	授業内容	理学療法の対象の理解：脊髄損傷による完全麻痺
		予習	テキスト「脊髄損傷による完全麻痺」の予習
		復習	講義で聴講した内容の復習

6	理学療法の歴史と背景	授業内容	理学療法の対象の理解：循環器疾患・呼吸器疾患
		予習	テキスト「循環器疾患・呼吸器疾患」の予習
		復習	講義で聴講した内容の復習
7	理学療法技術	授業内容	理学療法の対象の理解：糖尿病
		予習	テキスト「糖尿病」の予習
		復習	講義で聴講した内容の復習
8	理学療法技術	授業内容	理学療法の対象の理解：老年症候群
		予習	テキスト「老年症候群」の予習
		復習	講義で聴講した内容の復習
9	理学療法技術	授業内容	理学療法の評価と治療方法：筋力
		予習	テキスト「筋力」の予習
		復習	講義で聴講した内容の復習
10	理学療法技術	授業内容	理学療法の評価と治療方法：関節可動域
		予習	テキスト「関節可動域」の予習
		復習	講義で聴講した内容の復習
11	理学療法の対象	授業内容	理学療法の評価と治療方法：バランス
		予習	テキスト「バランス」の予習
		復習	講義で聴講した内容の復習
12	理学療法の対象	授業内容	理学療法の評価と治療方法：感覚・運動麻痺
		予習	テキスト「感覚・運動麻痺」の予習
		復習	講義で聴講した内容の復習
13	理学療法の様々な側面	授業内容	理学療法の評価と治療方法：ADL 練習
		予習	テキスト「ADL 練習」の予習
		復習	講義で聴講した内容の復習
14	理学療法の将来的展望と課題	授業内容	臨床実習・クリニカルクラークシップ
		予習	テキスト「臨床実習」の予習
		復習	講義で聴講した内容の復習
15	理学療法士を目指すために	授業内容	理学療法の歴史と制度
		予習	テキスト「理学療法の歴史と制度」の予習
		復習	講義で聴講した内容の復習

評価法基準	定期試験（100%）
教科書	「基礎理学療法概論」網本和編 MEDICALVIEW その他、必要に応じて関連資料の配付をします。
参考書	なし
履修上の注意	専門職としての理学療法士を目指す者としての自覚と、真摯な取り組みを求めます。この科目を通して、自身が目指す目標が明確になり、その後の様々な専門学習につながる土台になることを期待しています。 講義内容レポートについての形態、ボランティア活動についての詳細は、初回講義にて説明します。
オフィスアワー	木曜日（12:10~12:50）、6-6 研究室

科目名	理学療法研究法		担当教員	田中 直樹	
学科	理学療法学科		学年	3 学年	
学期	前期	必修 / 選択	必修	授業形態	演習
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	<p>理学療法における研究の意義、目的および研究を遂行するにあたっての研究実施方法、論文の読み方、文献・資料の収集方法について学ぶ。</p> <p>また、個人で文献を選び、文献精読、抄読用資料作成、発表の演習を行い、卒業研究論文作成、発表が行えるスキルを身につける。</p>
到達目標	<p>①理学療法における疑問点の解決方法を説明できる。</p> <p>②論文の構成を理解し、要点をまとめることができる。</p> <p>③文献抄読資料が作成およびプレゼンテーションが実施できる。</p>

No.	テーマ		内容
1	オリエンテーション・研究の目的	授業内容	理学療法における研究の目的、研究の流れについて学習する。
		予習	シラバスを熟読すること (20 分)
		復習	講義・演習のポイントを整理すること (20 分)
2	理学療法研究の展開	授業内容	理学療法研究の研究テーマについて学習する。
		予習	配布資料を読んでおくこと (20 分)
		復習	研究テーマ決定のためのポイントを整理すること (30 分)
3	研究デザイン 1	授業内容	EBM (Evidence Based Medicine) と研究デザインについて学習する。
		予習	配布資料を読んでおくこと (20 分)
		復習	EBM と研究デザインのポイントを整理すること (30 分)
4	研究デザイン 2	授業内容	研究デザインと変数、尺度などの基礎統計について学習する。
		予習	配布資料及び統計学の講義資料を読み統計学を復習すること (30 分)
		復習	研究デザインのポイントと基礎統計について整理すること (60 分)
5	データ解釈	授業内容	推計統計とデータ解釈について学習する。
		予習	配布資料及び統計学の講義資料を読み統計学を復習すること (30 分)
		復習	検定、クロス集計、分散分析について復習すること (60 分)
6	表とグラフ	授業内容	表とグラフの作成について学習する。
		予習	配布資料及び統計学の講義資料を読み統計学を復習すること (30 分)
		復習	表とグラフの作成について復習すること (60 分)。
7	論文検索。収集、整理	授業内容	論文収集方法、論文の読み方について学習する。
		予習	配布資料を読んでおくこと (30 分)
		復習	論文を検索し、論文の読み方を復習すること (60 分)
8	倫理審査書類の書き方	授業内容	倫理審査書類の書き方を学習する。
		予習	配布資料を読んでおくこと (20 分)
		復習	倫理審査書類の書き方のポイントを整理すること (60 分)

9	研究データの取り扱いとデータのまとめ方	授業内容	研究データの取り扱いとデータのまとめ方について学習する。
		予習	配布資料を読んでおくこと (20分)
		復習	研究データの取り扱いとデータのまとめ方のポイントを整理すること (30分)
10	プレゼンテーションと論文投稿の仕方	授業内容	プレゼンテーションと論文投稿の仕方について学習する。
		予習	配布資料を読んでおくこと (20分)
		復習	プレゼンテーションと論文投稿の仕方のポイントを整理する (20分)
11	文献抄読用資料作成	授業内容	文献抄読テーマを決定および論文精読する。
		予習	論文収集、論文の読み方の配布資料を読んでおくこと (20分)
		復習	論文内容を整理すること (20分)
12	文献抄読用資料作成	授業内容	論文の精読および文献抄読用資料を作成する
		予習	論文収集、論文の読み方の配布資料を読んでおくこと (20分)
		復習	実験結果論文内容を整理すること (20分)
13	文献抄読	授業内容	論文内容を発表、討論する。
		予習	文献抄読資料を読んでおくこと (60分)
		復習	発表内容を整理すること (20分)
14	文献抄読	授業内容	論文内容を発表、討論する。
		予習	文献抄読資料を読んでおくこと (60分)
		復習	発表内容を整理すること (20分)
15	文献抄読	授業内容	論文内容を発表、討論する。
		予習	文献抄読資料を読んでおくこと (60分)
		復習	発表内容を整理すること (20分)

評価法基準	研究の実施・発表・議論の成果 (60%) と試験 (40%) により成績評価を行う。
教科書	なし
参考書	標準理学療法学 理学療法研究 編集：内山靖、島田裕之 医学的研究のデザイン 研究の質を高める疫学的アプローチ 訳：木原雅子、木原正博
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> 理学療法研究は卒業研究へとつながる科目であり、理論的思考の構築方法と問題解決方法を学修するため注意深く聴講し、演習課題では能動的に取り組む姿勢が必要。 事前に配布する資料を熟読し、講義に臨むこと
オフィスアワー	月曜 (12:10~12:50) 3-15 研究室

科目名	運動療法学総論		担当教員	田畑 稔	
学科	理学療法学科		学年	1 学年	
学期	後期	必修	必修	授業形態	講義
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	理学療法の主たる治療手段である運動療法に基礎知識として歴史及び変遷、運動療法の概念、身体機能と運動、基本的な運動療法の種類や適応と禁忌を学び、様々な機能障害に対する運動療法の実践に際し、関節可動域運動、筋力増強運動、協調性運動などの各種運動療法の目的、効果、基本的な進め方や運動内容を学修する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ① リハビリテーションと理学療法を理解し、理学療法の治療としての運動療法を説明できる。 ② 運動療法の種類を学び、各種の内容と目的、効果を説明できる。 ③ 運動療法の適応と禁忌を学び、身体機能や障害に応じて適用することができる。 ④ 運動療法の効果を予測し、日常生活の自立度と関連付けることができる。

No.	テーマ		内容
1	総論・オリエンテーション	授業内容	運動療法学総論講義目的についてオリエンテーションする。
		予習	次のテーマ・範囲の情報について予習しておくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。
2	運動療法学総論	授業内容	運動療法の概念、運動療法とは何かについて講義。
		予習	前回の授業内容を踏まえ、次のテーマ・範囲の情報を得ておくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。
3	関節の構造と関節の運動制限	授業内容	関節の構造と関節運動制限について講義。
		予習	前回の授業内容を踏まえ、次のテーマ・範囲の情報を得ておくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。
4	筋機能と運動療法	授業内容	骨格筋機能と運動療法について講義。
		予習	前回の授業内容を踏まえ、次のテーマ・範囲の情報を得ておくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。
5	バランス機能と運動療法	授業内容	バランス機能と運動療法について講義。
		予習	前回の授業内容を踏まえ、次のテーマ・範囲の情報を得ておくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。
6	協調性運動と運動療法	授業内容	協調性運動と運動療法について解説を行う。
		予習	前回の授業内容を踏まえ、次のテーマ・範囲の情報を得ておくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。
7	中枢神経機能と運動療法	授業内容	中枢神経各疾患における機能障害について講義。
		予習	前回の授業内容を踏まえ、次のテーマ・範囲の情報を得ておくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。

8	末梢神経と運動療法	授業内容	末梢神経各疾患における運動療法について講義。
		予習	前回の授業内容を踏まえ、次のテーマ・範囲の情報を得ておくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。
9	加齢による運動機能と運動療法	授業内容	加齢による運動機能（フレイル・サルコペニア・ロコモティブシンドローム）と運動療法について講義。
		予習	前回の授業内容を踏まえ、次のテーマ・範囲の情報を得ておくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。
10	基本動作と運動療法	授業内容	基本動作から運動機能を把握し、運動療法へつなげる解説を行う。
		予習	前回の授業内容を踏まえ、次のテーマ・範囲の情報を得ておくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。
11	代謝疾患に対する運動療法	授業内容	肥満・糖尿病など代謝疾患に対する運動療法について講義。
		予習	前回の授業内容を踏まえ、次のテーマ・範囲の情報を得ておくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。
12	呼吸器疾患に対する運動療法	授業内容	呼吸器疾患に対する運動療法について講義。
		予習	前回の授業内容を踏まえ、次のテーマ・範囲の情報を得ておくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。
13	循環器疾患に対する運動療法①	授業内容	循環器疾患に対する運動療法について講義。
		予習	前回の授業内容を踏まえ、次のテーマ・範囲の情報を得ておくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。
14	循環器疾患に対する運動療法②	授業内容	循環器疾患に対する運動療法について講義。
		予習	前回の授業内容を踏まえ、次のテーマ・範囲の情報を得ておくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。
15	振り返り	授業内容	第1～14回授業内容を振り返る。
		予習	前回の授業内容を踏まえ、次のテーマ・範囲の情報を得ておくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。

評価法基準	定期試験 40%、授業ノート 60%、
教科書	Crosslink 理学療法学テキスト 運動療法学 対馬栄輝編集 メジカルビュー社
参考書	なし
履修上の注意	詳細は講義初日に伝達する。
オフィスアワー	午前授業日：授業終了後昼休み（12:10～12:50） 4-1 研究室 午後授業日：授業後放課後（17:50～18:30） 4-1 研究室

科目名	理学療法管理学 I		担当教員	大塚 幸永	
実務経験	<p>長年、医療機関に勤務して医療保険・介護保険事業の業務を行い、リハビリテーション部門の管理者として組織のマネージメントも行なってきました。</p> <p>その経験を生かして、理学療法管理学 I では、理学療法士が組織で働くために必要な「管理」がなぜ必要で、理学療法業務とのつながりを、実際の事例などを用いながら伝えていきたいと思えます。</p>				
学科	理学療法学科		学年	2 学年	
学期	前期	必修 / 選択	必修	授業形態	講義
単位数	1 単位	時間数	15 時間	回数	8 回

授業概要	理学療法士という職業人として活動していくために必要な、組織の中の理学療法部門の位置づけ、臨床におけるリスク管理、感染予防、診療記録方法と管理、診療報酬・介護報酬等、臨床現場において、質の高い理学療法を提供していくために必要なマネージメントを学習する。
到達目標	<p>① 関連法規、制度と理学療法士の業務を関連づけることができる</p> <p>② 理学療法部門の管理運営方法を説明できる。</p> <p>③ 医療制度・介護制度と理学療法業務を関連づけることができる。</p> <p>④ 診療記録の目的と適切な記録方法を説明できる。</p>

No.	テーマ		内容
1	オリエンテーション	授業内容	オリエンテーションと理学療法管理学総論、関連法規について学ぶ。
		予習	本科目のシラバスを読み、テキスト LECTURE1・2 (1) を予習しておくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。
2	医療倫理と医療の質の確保	授業内容	医療倫理と個人情報保護、インフォームドコンセントについて学ぶ。
		予習	テキスト LECTURE13 (1-3) を予習しておくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。
3	組織と労務管理	授業内容	病院の組織と労務管理方法について学ぶ。
		予習	テキスト LECTURE2・3 を予習しておくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。
4	リスク管理と感染症管理	授業内容	リスクマネジメントと感染症対策について学ぶ。
		予習	テキスト LECTURE11・12 を予習しておくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。
5	社会保障制度	授業内容	保険・医療・福祉に関連する制度とマネージメントについて学ぶ
		予習	テキスト LECTURE4 を予習しておくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。
6	医療制度と診療報酬	授業内容	医療制度とリハビリテーションに関する診療報酬について
		予習	テキスト LECTURE5 を予習しておくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。
7	介護制度と介護報酬	授業内容	介護制度とリハビリテーションに関する診療報酬について
		予習	テキスト LECTURE6 を予習しておくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。

8	診療記録の	授業内容	診療記録の目的や法的根拠、記載原則、留意点、関連書類について
	目的と記載	予習	テキスト LECTURE10 (1-2) を予習しておくこと。
	原則	復習	授業内容をまとめておくこと。

評価法基準	期末試験 70%、授業内小テスト 30%
教科書	「理学療法管理学 (15 レクチャーシリーズ 理学療法テキスト)」石川朗編 中山書店
参考書	「リハビリテーション管理学」齋藤秀之、能登真一編 医学書院
履修上の注意	授業内でわかりやすい事例を提供していくので、自身でも身近な事例に関連付けて学ぶこと。
オフィスアワー	火曜 (12:10~13:00) 3-13 研究室

科目名	理学療法管理学Ⅱ		担当教員	大塚 幸永	
実務経験	<p>長年、医療機関に勤務して医療保険・介護保険事業の業務を行い、リハビリテーション部門の管理者として組織のマネージメントも行なってきました。</p> <p>その経験を生かして、理学療法管理学Ⅱでは、理学療法士の教育や業務管理、多職種との連携で起こりうるコンフリクトなどについて実際の事例などを用いながら伝えていきたいと思ひます。</p>				
学科	理学療法学科		学年	3 学年	
学期	後期	必修 / 選択	必修	授業形態	講義
単位数	1 単位	時間数	15 時間	回数	8 回

授業概要	<p>理学療法士は、さまざまな職域で就業しており、各職域に応じた安全管理対策について理解する必要がある。医療機関に限らず、施設、地域などさまざまな場面での医療安全および管理方法について学ぶ。また、多職種の連携を形成するための、理学療法倫理および実践活動のシステムの理解を深める。その上で危機状態の問題解決、システム変革などの基本的方策を学修する。</p>
到達目標	<p>① 組織や地域における理学療法士の役目について述べられる</p> <p>② 多職種連携に必要なコミュニケーションを理解し実践できる</p> <p>③ 理学療法士に必要な管理とマネージメントについて述べられる</p> <p>④ 社会に求められる理学療法士像を述べられる。</p>

No.	テーマ		内容
1	理学療法士教育①	授業内容	理学療法士の教育の歴史と国家試験の管理について学ぶ。
		予習	テキスト LECTURE14 を予習しておくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。
2	理学療法士教育②	授業内容	臨床実習と卒後教育について学ぶ。
		予習	テキスト LECTURE14 を予習しておくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。
3	業務管理①	授業内容	スケジュール管理の必要性と実際について学ぶ
		予習	テキスト LECTURE9 (1-2) を予習しておくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。
4	業務管理②	授業内容	業務の管理、ハラスメント、人事考課について学ぶ。
		予習	テキスト LECTURE9 (3-4) を予習しておくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。
5	業務管理③	授業内容	職場環境のデザインや理学療法機器の保守点検について学ぶ。
		予習	テキスト LECTURE9 (6-7) を予習しておくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。
6	業務管理④	授業内容	理学療法士に求められるコンプライアンスについて学ぶ。
		予習	テキスト LECTURE9 (5) LECTURE13 (6) を予習しておくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。

7	多職種連携	授業内容	保険・医療・介護・福祉の連携と理学療法士の役割を学ぶ。
		予習	テキスト LECTURE8 を予習しておくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。
8	人間関係管理	授業内容	多職種連携に必要な人間関係の構築や対応について学ぶ。
		予習	テキスト LECTURE13 (6)
		復習	授業内容をまとめておくこと。

評価法基準	期末試験 70%、授業内小テスト 30%
教科書	「理学療法管理学 (15 レクチャーシリーズ 理学療法テキスト)」石川朗編 中山書店
参考書	「リハビリテーション管理学」齋藤秀之、能登真一編 医学書院
履修上の注意	授業内でわかりやすい事例を提供していくので、自身でも身近な事例に関連付けて学ぶこと。
オフィスアワー	火曜 (12 : 10~13 : 00) 3-13 研究室

科目名	基礎理学療法評価学		担当教員	灰田 信英	
学科	理学療法学科		学年	1 学年	
学期	後期	必修 / 選択	必修	授業形態	講義
単位数	2 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	<p>この科目では、理学療法における評価について学ぶ。理学療法を行う上で、対象となる疾患や障害の状態を正確に把握するため、様々な検査を行い、それぞれの検査結果を統合、解釈し、その結果に対しての適切な理学療法プログラムを立案するまでの一連の流れについて学ぶ。</p> <p>この科目内容の学修によって、次の基礎理学療法評価学実習における具体的評価技術の習得に繋げることを目的に学修する。</p>
到達目標	<p>①理学療法評価の目的と臨床意思決定プロセス（統合と解釈）について説明できる。</p> <p>②情報収集をもとに評価項目を選定することができる。</p> <p>③ICF における障害に対応して、障害の意味を説明できる。</p> <p>④記録と報告の方法と注意事項について説明できる。</p> <p>⑤理学療法評価の基礎的な項目について、それぞれの目的、内容、方法について説明できる。</p>

No.	テーマ		内容
1	理学療法評価総論	授業内容	理学療法評価の意義と目的
		予習	これまで学修してきた理学療法の概要を復習する
		復習	講義内容についての復習をする
2	理学療法評価総論	授業内容	理学療法評価の課程と手順
		予習	テキスト指定範囲の予習をする
		復習	講義内容についての復習をする
3	理学療法評価総論	授業内容	理学療法評価の対象と種類
		予習	テキスト指定範囲の予習をする
		復習	講義内容についての復習をする
4	理学療法評価総論	授業内容	評価記録と問題リストの整理
		予習	テキスト指定範囲の予習をする
		復習	講義内容についての復習をする
5	理学療法評価総論	授業内容	治療プログラムの立案、評価に関わる留意点他
		予習	テキスト指定範囲の予習をする
		復習	講義内容についての復習をする
6	理学療法評価の基礎知識	授業内容	確認テスト①、接遇と対人コミュニケーションの基本
		予習	理学療法総論の振り返りをする
		復習	講義内容についての復習をする
7	理学療法評価の基礎知識	授業内容	一般的評価事項とバイタルサイン
		予習	テキスト指定範囲の予習をする
		復習	講義内容についての復習をする

8	理学療法評	授業内容	形態測定、痛みの評価、知覚検査
	価の基礎知	予習	テキスト指定範囲の予習をする
	識	復習	講義内容についての復習をする
9	理学療法評	授業内容	確認テスト②、関節可動域測定
	価の基礎知	予習	第7回、第8回の復習をする
	識	復習	講義内容についての復習をする
10	理学療法評	授業内容	平衡感覚、日常生活活動の評価、動作分析
	価の基礎知	予習	テキスト指定範囲の予習をする
	識	復習	講義内容についての復習をする
11	理学療法評	授業内容	確認テスト③、筋力測定
	価の基礎知	予習	第9回、第10回の復習をする
	識	復習	講義内容についての復習をする
12	理学療法評	授業内容	反射検査、筋トーン検査
	価の基礎知	予習	テキスト指定範囲の予習をする
	識	復習	講義内容についての復習をする
13	理学療法評	授業内容	確認テスト④、運動発達検査
	価の基礎知	予習	第11回、第12回の復習をする
	識	復習	講義内容についての復習をする
14	理学療法評	授業内容	協調性、片麻痺機能検査、脳神経検査
	価の基礎知	予習	テキスト指定範囲の予習をする
	識	復習	講義内容についての復習をする
15	理学療法評	授業内容	確認テスト⑤、高次脳機能検査、呼吸・循環機能検査
	価の基礎知	予習	第13回、第14回の復習をする
	識	復習	これまでの講義内容を総復習する

評価法基準	定期試験 50%、講義の中で実施する5回の確認テスト 50% 確認テストの合計点が5割に達していない場合には、期末試験を受けることができない場合があります。積極的で真摯な取り組みを期待します。
教科書	石川朗、森山英樹 編「理学療法テキスト 理学療法評価学Ⅰ」中山書店 2010 石川朗、森山英樹 編「理学療法テキスト 理学療法評価学Ⅱ」中山書店 2010
参考書	解剖学、生理学、運動学など基本的医学事項の各成書
履修上の注意	理学療法評価学は、次に開講される基礎理学療法評価学実習、各分野の評価学および評価学実習の基礎となる知識を学習します。従って、この科目の学習成果が不十分な場合には、次の科目の受講ができないこともあります。専門職としての重要な基礎知識として、この科目内容の習得を目指し、積極的な予習や復習の取り組みを求めます。
オフィスアワー	水曜日 (12:10~12:50)、6-4 研究室

科目名	基礎理学療法評価学実習		担当教員	加藤 剛平	
学科	理学療法学科		学年	1 学年	
学期	後期	必修 / 選択	必修	授業形態	実習
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	<p>対象者に対して適切な理学療法プログラムを立案するためには、適切に理学療法評価を実施することが必要である。このためには、正確かつ確に理学療法評価を実施する能力・技術を高めておく必要がある。この目標の達成のためには、理学療法評価の内容、意義、目的を理解しながら、実習を繰り返して、理学療法評価能力・技術を高めることが肝要となる。当授業では、基礎的な理学療法評価の内容について、実習を行い、理学療法評価の正確かつ確に行える実践能力を高めることを目的として展開する。</p>
到達目標	<p>① 医療面接および情報収集を理解して実施できる。 ② バイタルサイン、形態計測、反射について理解して実施できる。 ③ 体性感覚検査について理解して実施できる。 ④ 関節可動域測定および筋力検査を理解して実施できる。 ⑤ 協調運動機能検査、バランス検査、運動耐用能について理解して実施できる。</p>

No.	テーマ		内容
1	医療面接、 情報収集	授業内容	医療面接、情報収集の実習（学内）
		予習	医療面接、情報収集の方法について調べておくこと。
		復習	医療面接、情報収集の実施について練習すること
2	バイタルサ イン、形態 計測	授業内容	バイタルサイン、形態計測の実習（学内）
		予習	バイタルサイン、形態計測の方法について調べておくこと。
		復習	バイタルサイン、形態計測の実施について練習すること
3	反射	授業内容	反射の実習（学内）
		予習	反射の方法について調べておくこと。
		復習	反射の実施について練習すること
4	感覚検査	授業内容	感覚検査の実習（学内）
		予習	感覚検査の方法について調べておくこと。
		復習	感覚検査の実施について練習すること
5	関節可動域 測定	授業内容	関節可動域測定（上肢1）の実習（学内）
		予習	関節可動域測定（上肢1）の方法について調べておくこと。
		復習	関節可動域測定（上肢1）の実施について練習すること
6	関節可動域 測定	授業内容	関節可動域測定（上肢2）の実習（学内）
		予習	関節可動域測定（上肢2）の方法について調べておくこと。
		復習	関節可動域測定（上肢2）の実施について練習すること
7	関節可動域 測定	授業内容	関節可動域測定（下肢1）の実習（学内）
		予習	関節可動域測定（下肢1）の方法について調べておくこと。
		復習	関節可動域測定（下肢1）の実施について練習すること

8	関節可動域測定	授業内容	関節可動域測定（下肢2）の実習（学内）
		予習	関節可動域測定（下肢2）の方法について調べておくこと。
		復習	関節可動域測定（下肢2）の実施について練習すること
9	関節可動域測定	授業内容	関節可動域測定（頸部・体幹）の実習（学内）
		予習	関節可動域測定（頸部・体幹）の方法について調べておくこと。
		復習	関節可動域測定（頸部・体幹）の実施について練習すること
10	筋力検査	授業内容	筋力検査（上肢1）の実習（学内）
		予習	筋力検査（上肢1）の方法について調べておくこと。
		復習	筋力検査（上肢1）の実施について練習すること
11	筋力検査	授業内容	筋力検査（上肢2）の実習（学内）
		予習	筋力検査（上肢2）の方法について調べておくこと。
		復習	筋力検査（上肢2）の実施について練習すること
12	筋力検査	授業内容	筋力検査（下肢1）の実習（学内）
		予習	筋力検査（下肢1）の方法について調べておくこと。
		復習	筋力検査（下肢1）の実施について練習すること
13	筋力検査	授業内容	筋力検査（下肢2）の実習（学内）
		予習	筋力検査（下肢2）の方法について調べておくこと。
		復習	筋力検査（下肢2）の実施について練習すること
14	筋力検査	授業内容	筋力検査（頸部・体幹）の実習（学内）
		予習	筋力検査（頸部・体幹）の方法について調べておくこと。
		復習	筋力検査（頸部・体幹）の実施について練習すること
15	協調運動機能検査	授業内容	協調運動機能検査・バランス検査・運動耐用能検査の実習（学内）
		予習	協調運動機能検査・バランス検査・運動耐用能検査の方法を調べておくこと。
		復習	協調運動機能検査・バランス検査・運動耐用能を練習すること

評価法基準	<p>実技試験 70%、授業内小テスト 30%。</p> <p>授業内小テストでは授業中の参加態度も考慮する。</p> <p>実技テストは、理学療法評価の内容を課題として、正確に測定できるかについて評価する。期末試験は、実習で培われた知識について評価する。</p>
教科書	<p>「新・徒手筋力検査法新 徒手筋力検査法 第10版」 DaleAvers 原著 協同医書出版 2020年</p> <p>石川朗、森山英樹 編「理学療法テキスト 理学療法評価学Ⅰ」中山書店 2010</p> <p>石川朗、森山英樹 編「理学療法テキスト 理学療法評価学Ⅱ」中山書店 2010</p>
参考書	なし
履修上の注意	<p>詳細は講義初日に伝達する。質問や議論を通じて積極的に授業に参加し、基礎理学療法評価学に関する知識と技術を身につけることを期待する。</p>
オフィスアワー	<p>火曜（授業の前後）、3-20 研究室</p> <p>水曜（授業の前後）、3-20 研究室</p>

科目名	運動器理学療法評価学		担当教員	鳥居 昭久	
学科	理学療法学科		学年	2 学年	
学期	前期	必修 / 選択	必修	授業形態	講義
単位数	2 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	理学療法の対象疾患および障害には、骨・関節、骨格筋などの運動器の問題が多くある。その理学療法の実施のためには、運動器を客観的に評価し、機能・形態障害および活動制限を明確にする必要がある。この科目では、この運動器に対する評価の基本知識や技術を学び、次の運動器理学療法評価学実習に繋げる知識を身に付けることを目的とする。
到達目標	①骨・関節機能の評価について説明できる。 ②骨格筋機能の評価について説明できる。 ③整形外科系の特殊検査について説明できる。 ④姿勢、動作の分析から派生する運動器系の問題について説明できる。

No.	テーマ		内容
1	関節機能の評価	授業内容	関節可動域の障害と評価
		予習	基礎理学療法評価学および同実習で学んだ内容について復習する
		復習	講義内容についてのまとめノートの作成
2	筋機能の評価	授業内容	筋機能の障害と評価
		予習	基礎理学療法評価学および同実習で学んだ内容について復習する
		復習	講義内容についてのまとめノートの作成
3	運動器の触察の基礎	授業内容	運動器の触察法
		予習	解剖学、運動学で学んだ内容の復習をする
		復習	講義内容についてのまとめノートの作成
4	運動器の触察の基礎	授業内容	運動器の触察法
		予習	解剖学、運動学で学んだ内容の復習をする
		復習	講義内容についてのまとめノートの作成
5	運動器の触察の基礎	授業内容	運動器の触察法
		予習	解剖学、運動学で学んだ内容の復習をする
		復習	講義内容についてのまとめノートの作成
6	運動器の触察の基礎	授業内容	運動器の触察法
		予習	解剖学、運動学で学んだ内容の復習をする
		復習	講義内容についてのまとめノートの作成
7	整形外科疾患検査	授業内容	整形外科疾患検査の意義と目的
		予習	テキスト指定範囲の予習をする
		復習	講義内容についてのまとめノートの作成
8	整形外科疾患検査	授業内容	頸部・体幹部の整形外科疾患検査
		予習	テキスト指定内容の予習をする
		復習	講義内容についてのまとめノートの作成

9	整形外科疾患検査	授業内容	上肢の整形外科疾患検査
		予習	テキスト指定範囲の予習をする
		復習	講義内容についてのまとめノートの作成
10	整形外科疾患検査	授業内容	下肢の整形外科疾患検査
		予習	テキスト指定範囲の予習をする
		復習	講義内容についてのまとめノートの作成
11	整形外科疾患検査	授業内容	その他の整形外科疾患検査
		予習	テキスト指定範囲の予習をする
		復習	講義内容についてのまとめノートの作成
12	アライメント評価	授業内容	姿勢と動作の分析の基礎事項
		予習	基礎理学療法評価学および同実習で学んだ内容について復習する
		復習	講義内容についてのまとめノートの作成
13	アライメント評価	授業内容	静的アライメントの評価の基礎事項
		予習	基礎理学療法評価学および同実習で学んだ内容について復習する
		復習	講義内容についてのまとめノートの作成
14	アライメント評価	授業内容	動的アライメントの評価の基礎事項
		予習	基礎理学療法評価学および同実習で学んだ内容について復習する
		復習	講義内容についてのまとめノートの作成
15	運動器の評価のまとめ	授業内容	運動器の評価のまとめ
		予習	これまで学習した内容の復習をする
		復習	全ての講義内容についての復習をする

評価法基準	<p>原則として、定期試験 80%、講義まとめノート 20%、で評価します。</p> <p>講義内容ノートを作成し、毎回の講義後には、その日の講義の復習と反省事項の記載をしてください。まとめノートに対する評価は、講義内容に一致していること、発展的に学習して知識をより深めていること、自身の授業態度などを客観的に振り返っているかについて評価します。また、実技を授業の中でも取り入れます。実技の際にペアの相手への配慮などを評価対象とします。十分な配慮がなされない場合には、最終評価から減点することもあります。</p>
教科書	<p>「理学療法評価学」松澤正、江口克彦著 金原出版株式会社</p> <p>「図説 四肢と脊椎の診かた」S.Hoppennfeld 著 野島元雄他訳 医歯薬出版株式会社</p>
参考書	解剖学、生理学、運動学、整形外科学関係成書
履修上の注意	この科目では、この運動器に対する評価の基本知識や技術を学びます。実技を行うことがありますので、授業時に指定した服装の準備をしてください。準備不足の場合には、受講できない場合があります。また、実技の際に、ペアの者の身体に触れることがあります。相手への配慮などを怠らない態度が重要になります。積極的、かつ真摯な取り組みを期待します。
オフィスアワー	随時（事前に UNIPA にて連絡してください）

科目名	運動器理学療法評価学実習		担当教員	武井 圭一	
学科	理学療法学科		学年	2 学年	
学期	前期	必修 / 選択	必修	授業形態	実習
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	運動器理学療法評価学で学んだ検査・測定について、運動器疾患症例に対して実施できる知識・技術を習得する。単に検査・測定を実施するだけではなく、結果の記載方法や結果の解釈の方法についても学ぶ。症例を提示してグループワークによる統合と解釈、目標設定についても実践する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 運動器理学療法評価で用いる一般的な理学療法検査・測定を実施できるようになる。 (関節可動域測定、徒手筋力テスト) 機能障害と基本動作との関連を考察できるようになる。 ICF に基づいて障害像を整理できるようになる。

No.	テーマ		内容
1	オリエンテーション	授業内容	関節可動域測定、徒手筋力テスト、動作分析、臨床推論について概説し、実習する。
		予習	関節可動域測定、徒手筋力テスト (MMT) について整理する。
		復習	関節可動域測定、MMT、動作分析について復習する。
2	関節可動域制限の評価	授業内容	単に関節可動域を測定するだけではなく、endfeel や制限因子の評価を含め関節可動域制限の評価方法について学ぶ。
		予習	関節可動域測定について整理しておく。
		復習	関節可動域制限の評価について実技練習する。
3	筋力低下の評価	授業内容	MMT をはじめ、徒手筋力計を用いた定量的評価、CS-30 など様々な筋力測定法を実施する。
		予習	MMT について整理する。
		復習	授業で実施した検査法の実技練習をする。
4	動作分析	授業内容	動作分析の概要を説明する。動作をフェーズに分け、前額面・矢状面・水平面から分析する。条件の異なる基本動作の変化を分析する。
		予習	第 1 回オリエンテーションで学んだ動作分析について整理する。
		復習	健常者の基本動作について動作分析を実践する。
5	骨折に対する評価	授業内容	上下肢の骨折後のリスクに配慮した関節可動域測定を学ぶ。関節可動域制限の評価方法を学ぶ。
		予習	第 2 回関節可動域制限の評価の内容について整理する。
		復習	骨折を想定した関節可動域測定について実技練習をする。
6	骨折に対する評価	授業内容	上下肢の骨折後のリスクに配慮した MMT を学ぶ。
		予習	第 3 回筋力低下の評価の内容について整理する。
		復習	骨折を想定した MMT について実技練習をする。
7	骨折に対する評価	授業内容	骨折後の異常歩行を呈した動画をもとに動作分析を行う。
		予習	第 4 回で学んだ動作分析について整理する。
		復習	授業内容を整理する。

8	骨折に対する評価	授業内容	ペーパーペイシエント（骨折症例）をもとに、ICF（主に心身機能・構造）をまとめ、発表する。
		予習	第1回オリエンテーションの内容を整理する。
		復習	授業内容を整理する。
9	関節可動域測定	授業内容	関節可動域測定の間テストを実施する。
		予習	第2・5回の内容を振り返っておく。
		復習	実技で指摘を受けた内容を整理する。
10	徒手筋力テスト	授業内容	MMTの間テストを実施する。
		予習	第3・6回の内容を振り返っておく。
		復習	実技で指摘を受けた内容を整理する。
11	変形性関節症に対する評価	授業内容	変形性関節症を想定して、リスクに配慮した関節可動域測定を学ぶ。関節可動域制限の評価方法を学ぶ。
		予習	第2・5回関節可動域制限の評価の内容について整理する。
		復習	変形性関節症を想定した関節可動域測定について実技練習をする。
12	変形性関節症に対する評価	授業内容	上下肢の骨折後のリスクに配慮したMMTを学ぶ。
		予習	第3・6回筋力低下の評価の内容について整理する。
		復習	変形性関節症を想定したMMTについて実技練習する。
13	変形性関節症に対する評価	授業内容	変形性関節症症例の異常歩行を呈した動画をもとに動作分析を行う。
		予習	第4・7回で学んだ動作分析について整理する。
		復習	授業内容を整理する。
14	変形性関節症に対する評価	授業内容	ペーパーペイシエント（変形性関節症例）をもとに、必要な検査・測定を列挙し、ICF（主に心身機能・構造）をまとめ、発表する。
		予習	第1・8回オリエンテーションの内容を整理する。
		復習	授業内容を整理する。
15	全体のまとめ	授業内容	本実習で学んだこと、今後の課題について総括する。
		予習	第13・14回で実施した実技試験について振り返る。
		復習	授業内容を整理する。

評価法基準	実技試験 50%、レポート（実習中に作成した物） 50%
教科書	「理学療法評価学 改訂第6版」松澤正 他 金原出版 「新・徒手筋力検査法 第10版」津山直一他（訳） 協同医書出版 「症例動画でわかる理学療法臨床推論 統合と解釈実践テキスト」豊田輝 羊土社
参考書	なし
履修上の注意	実技で身体を動かすため服装は運動着を着用。
オフィスアワー	火曜日（12:10～12:50）、3-11 研究室

科目名	神経理学療法評価学		担当教員	沼田 憲治	
学科	理学療法学科		学年	2 学年	
学期	前期	必修 / 選択	必修	授業形態	講義
単位数	2 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	中枢神経疾患で行われる諸検査は、その正しく実施できるとともにその意義を知ることが必要である。本授業では脳画像の読影、脳の機能的構造に基づく検査の意義を理解すること。さらに、各種検査が正しく実施できることを目的としている。
到達目標	① 神経学的諸検査の意義が説明できる ② 神経学的検査が実施できる ③ 脳の構造と役割が説明できる

No.	テーマ		内容
1	検査の意義と目的	授業内容	神経疾患に対する神経学的検査の意義と目的
		予習	教科書から神経学的検査の意義と目的について調べておく
		復習	知識の整理
2	検査の意義と目的	授業内容	脳卒中患者に対する検査の意義
		予習	脳卒中患者の障害の特徴について調べておく
		復習	知識の整理
3	検査の意義と目的	授業内容	パーキンソン・小脳障害・脊損などの患者に対する検査の意義
		予習	以上の中枢神経疾患の障害の特徴について調べておく
		復習	知識の整理
4	検査における留意事項	授業内容	評価実施上における留意点・注意点
		予習	教科書から神経学的検査の留意点について調べておく
		復習	知識の整理
5	高次脳機能障害	授業内容	高次脳機能障害の種類とそのメカニズムについて
		予習	参考書をもとに高次脳機能障害について調べておく
		復習	知識の整理
6	脳画像の原理	授業内容	CT、MRI、SPECT の基礎
		予習	参考書をもとに脳画像について調べておく
		復習	知識の整理
7	脳画像の基礎	授業内容	脳画像と解剖学的構造
		予習	参考書をもとに脳画像について調べておく
		復習	知識の整理
8	脳画像読影	授業内容	症例の MRI、CT の読影
		予習	参考書をもとに脳画像について調べておく
		復習	知識の整理

9	中枢神経系 の特徴	授業内容	中枢神経の可塑的性質など
		予習	指定の参考書に目を通しておく
		復習	知識の整理
10	大脳機能の 特徴	授業内容	大脳の機能的構造と解剖学的構造
		予習	指定の参考書に目を通しておく
		復習	知識の整理
11	脳領域と障 害	授業内容	前頭葉機能とその障害
		予習	指定の参考書に目を通しておく
		復習	知識の整理
12	脳領域と障 害	授業内容	頭頂葉機能とその障害
		予習	指定の参考書に目を通しておく
		復習	知識の整理
13	脳領域と障 害	授業内容	後頭葉機能とその障害
		予習	指定の参考書に目を通しておく
		復習	知識の整理
14	脳領域と障 害	授業内容	脳梁機能とその障害
		予習	指定の参考書に目を通しておく
		復習	知識の整理
15	脳領域と障 害	授業内容	視床、基底核の機能とその障害
		予習	指定の参考書に目を通しておく
		復習	知識の整理

評価法基準	定期試験 70%、授業内レポート 30%
教科書	「理学療法評価学」第6版 松澤正・江口勝彦
参考書	「脳MRI正常解剖」高橋昭喜編 秀潤社
履修上の注意	なし
オフィスアワー	水曜（12:10～12:50） 4-9 研究室 木曜（12:10～12:50） 4-9 研究室

科目名	神経理学療法評価学実習		担当教員	沼田 憲治	
学科	理学療法学科		学年	2 学年	
学期	前期	必修 / 選択	必修	授業形態	実習
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	<p>神経理学療法評価学実習では、神経理学療法評価学で学んだことをもとに、神経疾患患者における意識レベルの評価、筋緊張の評価、反射検査、感覚検査、高次脳機能障害の検査、基本動作や歩行動作分析などの共通的な検査手技について実習を行い、疾患の障害像を把握するための具体的評価方法について習得する。また、それぞれの神経疾患ごとに行われる検査、評価方法についても実習を行い、障害の重症度と問題点について把握する方法を学ぶ。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 意識レベルの診かたについて、評価方法ごとに説明、実施できる。 2 神経疾患に対する筋緊張の評価を説明、実施できる。 3 反射の検査（深部腱反射、病的反射）について説明、実施できる。 4 感覚検査（表在感覚、深部感覚）について説明、実施できる。 5 中枢神経疾患に対する片麻痺検査について、説明、実施できる。 6 協調性の検査について説明、実施できる。 7 脳神経検査について説明、実施できる。 8 高次脳機能障害に関する検査方法について説明、実施できる。 9 神経疾患患者における基本動作や歩行動作分析ができる。

No.	テーマ		内容
1	意識レベル、筋緊張の検査	授業内容	意識レベルの評価方法、筋緊張の検査を習得する。
		予習	なし
		復習	実習内容のまとめ
2	反射検査	授業内容	深部腱反射、病的反射の検査方法を習得する。
		予習	実習内容の振り返り
		復習	実習内容のまとめ
3	感覚検査	授業内容	表在感覚、深部感覚の検査方法を習得する。
		予習	実習内容の振り返り
		復習	実習内容のまとめ
4	片麻痺検査	授業内容	片麻痺検査を習得する。
		予習	実習内容の振り返り
		復習	実習内容のまとめ
5	片麻痺検査	授業内容	片麻痺検査を習得する。
		予習	実習内容の振り返り
		復習	実習内容のまとめ
6	片麻痺検査	授業内容	片麻痺検査を習得する。
		予習	実習内容の振り返り
		復習	実習内容のまとめ

7	協調性の評価	授業内容	協調性の評価方法を習得する。
		予習	実習内容の振り返り
		復習	実習内容のまとめ
8	脳神経検査	授業内容	脳神経検査を習得する。
		予習	実習内容の振り返り
		復習	実習内容のまとめ
9	脳神経検査	授業内容	脳神経検査を習得する。
		予習	実習内容の振り返り
		復習	実習内容のまとめ
10	高次脳機能評価	授業内容	高次脳機能の評価方法を習得する。
		予習	実習内容の振り返り
		復習	実習内容のまとめ
11	高次脳機能評価	授業内容	高次脳機能の評価方法を習得する。
		予習	実習内容の振り返り
		復習	実習内容のまとめ
12	動作分析	授業内容	神経疾患患者の動作分析を習得する。
		予習	実習内容の振り返り
		復習	実習内容のまとめ
13	動作分析	授業内容	神経疾患患者の動作分析を習得する。
		予習	実習内容の振り返り
		復習	実習内容のまとめ
14	模擬患者の評価	授業内容	ペーパーペイシエントに適した評価方法を選択、実施する。
		予習	実習内容の振り返り
		復習	実習内容のまとめ
15	模擬患者の評価	授業内容	ペーパーペイシエントに適した評価方法を選択、実施する。
		予習	実習内容の振り返り
		復習	実習内容のまとめ

評価法基準	実技試験 80%、授業内レポート 20%
教科書	「ベッドサイドの神経の診かた」 田崎義昭、斎藤佳雄、坂井文彦、濱田潤一著 南山堂
参考書	「理学療法評価学」 松澤 正、江口勝彦 金原出版 その他、随時資料を配布する。
履修上の注意	動きやすい服装で臨むこと。 教科書等を用いて予習・復習の自己学習を積極的に行い、授業に臨むこと。
オフィスアワー	水曜（12:10～12:50） 4-9 研究室 木曜（12:10～12:50） 4-9 研究室

科目名	内部障害理学療法評価学		担当教員	田畑 稔	
学科	理学療法学科		学年	3 学年	
学期	前期	必修	必修	授業形態	講義
単位数	2 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	内部障害理学療法評価学は、内部障害の病態を適切に理解したうえで、各病態に起因する身体運動障害の要因を明らかにするための検査・測定法および理学療法評価法について学修する。また、内部障害により生ずる身体運動機能への影響についての基礎知識を習得する。講義では主に代謝系疾患、呼吸器疾患、循環器疾患に関する医学領域知識に触れながら、各疾患病態に対するリスク層別方法や対処方法を提示する。内科系疾患を評価する諸々の評価指標（身体所見、臨床検査データ等）のとらえ方や確認方法、及び臨床場面における理学療法評価方法を示す。
到達目標	<p>チーム医療に対応するべく、内部障害理学療法評価の臨床的位置づけと評価方法について理解し習得すること</p> <p>① 糖尿病および肥満症の病態を理解、把握した上で理学療法評価法を選択できる</p> <p>② 糖尿病の合併症を理解し、安全に理学療法評価を実施するための注意点を理解できる</p> <p>③ 急性および慢性閉塞性呼吸器疾患の病態を理解、把握した上で理学療法評価方法を選択できる</p> <p>④ 急性および慢性閉塞性呼吸器疾患の病期に応じた理学療法評価方法を選択できる</p> <p>⑤ 急性および慢性閉塞性呼吸器疾患の合併症を理解し、安全に理学療法評価方法を実施するための注意点を理解できる</p> <p>⑥ 虚血性心疾患および慢性心不全の病態を理解、把握した上で理学療法評価方法を選択できる</p> <p>⑦ 虚血性心疾患および慢性心不全の病期に応じた理学療法評価方法を選択できる</p> <p>⑧ 虚血性心疾患および慢性心不全の合併症を理解し、安全に理学療法評価方法を実施するための注意点を理解できる</p>

No.	テーマ		内容
1	糖尿病の病態評価	授業内容	糖尿病の病態評価法
		予習	該当する教科書を事前に熟読すること
		復習	糖尿病の病態評価法を説明できること
2	糖尿病の急性・慢性合併症の評価	授業内容	糖尿病の急性・慢性合併症の評価法
		予習	該当する教科書を事前に熟読すること
		復習	糖尿病の急性・慢性合併症の評価法を説明できること
3	糖尿病に対する理学療法評価法	授業内容	糖尿病に対する理学療法評価法
		予習	該当する教科書を事前に熟読すること
		復習	糖尿病に対する理学療法評価法について説明できること
4	慢性腎臓病に対する病態評価法	授業内容	慢性腎臓病に対する病態評価法
		予習	該当する教科書を事前に熟読すること
		復習	慢性腎臓病に対する病態評価法について説明できること

5	呼吸のメカニズムと評価法	授業内容	呼吸のメカニズムと評価法
		予習	該当する教科書を事前に熟読すること
		復習	呼吸のメカニズムと評価法を説明できること
6	呼吸不全の病態評価法	授業内容	呼吸不全の病態評価法
		予習	該当する教科書を事前に熟読すること
		復習	呼吸不全の病態評価法について説明できること
7	呼吸不全に対する理学療法評価法	授業内容	呼吸不全に対する理学療法の評価法
		予習	該当する教科書を事前に熟読すること
		復習	呼吸不全に対する理学療法の評価法について説明できること
8	酸素療法と人工呼吸器の評価法	授業内容	酸素療法と人工呼吸器の評価法
		予習	該当する教科書を事前に熟読すること
		復習	酸素療法と人工呼吸器の評価法について説明できること
9	虚血性心疾患に対する病態評価法	授業内容	虚血性心疾患に対する病態評価法
		予習	該当する教科書を事前に熟読すること
		復習	虚血性心疾患に対する病態評価法について説明できること
10	心不全に対する病態評価法	授業内容	心不全に対する病態評価法
		予習	該当する教科書を事前に熟読すること
		復習	心不全に対する病態評価法について説明できること
11	大血管疾患に対する病態評価法	授業内容	大血管疾患に対する病態評価法
		予習	該当する教科書を事前に熟読すること
		復習	大血管疾患に対する病態評価法について説明できること
12	末梢血管疾患に対する病態評価法	授業内容	末梢血管疾患に対する病態評価法
		予習	該当する教科書を事前に熟読すること
		復習	末梢血管疾患に対する病態評価法について説明できること
13	心大血管疾患に対する理学療法評価法 1	授業内容	心大血管疾患に対する理学療法評価法 1
		予習	該当する教科書を事前に熟読すること
		復習	心大血管疾患に対する理学療法評価法について説明できること
14	心大血管疾患に対する理学療法評価法 2	授業内容	心大血管疾患に対する理学療法評価法 2
		予習	該当する教科書を事前に熟読すること
		復習	心大血管疾患に対する理学療法評価法について説明できること
15	心大血管疾患に対する理学療法評価法 3	授業内容	心大血管疾患に対する理学療法評価法 3
		予習	該当する教科書を事前に熟読すること
		復習	心大血管疾患に対する理学療法評価法について説明できること

評価法基準	<p>講義ごとに講義ノートを提出し、講義の理解度を確認した上、期末試験結果を踏まえて成績評価を行う</p> <p>講義ノート 60% 講義内容全般を適切に要約した内容がまとめられていること</p> <p>学期末筆記試験 40% 講義全般より出題し、正答率6割以上を以て合格とする</p>
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・15 レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 内部障害理学療法学 循環・代謝 第二版 出版社 中山書店 ・15 レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 内部障害理学療法学 呼吸 第三版 出版社 中山書店 ・糖尿病治療ガイド 2022-2023 編 日本糖尿病学会 出版社 文光堂
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・内部障害理学療法学 出版社 羊土社 ・シンプル理学療法学シリーズ 内部障害理学療法学テキスト 改訂第2版 出版社 南江堂 ・呼吸リハビリテーションマニュアル-運動療法- 第2版 編集 日本呼吸管理学会、日本呼吸器学会、日本理学療法士協会 出版社 照林社
履修上の注意	<p>内部障害を生じる（代謝系・呼吸器・循環器）疾患に対する理学療法評価学を学ぶため、事前に教科書を熟読し、（代謝系・呼吸器・循環器）疾患について、各自、予習・復習を必ず実施し講義へ臨むこと</p>
オフィスアワー	<p>水曜（12:10-12:50）、4-1 研究室</p>

科目名	内部障害理学療法評価学実習		担当教員	加藤 剛平・田畑 稔	
学科	理学療法学科		学年	3 学年	
学期	前期	必修	必修	授業形態	実習
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	内部障害理学療法評価学実習は、内部障害理学療法評価学において学修した内容を踏まえて、内部障害の各病態に起因する身体運動障害を正確に評価し、各内部障害の病態を把握するために必要な検査・測定法について実習を通じて学修する。また、呼吸機能、循環機能、代謝機能検査の目的や実施方法を習得し、得られた情報を解析・分析したうえで、内部障害患者に対して適切な検査項目を選択する能力を習得する。
到達目標	到達目標は、チーム医療において内科系障害理学療法の臨床的位置づけと介入方法の判断することを考えることができ、対象患者へのリスク層別と運動処方を臨機応変に理学療法計画へ組み込むこと ① フィジカルサインを正確にとらえて、正しく計測することができる ② 運動中のフィジカルサインを正確に計測することができる ③ 運動負荷方法により、フィジカルサインの反応が異なることを理解できる ④ 運動負荷強度と酸素摂取量、心拍数の関連性を理解できる ⑤ 無酸素性代謝閾値について理解できる ⑥ 肺機能検査及び経皮的酸素飽和度を理解し、正しく計測することができる ⑦ 心電図の計測方法と波形を理解する ⑧ 内部障害における画像評価を理解する

No.	テーマ		内容
1	バイタルサイン測定実習	授業内容	バイタルサイン（脈拍）測定実習
		予習	該当する教科書を事前に熟読すること
		復習	脈拍測定の意義について説明できること
2	運動負荷に対するバイタルサイン測定実習 1	授業内容	バイタルサイン（血圧）測定実習
		予習	該当する教科書を事前に熟読すること
		復習	血圧測定について説明できること
3	運動負荷に対するバイタルサイン測定実習 2	授業内容	運動時バイタルサイン（二重積）測定実習
		予習	該当する教科書を事前に熟読すること
		復習	運動時バイタルサイン測定について説明できること
4	運動負荷に対するバイタルサイン測定実習 3	授業内容	運動中のバイタルサイン（心電図モニタリング）測定実習
		予習	該当する教科書を事前に熟読すること
		復習	運動中のバイタルサイン測定について説明できること

5	トレッドミル&マスター階段による運動負荷試験実習	授業内容	トレッドミル&マスター階段による運動負荷試験実習
		予習	該当する教科書を事前に熟読すること
		復習	トレッドミル&マスター階段による運動負荷試験について説明できること
6	標準 12 誘導心電図計測と心電図モニタリング 1	授業内容	標準 12 誘導心電図計測
		予習	該当する教科書を事前に熟読すること
		復習	標準 12 誘導心電図計測と心電図モニタリングについて説明できること
7	標準 12 誘導心電図計測と心電図モニタリング 2	授業内容	標準 12 誘導心電図波形解析
		予習	該当する教科書を事前に熟読すること
		復習	標準 12 誘導心電図波形について説明できること
8	糖尿病慢性合併症の理学療法評価実習	授業内容	糖尿病慢性合併症の理学療法評価実習
		予習	該当する教科書を事前に熟読すること
		復習	糖尿病慢性合併症の理学療法評価について説明できること
9	糖尿病仮想患者の理学療法評価シミュレーション	授業内容	糖尿病仮想症例の理学療法評価シミュレーション
		予習	該当する教科書を事前に熟読すること
		復習	糖尿病慢性合併症の理学療法評価について説明できること
10	虚血性心疾患仮想症例の理学療法評価シミュレーション	授業内容	虚血性心疾患仮想症例の理学療法評価シミュレーション
		予習	該当する教科書を事前に熟読すること
		復習	虚血性心疾患症例の理学療法評価について説明できること
11	心不全仮想症例の理学療法評価シミュレーション	授業内容	心不全仮想症例の理学療法評価シミュレーション
		予習	該当する教科書を事前に熟読すること
		復習	心不全症例の理学療法評価について説明できること

12	呼吸器疾患のフィジカルサイン (評価方法、視診、触診、聴診、打診、胸郭運動)	授業内容	呼吸器疾患のフィジカルサイン (評価方法、視診、触診、聴診、打診、胸郭運動)
		予習	該当する教科書を事前に熟読すること
		復習	呼吸器疾患のフィジカルサイン (評価方法、視診、触診、聴診、打診、胸郭運動) について説明できること
13	呼吸器疾患の理学療法評価1 (自覚的運動強度、筋力測定、フィールドテストなど)	授業内容	呼吸器疾患の理学療法評価1 (自覚的運動強度、筋力測定、フィールドテストなど)
		予習	該当する教科書を事前に熟読すること
		復習	呼吸器疾患の理学療法評価 (自覚的運動強度、筋力測定、フィールドテストなど) について説明できること
14	呼吸器疾患の理学療法評価2 (呼吸機能検査、経皮的酸素飽和度など)	授業内容	呼吸器疾患の理学療法評価2 (呼吸機能検査、経皮的酸素飽和度など)
		予習	該当する教科書を事前に熟読すること
		復習	呼吸器疾患の理学療法評価 (呼吸機能検査、経皮的酸素飽和度など) について説明できること
15	振り返り	授業内容	当該実習における疑問点を振り返る
		予習	当該実習における疑問点をまとめる
		復習	当該実習における疑問点について説明できること

評価法基準	各講義に、講義ノートを提出し、講義の理解度を確認したうえで、期末試験結果とレポートの提出などを踏まえて成績の評価を行う。 講義ノート (60%) 期末試験 (40%)
教科書	15 レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 内部障害理学療法学 循環・代謝 出版社 中山書店 15 レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 内部障害理学療法学 呼吸 出版社 中山書店
参考書	なし
履修上の注意	安静時や運動時の反応について測定実習を行うので、生理学、生理学実習、運動療法学、理学療法評価学で履修した、バイタルサインや呼吸機能検査について、各自事前に、十分に復習したうえで教科書を熟読し講義に臨むこと。
オフィスアワー	

科目名	物理療法学		担当教員	大矢 暢久	
学科	理学療法学科		学年	3 学年	
学期	後期	必修 / 選択	必修	授業形態	講義
単位数	2 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	物理療法は、運動療法と並ぶ理学療法の技術体系の一つである。この療法は、物理的エネルギーを生体に与えることにより、自然治癒能力を賦活させるように働きかける治療法である。一般的には温熱療法、寒冷療法、電気療法、光線療法、水治療法、牽引療法が知られている。物理療法の方法と種類、目的、原理、そして適応と禁忌について学ぶ。さらにこれらの物理的刺激に対し、生体ではどのような反応が起こり、これがどのような治療効果を生み出しているかを理解する。また、物理療法の方法と実施する上での注意すべき事項を学ぶ。
到達目標	物理療法の概要と生理学的作用、実施方法と実施上注意すべき事項、適応と禁忌、治療効果について理解し、説明できる。また、これらを適用するにあたり、リスクの管理と安全性を考慮した技能を身につける。

No.	テーマ		内容
1	物理療法の概要	授業内容	物理療法の分類など
		予習	授業に関連する内容について予習する（教科書）
		復習	物理療法の意義と目的などをまとめる
2	疼痛	授業内容	疼痛の定義、伝導路、評価法など
		予習	授業に関連する内容について予習する（教科書）
		復習	疼痛の定義、伝導路、評価法などをまとめる
3	炎症反応	授業内容	炎症反応の定義、メカニズム、理学療法士としての対応など
		予習	授業に関連する内容について予習する（教科書）
		復習	炎症反応の定義、メカニズム、理学療法士としての対応などについてまとめる
4	温熱療法 1	授業内容	ホットパック、パラフィンの治療方法など
		予習	ホットパック、パラフィンの適応、禁忌を予習する（配布資料）
		復習	ホットパック、パラフィンの治療方法などについてまとめる
5	温熱療法 2	授業内容	極超短波療法、超音波療法の治療方法など
		予習	極超短波療法、超音波療法の適応、禁忌について予習する（配布資料）
		復習	極超短波療法、超音波療法の治療方法などについてまとめる
6	温熱療法 3	授業内容	温熱療法の生理学的作用など
		予習	温熱療法の生理学的作用を予習する（教科書）
		復習	温熱療法の生理学的作用についてまとめる
7	温熱療法 4	授業内容	部分浴の治療方法など
		予習	部分浴の適応、禁忌について予習する（配布資料）
		復習	部分浴の治療方法についてまとめる

8	温熱療法 5	授業内容	水治療法の生理学的作用など
		予習	水治療法の生理学的作用を予習する（教科書）
		復習	水治療法の生理学的作用についてまとめる
9	寒冷療法 1	授業内容	コールドパック、アイスクリッカーの治療方法など
		予習	コールドパック、アイスクリッカーの適応、禁忌について予習する（配布資料）
		復習	コールドパック、アイスクリッカーの治療方法についてまとめる
10	寒冷療法 2	授業内容	寒冷療法の生理学的作用など
		予習	寒冷療法の生理学的作用について予習する（教科書）
		復習	寒冷療法の生理学的作用についてまとめる
11	電気刺激療法 1	授業内容	低周波治療の治療方法など
		予習	低周波治療器の適応、禁忌について予習する（配布資料）
		復習	低周波治療器の治療方法についてまとめる
12	電気刺激療法 2	授業内容	干渉波治療の治療方法など
		予習	干渉波療法の適応、禁忌を予習する（配布資料）
		復習	干渉波治療の治療方法についてまとめる
13	電気刺激療法 3	授業内容	電気刺激療法の生理学的作用など
		予習	電気刺激療法の生理学的作用について予習する（教科書）
		復習	電気刺激療法の生理学的作用についてまとめる
14	牽引療法	授業内容	頸椎牽引療法、腰椎牽引療法の治療方法、生理学的作用など
		予習	頸椎牽引療法、腰椎牽引療法の適応、禁忌について予習する（配布資料）
		復習	牽引療法の生理学的作用をまとめる
15	光線療法	授業内容	光線療法の分類、原理、生理学的作用など
		予習	光線療法の適応、禁忌について予習する（配布資料）
		復習	光線療法の分類、原理、生理学的作用についてまとめる
評価法基準	定期試験（筆記試験）60%、授業内課題（リアクションペーパー）40%		
教科書	庄本康治編:エビデンスから身につける物理療法. 羊土社, 2017. ISBN 978-4-7581-0221-6		
参考書	なし		
履修上の注意	テキストを適宜配布するので、授業の前に目を通しておくこと。 デモンストレーションを行うこともあるので、その際は機器の操作に十分習熟すること。		
オフィスアワー	水曜（12:10～13:00） 3-12研究室		

科目名	物理療法学実習		担当教員	武井 圭一	
学科	理学療学科		学年	3 学年	
学期	後期	必修 / 選択	必修	授業形態	実習
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	物理的な刺激を治療として用いる場合の治療前後の状態を評価し、治療効果の検討方法を講義・実習によって学習する。また、生理学で学んできたことを活かし、生体の自然回復力を学習し、その過程を正常な反応に導くことを大きな目的とする。さらに、リハビリテーション医療の効果を上げるための物理療法の効果的利用の重要性を理解する。
到達目標	①機器の操作方法を正しく理解し、物理エネルギーの特性、生体組織の反応を十分に把握する。 ②温熱刺激、機械的刺激の効果を理解し、各種物理療法の目的、手順、リスク管理について理解し、遂行できる。 ③物理療法の生体への影響、特徴、適応と禁忌を学習し、適応となる疾患について推測、考察できる。

No.	テーマ		内容
1	オリエンテーション	授業内容	実習目的、実習概要、実習グループ編成、実習計画、実習注意事項
		予習	なし
		復習	授業内容のまとめ
2	実習計画 1	授業内容	グループでの実習計画作成 1
		予習	実習内容の見直し
		復習	実習内容のまとめ
3	実習計画 2	授業内容	グループでの実習計画作成 2
		予習	実習内容の見直し
		復習	実習内容のまとめ
4	実習計画 3	授業内容	グループでの実習計画発表準備 1
		予習	実習内容の見直し
		復習	実習内容のまとめ
5	実習計画 4	授業内容	グループでの実習計画発表準備 2
		予習	実習内容の見直し
		復習	実習内容のまとめ
6	実習計画 5	授業内容	グループでの実習計画発表
		予習	実習内容の見直し
		復習	実習内容のまとめ
7	温熱療法	授業内容	温熱療法による生体変化
		予習	実習内容の見直し
		復習	実習内容のまとめ
8	寒冷療法	授業内容	寒冷療法による生体変化
		予習	実習内容の見直し
		復習	実習内容のまとめ

9	電気刺激療法	授業内容	電気刺激療法による生体変化
		予習	実習内容の見直し
		復習	実習内容のまとめ
10	電気刺激療法	授業内容	電気刺激療法による生体変化
		予習	実習内容の見直し
		復習	実習内容のまとめ
11	水治療法	授業内容	水治療法による生体変化
		予習	実習内容の見直し
		復習	実習内容のまとめ
12	牽引療法	授業内容	牽引療法による生体変化
		予習	実習内容の見直し
		復習	実習内容のまとめ
13	発表準備 1	授業内容	グループごとに立案した実験計画について、各グループの結果を集約して実験方法・結果・考察を抄録・スライドを作成する。
		予習	実習内容の見直し
		復習	実習内容のまとめ
14	発表準備 2	授業内容	グループごとに立案した実験計画について、各グループの結果を集約して実験方法・結果・考察を抄録・スライドを作成する。
		予習	実習内容の見直し
		復習	実習内容のまとめ
15	発表	授業内容	13回—14回で作成した抄録・スライドをもとに発表する。
		予習	実習内容の見直し
		復習	実習内容のまとめ

評価法基準	<p>評価法：発表 60%、レポート（実験計画書・抄録） 40%</p> <p>基準：発表は実験の計画発表、実験後の結果をまとめた最終発表の内容、プレゼン技術などを点数化</p> <p>レポートは実験計画書、抄録（目的、方法、結果、考察）の内容を評価する</p>
教科書	なし
参考書	適宜紹介
履修上の注意	<p>生体反応の変化をみる観点から、急激な変化における迅速な報告の遵守とリスク管理の徹底を図る。</p> <p>実習遂行において、積極的かつ迅速で正確な姿勢で臨み、真摯に取り組むことを求める。</p>
オフィスアワー	

科目名	義肢装具学		担当教員	灰田 信英	
学科	理学療法学科		学年	3 学年	
学期	前期	必修 / 選択	必修	授業形態	講義
単位数	2 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	<p>切断のリハビリテーションを理解する。義肢学では、股義足、大腿義足、下腿義足、サイム義足を中心に構造と機能を理解する。これらを装着した時のスタティックアライメント、ダイナミックアライメントのチェックすべき項目について理解する。</p> <p>装具学では、短下肢装具、長下肢装具、上肢装具、体幹装具の種類と機能、適応となる疾患を把握する。これらを装着した時のチェックアウトすべき項目を理解する。</p>
到達目標	<p>切断のリハビリテーションを把握する。股義足、大腿義足、下腿義足、サイム義足の構造と機能を理解し説明できる。義足歩行を分析し、異常が観察される際に適切な対応が取れる。短下肢装具、長下肢装具、上肢装具、体幹装具の種類と機能、適応となる疾患や症状を説明できる。義肢および装具のチェックアウトが実施できる。</p>

No.	テーマ		内容
1	切断の概要	授業内容	切断の原因、切断と義肢の分類、切断手技の概要
		予習	外科学書を参照し、切断術式の概略を理解しておく
		復習	講義内容を振り返り、ノートにまとめる
2	切断のリハビリテーション	授業内容	切断端の医学的管理、早期義肢装着法、義肢装着訓練、義肢の構成要素
		予習	外科学書を参照し、切断術後の医学的管理と術後合併症について調べる
		復習	リハビリテーション医学における義肢装具学の役割を把握する
3	足指義足とサイム義足	授業内容	足指義足とサイム義足の構造と機能
		予習	足指切断とサイム切断術式を理解し、予想される機能の障害について調べる。
		復習	義足の構造と機能をまとめ、歩行動作にどのように貢献するのか理解を深める。
4	下腿義足	授業内容	下腿義足の種類と構造、アライメント、下腿義足歩行の特徴
		予習	下腿切断の術式を理解し、術後に発生する機能障害について調べる
		復習	義足の構造と機能、下腿義足歩行の特徴をまとめる
5	大腿義足	授業内容	大腿義足の種類と構造、アライメント、大腿義足歩行の特徴
		予習	大腿切断の術式を理解し、術後に発生する機能障害について調べる
		復習	義足の構造と機能、大腿義足歩行の特徴をまとめる
6	股義足	授業内容	股義足の特徴と構造、アライメント、股義足歩行の特徴
		予習	股関節離断および片側骨盤切除の術式を理解し、術後に発生する機能障害について調べる
		復習	股義足の機能と構造、アライメント、股義足歩行の特徴をまとめる
7	義足の適合判定	授業内容	下腿義足、大腿義足、股義足の適合判定
		予習	義足の適合判定と効果判定の役割と重要性を調べる
		復習	適合判定でチェックしなければならない事項を覚える

8	義手	授業内容	上肢切断高位と義手の関係、義手の構造と機能、上肢切断のリハビリテーション
		予習	上肢切断の術式を理解し、術後に発生する機能障害について調べる
		復習	義手の構造と機能、上肢切断のリハビリテーション、義手と人の手の違いについてまとめる
9	装具学概論	授業内容	装具の適応となる疾患と障害、装具の種類、正常歩行と異常歩行
		予習	装具の適応となる疾患や障害、歩行の運動学について調べる
		復習	講義の内容を振り返り、まとめる
10	靴型装具	授業内容	種類と特徴、適応となる疾患や障害、チェックアウト
		予習	足の構造と機能、主な足部変形と原因について調べる
		復習	足部障害の改善に装具がどのような役割を果たしているかをまとめる
11	短下肢装具	授業内容	種類と特徴、適応となる疾患や障害、チェックアウト
		予習	足関節の機能解剖、足関節に機能障害を起こす疾患を調べる
		復習	装具により関節の変形や機能障害がどのように改善されるのかをまとめる
12	長下肢装具	授業内容	種類と特徴、適応となる疾患や障害、チェックアウト
		予習	起立・歩行障害を起こす疾患や障害を調べる
		復習	起立・歩行障害に対する長下肢装具の役割をまとめる
13	免荷装具、 膝装具、股 装具	授業内容	種類と特徴、適応となる疾患や障害、チェックアウト
		予習	下肢の骨折、対麻痺、先天性内反足、先天性股関節脱臼、ペルテス病の病態を調べる
		復習	装具により機能障害がどのように改善されるのかをまとめる
14	体幹装具	授業内容	種類と特徴、適応となる疾患や障害、チェックアウト
		予習	脊椎の構造、動き、バイオメカニクス、疾患を調べる
		復習	適応となる疾患や障害と装具の関係についてまとめる
15	上肢装具	授業内容	種類と特徴、適応となる疾患や障害、チェックアウト
		予習	上肢・上肢帯の構造と機能、手機能の特殊性について調べる
		復習	適応となる障害と装具の関係についてまとめる

評価法基準	筆記試験（100%）
教科書	石川朗、佐竹将宏 編「理学療法テキスト 装具学」中山書店、2020 石川朗、永富史子 編「理学療法テキスト 義肢学」中山書店、2027
参考書	なし
履修上の注意	講義終了時にこの講義のまとめと次回の講義までに予習すべき内容を指示する。 質問や意見は授業中および終了時に適宜応答する。
オフィスアワー	水曜日（15:00～16:00） 6-4 研究室

科目名	義肢装具学実習		担当教員	灰田 信英	
学科	理学療法学科		学年	3 学年	
学期	前期	必修 / 選択	必修	授業形態	実習
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	臨床で適切に義肢や装具を処方・調整する能力を涵養する。義肢装具学で学修した知識をもとに、疾患や障害の種類と異常歩行の関連を学習する。義肢や装具の適合判定と効果判定の方法を理解する。
到達目標	義足の適合および義足歩行について理解し、異常歩行の原因の究明と対処法を提案できる。各種装具の疾患別適応および適合と評価について理解し、適合判定と効果判定を行うことができる。

No.	テーマ		内容
1	バイオメカニクス	授業内容	義肢装具に応用されるバイオメカニクスを理解する
		予習	人体の関節のバイオメカニクスを予習する
		復習	関節の変形を矯正させるためにどのような力を働かせばよいのかをまとめる
2	正常歩行・病的歩行	授業内容	正常および病的歩行についての診かた、評価の手法を実習する
		予習	歩行の運動学について予習する
		復習	病的歩行の原因と矯正法についてまとめる
3	断端の医学的管理	授業内容	切断術後の断端の管理法について実習する
		予習	切断術後に起こる機能障害と合併症について予習する
		復習	機能障害と合併症に対する理学療法の役割をまとめる
4	切断のリハビリテーション	授業内容	術後義肢装着法、義肢装着訓練、について実習する
		予習	術後切断端の治癒過程について予習する
		復習	術後義肢装着法、義肢装着訓練における理学療法の役割をまとめる
5	切断の理学療法	授業内容	切断者の理学療法プログラムの立案と実施法を実習する
		予習	切断者の理学療法プロトコルを予習する
		復習	切断者の理学療法プロトコルを把握し、その実施法を習熟する
6	断端の評価	授業内容	断端の皮膚の状態、断端痛、断端の可動域と筋力を評価する
		予習	関節可動域の測定法と筋力検査の方法を習熟する
		復習	切断高位の違いによる可動域と筋力の特徴についてまとめる
7	下腿義足の評価	授業内容	下腿義足歩行の評価、下腿義足のアライメント調整法と適合判定を実習する
		予習	下腿義足の種類と構造、アライメント、下腿義足歩行の特徴をまとめる
		復習	下腿義足歩行の評価、下腿義足のアライメント調整法と適合判定法をまとめる
8	大腿義足の評価	授業内容	大腿義足歩行の評価、大腿義足のアライメント調整法と適合判定を実習する
		予習	大腿義足の種類と構造、アライメント、大腿義足歩行の特徴をまとめる
		復習	大腿義足歩行の評価、大腿義足のアライメント調整法と適合判定法をまとめる
9	股義足の評価	授業内容	股義足歩行の評価、股義足のアライメント調整法と適合判定を実習する
		予習	股義足の機能と構造、アライメント、股義足歩行の特徴をまとめる
		復習	股義足歩行の評価、股義足のアライメント調整法と適合判定法をまとめる

10	短下肢装具 の評価	授業内容	短下肢装具のチェックアウト法を実習する
		予習	装具により関節の変形と機能障害がどのように改善されるのかを予習する
		復習	装具をチェックアウトする項目と要点についてまとめる
11	長下肢装具 の評価	授業内容	長下肢装具のチェックアウト法を実習する
		予習	装具により起立・歩行障害がどのように改善されるのかを予習する
		復習	装具をチェックアウトする項目と要点についてまとめる
12	下肢装具の 歩行	授業内容	下肢装具装着者の歩行の特徴と歩行練習を実習する
		予習	下肢障害者の歩行の特徴を予習する
		復習	下肢装具装着者の起立・歩行練習の方法、注意すべき事項をまとめる
13	上肢装具の 評価	授業内容	上肢装具のチェックアウト法を実習する
		予習	種類と特徴、適応となる疾患や障害を予習する
		復習	装具をチェックアウトする項目と要点についてまとめる
14	義肢の製作 過程	授業内容	義肢ソケットの採型、製作過程について実習する
		予習	断端の評価法について予習する
		復習	ソケットの採型、製作過程における陽性モデルと陰性モデルの関係をまとめる
15	装具の製作 過程	授業内容	装具の採寸、製作過程について実習する
		予習	四肢障害の診かた、評価法を予習する
		復習	四肢の形状の特徴が採寸、製作にどのように反映されているかをまとめる

評価法基準	筆記試験（100%）
教科書	石川朗、佐竹将宏 編「理学療法テキスト 装具学」中山書店、2020 石川朗、永富史子 編「理学療法テキスト 義肢学」中山書店、2027
参考書	資料は適宜配布する。
履修上の注意	質問や意見は授業中および終了時に適宜応答する。また、オフィスアワーの時間帯にも対応する。
オフィスアワー	水曜日（15:00～16:00） 6-4 研究室

科目名	日常生活活動学	担当教員	杉山 真理		
実務経験	リハビリテーションが目指すものは、単に身体機能の改善ではありません。加齢や障がいによって生じる日常生活の制限や不自由さを克服し、その人らしい人生を歩んでいくことです。理学療法士として急性期から生活期、訪問リハまで経験しましたが、日常生活活動は病期や重症度、疾病や障がいに関係なく、常に課題としてきました。高齢者、障がい者、すべての対象者の日常生活活動が安全かつ充実したものになるように、その支援方法を学びます。				
学科	理学療法学科	学年	2 学年		
学期	後期	必修 / 選択	必修	授業形態	講義
単位数	2 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	日常生活活動の概念、範囲、意義を学ぶ。日常生活活動の分析・評価方法について学習し、理学療法プログラムの立案へのプロセスを学ぶ。また、日常生活活動の障害程度を測定する方法を学び、様々な病態や障害像に合わせた日常生活活動の支援方法を学習する。日常生活に使用される代表的な福祉用具の使用方法や特徴について学び、選択・適合の手法を学ぶ。
到達目標	①日常生活活動の定義や概念を理解する。 ②代表的な評価方法を理解し、説明できるようになる。 ③代表的な自助具や福祉用具について理解し、選択・適合ができるようになる。 ④各疾患の日常生活動作の特徴を理解する。 ⑤各疾患の病態や障害を理解し、適切な指導方法を立案できるようになる。

No.	テーマ		内容
1	概論	授業内容	オリエンテーション、日常生活活動の概念
		予習	解剖学、運動学等の基礎医学および臨床医学を復習しておくこと
		復習	授業内容および疑問点をまとめておくこと
2	概論	授業内容	ADL と QOL、ICF の概念
		予習	教科書・参考書を事前に読んでおくこと
		復習	授業内容および疑問点をまとめておくこと、課題の作成
3	評価法	授業内容	各種評価法（疾患・障害特性に合わせた方法）
		予習	教科書・参考書を事前に読んでおくこと
		復習	授業内容および疑問点をまとめておくこと、課題の作成
4	脳血管障害者のADL	授業内容	疾病・障害の理解、疾病・障害特性に合わせた方法と練習方法、評価法
		予習	解剖学、運動学、基礎医学および臨床医学を復習しておくこと
		復習	授業内容および疑問点をまとめておくこと、課題の作成
5	脳血管障害者のADL	授業内容	疾病・障害特性に合わせた方法および練習方法
		予習	解剖学、運動学、基礎医学および臨床医学を復習しておくこと
		復習	授業内容および疑問点をまとめておくこと、課題の作成
6	脳血管障害者のADL	授業内容	障害特性に合わせた方法および練習方法、IADL 練習方法、活動と参加について
		予習	解剖学、運動学、基礎医学および臨床医学を復習しておくこと
		復習	授業内容および疑問点をまとめておくこと

7	脳血管障害 のADL	授業内容	復習とまとめ
		予習	講義内容の見直し、実技練習
		復習	授業内容および疑問点をまとめておくこと、課題の作成
8	脊髄損傷者 のADL	授業内容	疾病・障害特性に合わせた方法および練習方法
		予習	解剖学、運動学、基礎医学および臨床医学を復習しておくこと
		復習	授業内容および疑問点をまとめておくこと
9	脊髄損傷者 のADL	授業内容	障害特性に合わせた方法および練習方法、IADL 練習方法、活動と参加について
		予習	解剖学、運動学、基礎医学および臨床医学を復習しておくこと
		復習	授業内容および疑問点をまとめておくこと、課題の作成
10	脊髄損傷者 のADL	授業内容	疾病・障害の理解、疾病・障害特性に合わせた方法および練習方法
		予習	解剖学、運動学、基礎医学および臨床医学、人間発達学を復習しておくこと
		復習	授業内容および疑問点をまとめておくこと、課題の作成
11	脊髄損傷者 のADL	授業内容	復習とまとめ
		予習	講義内容の見直し、実技練習
		復習	授業内容および疑問点をまとめておくこと、課題の作成
12	脳性麻痺者 のADL	授業内容	疾病・障害の理解、疾病・障害特性に合わせた方法および練習方法
		予習	解剖学、運動学等の基礎医学および臨床医学、人間発達学を復習しておくこと
		復習	授業内容および疑問点をまとめておくこと、課題の作成
13	福祉用具	授業内容	移乗用の福祉用具（トランスファーボード、リフト）の適応、使用方法
		予習	解剖学、運動学等の基礎医学および臨床医学を復習しておくこと
		復習	授業内容および疑問点をまとめておくこと、課題の作成
14	車椅子シー ティング	授業内容	車椅子、電動車椅子、座位保持装置、褥瘡
		予習	解剖学、運動学等の基礎医学および臨床医学を復習しておくこと
		復習	授業内容および疑問点をまとめておくこと、課題の作成
15	まとめ	授業内容	提示された症例に関して、評価・指導・使用する福祉用具等について考え、発表する
		予習	福祉用具に関するカタログやメディア記事を読んでおくこと、講義内容を確認しておくこと
		復習	授業内容および疑問点をまとめること

評価法基準	定期試験 70%、授業内課題 30%
教科書	「標準理学療法学 専門分野 日常生活活動学・生活環境学 第5版」奈良勲監修 医学書院
参考書	講義のなかで紹介する
履修上の注意	解剖学・運動学等の基礎医学および疾病・障害等の臨床医学について復習しておくこと。 講義内容に関するノートを作成すること。 4回目以降は、ジャージなどの動きやすい服装で参加すること。
オフィスアワー	木曜（昼休み 12:10～13:00） 3-25 研究室

科目名	日常生活活動学実習		担当教員	有本 邦洋、重國 宏次	
学科	理学療法学科		学年	2 学年	
学期	後期	必修 / 選択	必修	授業形態	実習
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	<p>様々な疾患（脳血管疾患や整形外科疾患など）や加齢が ADL（Activities of Daily Living；日常生活活動）におよぼす影響を理解し、理学療法士の観点から対象者への支援の方法について学ぶ。授業で扱う疾患は各回のテーマに記す。ADL への影響については、身体機能面と環境面のそれぞれについて検討する。さらに、ICF を用いて問題点を整理し、その問題点に対する ADL 指導方法を学ぶ。ADL 指導法は身体機能面のみならず、歩行補助具といった福祉用具や住宅改修など環境面も含まれる。授業はグループごとのディスカッションや実技体験、発表を中心に行なっていく。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ ADL 動作を評価できる ・ 正常な基本動作、歩行動作の運動学的分析ができる ・ ADL 遂行に必要な身体機能と代表的な疾患が ADL におよぼす影響を説明できる ・ ICF を用いて問題点を整理し、福祉用具や環境面も含めた支援策を考えることができる ・ ADL 指導法を実践することができる

No.	テーマ		内容
1	ADL の概念と評価	授業内容	ADL と QOL、ICF について・ADL 評価の役割と活用方法を学ぶ。
		予習	なし
		復習	授業内容のまとめ
2	基本動作の運動学的分析 (寝返り、起き上がり)	授業内容	寝返り、起き上がり動作、座位姿勢を運動学的に分析し、自らも実践する。
		予習	実習計画の見直し
		復習	実習内容のまとめ
3	基本動作の運動学的分析 (起立、移乗動作)	授業内容	起立、立位姿勢、着座動作、移乗動作について運動学的分析方法を学び、自らも実践する。
		予習	実習計画の見直し
		復習	実習内容のまとめ
4	正常歩行の運動学的分析	授業内容	正常歩行について、運動学的分析方法を学び、実践し、確認する。
		予習	実習計画の見直し
		復習	実習内容のまとめ
5	ADL 動作	授業内容	食事、整容動作、更衣動作の運動学的分析方法を学び、福祉用具について学ぶ。排泄動作、入浴動作の運動学的分析と福祉用具、環境整備について学ぶ。
		予習	実習計画の見直し
		復習	実習内容のまとめ

6	関節リウマチのADLと移動動作	授業内容	関節リウマチの病態特性とADL指導、移動動作の注意点等について学ぶ。
		予習	実習計画の見直し
		復習	実習内容のまとめ
7	パーキンソン病、脊髄小脳変性症・脳血管障害のADL	授業内容	パーキンソン病、脊髄小脳変性症、脳血管障害の病態特性とADL指導を学ぶ。
		予習	実習計画の見直し
		復習	実習内容のまとめ
8	筋萎縮性側索硬化症、筋ジストロフィーのADL	授業内容	筋萎縮性側索硬化症、筋ジストロフィーの病態特性とADL指導について学ぶ。
		予習	実習計画の見直し
		復習	実習内容のまとめ
9	内部障害におけるADL指導	授業内容	内部障害に対する生活管理指導やADL指導を学ぶ
		予習	実習計画の見直し
		復習	実習内容のまとめ
10	整形外科疾患のADL (THA) 指導	授業内容	THA後の指導のポイントを学ぶ。
		予習	実習計画の見直し
		復習	実習内容のまとめ
11	整形外科疾患のADL (TKA) 指導	授業内容	TKA後の指導のポイントを学ぶ。
		予習	実習計画の見直し
		復習	実習内容のまとめ
12	下肢切断患者に対するADL指導	授業内容	下肢切断患者に対する生活管理指導やADL指導を学ぶ
		予習	実習計画の見直し
		復習	実習内容のまとめ
13	歩行補助具・車椅子について	授業内容	歩行補助具の種類と役割、使用方法を学ぶ。 車椅子の分類と種類、選定方法、駆動方法について学ぶ。
		予習	実習計画の見直し
		復習	実習内容のまとめ
14	症例に対してのADL指導の検討	授業内容	提示された症例に対し、ADL指導の方法をグループで検討し、発表の準備を行う。
		予習	実習計画の見直し
		復習	実習内容のまとめ
15	症例に対しての発表	授業内容	提示した患者のADL動作指導を発表する
		予習	実習計画の見直し
		復習	実習内容のまとめ

評価法基準	授業内課題 60%、グループ発表 40% 基準：授業内課題は、各疾患のADLに対する問題点の抽出、解決策に関する内容で評価する。グループ発表では、発表内容に加えて、質疑状況に関して評価する。
-------	--

教科書	「標準理学療法学 専門分野 日常生活活動学・生活環境学 第5版」奈良勲監修 医学書院
参考書	「日常生活活動の分析 身体運動学的アプローチ」藤澤宏幸編集 医歯薬出版 「新版日常生活活動（ADL）評価と支援の実際」伊藤利之、江藤文夫編 医歯薬出版
履修上の注意	動作の練習を行うため、ジャージなど体を動かしやすい服装で出席してください。
オフィスアワー	有本：水曜（12:00-12:50）、3-7 研究室 重國：木曜（12:00-12:50）、3-18 研究室

科目名	運動器理学療法学		担当教員	鳥居 昭久	
学科	理学療法学科		学年	2 学年	
学期	後期	必修 / 選択	必修	授業形態	講義
単位数	2 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	この科目は、運動器（骨・関節、骨格筋）に関わる主に整形外科系疾患とそれに伴う機能障害・形態障害および活動制限の治療、改善のために実施される理学療法について学ぶ。関係する関節の機能解剖学、病態運動学、また外科・整形外科手術の基礎知識について学び、情報収集、画像診断、その他の検査結果を踏まえ、適切な理学療法についての理解を深めることが必要である。その上で、次の運動器理学療法学実習における技術的習得に繋がられるための知識を身に付けることが目的となる。
到達目標	①運動器に関わる疾患と機能障害・形態障害および活動制限について説明できる。 ②各運動器疾患に対する理学療法について説明できる。

No.	テーマ		内容
1	組織再生修復	授業内容	第 1 章 組織の再生と修復（総論）
		予習	テキスト指定範囲の予習をする
		復習	講義内容についてのまとめノートの作成
2	組織再生修復	授業内容	第 2 章 組織の再生と修復（評価と治療）*実技含む
		予習	テキスト指定範囲の予習をする
		復習	講義内容についてのまとめノートの作成
3	骨折と脱臼	授業内容	第 3 章 骨折と脱臼（総論）
		予習	テキスト指定範囲の予習をする
		復習	講義内容についてのまとめノートの作成
4	骨折と脱臼	授業内容	第 4 章 骨折と脱臼（評価と治療）*実技含む
		予習	テキスト指定範囲の予習をする
		復習	講義内容についてのまとめノートの作成
5	骨折と脱臼	授業内容	第 5 章 第 6 章 高齢者の骨折（四大骨折）
		予習	テキスト指定範囲の予習をする
		復習	講義内容についてのまとめノートの作成
6	骨折と脱臼	授業内容	第 7 章 高齢者の骨折（評価と治療）*実技含む
		予習	テキスト指定範囲の予習をする
		復習	講義内容についてのまとめノートの作成
7	変形性関節症	授業内容	第 8 章 変形性股関節症・変形性膝関節症（総論）
		予習	テキスト指定範囲の予習をする
		復習	講義内容についてのまとめノートの作成
8	変形性関節症	授業内容	第 9 章 変形性股関節症・変形性膝関節症（評価と治療）*実技含む
		予習	テキスト指定範囲の予習をする
		復習	講義内容についてのまとめノートの作成

9	人工関節置換術	授業内容	第10章 人工股関節・人工膝関節置換術（総論）
		予習	テキスト指定範囲の予習をする
		復習	講義内容についてのまとめノートの作成
10	人工関節置換術	授業内容	第11章 人工股関節・人工膝関節置換術（ADLトレーニング）*実技含む
		予習	テキスト指定範囲の予習をする
		復習	講義内容についてのまとめノートの作成
11	関節リウマチ	授業内容	第12章 関節リウマチ（総論）
		予習	テキスト指定範囲の予習をする
		復習	講義内容についてのまとめノートの作成
12	関節リウマチ	授業内容	第13章 関節リウマチ（評価と治療） *実技含む
		予習	テキスト指定範囲の予習をする
		復習	講義内容についてのまとめノートの作成
13	末梢神経損傷	授業内容	第14章 末梢神経損傷（総論）
		予習	テキスト指定範囲の予習をする
		復習	講義内容についてのまとめノートの作成
14	末梢神経損傷	授業内容	第15章 末梢神経損傷（評価と治療） *実技含む
		予習	テキスト指定範囲の予習をする
		復習	講義内容についてのまとめノートの作成（指定日に提出とします）
15	まとめ	授業内容	全体のまとめ *実技含む
		予習	これまでの講義内容についての振り返りをする（ノートまとめ）
		復習	全ての講義内容について復習する

評価法基準	<p>期末試験 80%、講義まとめノート 20%で評価します。</p> <p>講義まとめノートに対する評価は、講義内容に一致していること、発展的に自己学習して知識をより深めていることを基本に評価します。ノートのまとめ方、記載方法、その他に乱雑さなどの点がみられる場合にも減点します。積極的で真摯な取り組みを期待します。</p>
教科書	<p>「15 レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 運動器障害理学療法学Ⅰ」石川朗編 中山書店</p> <p>その他、必要に応じて関連資料の配付をします</p>
参考書	<p>「整形外科学成書」解剖学・運動学成書</p>
履修上の注意	<p>この科目では、この運動器疾患、障害に対する理学療法の基本知識を学び、次の運動器理学療法学実習に繋げる知識を身に付けることを目的としています。従って、この科目の内容を十分に理解されていない場合には、運動器理学療法学実習を受講できない場合があります。</p> <p>講義まとめノートを作成し自身の学習の記録にしてください。</p> <p>この講義は、実技も含めて実施します。また、運動器障害に対応する三角巾固定、包帯固定、テーピングなどの実技を実施します。実技を行う際には連絡しますので、必ず、指定の服装などを準備してください。</p>
オフィスアワー	<p>随時（事前に UNIPA にて連絡してください）</p>

科目名	運動器理学療法学実習		担当教員	中村 泰規	
実務経験	医療機関および地域リハビリテーション（訪問・デイサービス等）、スポーツ現場にて長年従事した経験から、臨床における必要と思われる知識・技術を教授する。				
学科	理学療法学科		学年	2 学年	
学期	後期	必修 / 選択	必修	授業形態	実習
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	<p>整形外科疾患を起因として起こる運動器（骨・筋・腱・靭帯・関節・神経）障害にはさまざまである。これら障害に対する原因となる疾患・障害の病態、症状を理解し、その上で評価、治療までの一連の流れを学習し、運動器障害に対して、治療の意義・技術の習得を目標とする。</p> <p>またリスク管理も含め、この講義では実習を中心に、各疾患の病態の理解を深め、リスク管理を含めた治療技術を習得する。</p>
到達目標	<p>一般目標（GIO）： 各疾患でのリスク管理を考慮した上で必要な知識・治療技術を身につける。</p> <p>行動目標（SBO）： ①各疾患の病態・特徴を時期に合わせて説明できる ②評価、治療プログラムの作成と一連の流れを理解し、リスク管理を理解した上で、治療ができる ③基本的な検査手技および治療技術を習得する</p>

No.	テーマ		内容
1	オリエンテーション 脊椎疾患 (1) 総論	授業内容	本講義の概要説明、脊椎疾患の病態および総論
		予習	テキストにて予習してくること
		復習	講義内容を必ずまとめておくこと
2	脊椎疾患 (2) 頸椎疾患① 総論 実技:評価	授業内容	頸椎疾患の病態・総論および評価(講義・実技)
		予習	テキストにて予習してくること
		復習	講義内容を必ずまとめておくこと
3	脊椎疾患 (3) 頸椎疾患② 実技:評価・治療	授業内容	頸椎疾患の評価および治療(講義・実技) ※小テスト
		予習	テキストにて予習してくること
		復習	講義内容を必ずまとめておくこと
4	脊椎疾患 (4) 腰椎疾患① 総論 実技:評価	授業内容	腰椎疾患の病態・総論および評価(講義・実技)
		予習	テキストにて予習してくること
		復習	講義内容を必ずまとめておくこと
5	脊椎疾患 (5) 腰椎疾患② 実技:評価・治療	授業内容	腰椎疾患の評価および治療(講義・実技) ※小テスト
		予習	テキストにて予習してくること
		復習	講義内容を必ずまとめておくこと

6	脊髄損傷 (1) 総論	授業内容	脊髄損傷の病態・総論(講義)	
		予習	テキストにて予習してくること	
		復習	講義内容を必ずまとめておくこと	
7	脊髄損傷 (2) 評価	授業内容	脊髄損傷の評価(講義)	
		予習	テキストにて予習してくること	
		復習	講義内容を必ずまとめておくこと	
8	脊髄損傷 (3) 実技:治療	授業内容	脊髄損傷の治療(講義・実技)	※小テスト
		予習	テキストにて予習してくること	
		復習	講義内容を必ずまとめておくこと	
9	肩関節疾患 (1)総論 実技:評価	授業内容	肩関節疾患の病態および総論	
		予習	テキストにて予習してくること	
		復習	講義内容を必ずまとめておくこと	
10	肩関節疾患 (2) 実技:評価 と治療	授業内容	肩関節疾患の評価および治療(講義・実技)	※小テスト
		予習	テキストにて予習してくること	
		復習	講義内容を必ずまとめておくこと	
11	膝靭帯損傷 と半月板損 傷(1)総論	授業内容	膝靭帯損傷、半月板損傷の病態および総論	
		予習	テキストにて予習してくること	
		復習	講義内容を必ずまとめておくこと	
12	膝靭帯損傷 と半月板損 傷(2) 実技:評価	授業内容	膝靭帯損傷、半月板損傷の評価(講義・実技)	
		予習	テキストにて予習してくること	
		復習	講義内容を必ずまとめておくこと	
13	膝靭帯損傷 と半月板損 傷(3) 実技:治療	授業内容	膝靭帯損傷、半月板損傷の治療(講義・実技)	※小テスト
		予習	テキストにて予習してくること	
		復習	講義内容を必ずまとめておくこと	
14	捻挫と肉離 れ(1)総論	授業内容	捻挫および肉離れの病態および総論	
		予習	テキストにて予習してくること	
		復習	講義内容を必ずまとめておくこと	
15	捻挫と肉離 れ(2) 実技:評価 と治療	授業内容	捻挫・肉離れの評価および治療(講義・実技) : テーピング	※小テスト
		予習	テキストにて予習してくること	
		復習	講義内容を必ずまとめておくこと	
評価法基準	定期試験 80%、授業内小テスト 20%			
教科書	「(15 レクチャーシリーズ 理学療法テキスト) 運動器障害理学療法Ⅱ」 石川 朗、河村廣幸編集 中山書店 その他：参考資料配布			

参考書	<p>「脊髄損傷リハビリテーションマニュアル 第3版」 神奈川県リハビリテーション病院・脊髄損傷リハビリテーションマニュアル編集委員会 編集 医学書院</p> <p>「脊髄損傷理学療法マニュアル 第3版」 岩崎洋 編集 文光堂</p>
履修上の注意	<p>解剖学・生理学・運動学等を参考に、予習・復習と進めること。 各疾患の講義終了時に、まとめの小テストを行います。実技においては、講義後、各自で今後の 実習を踏まえ、練習し、技術を必ず習得すること</p>
オフィスアワー	<p>金曜（17:40-18:30）、5-10 研究室</p>

科目名	神経理学療法学		担当教員	安田 和弘	
実務経験	平成 10 年からリハビリテーション専門病院にて理学療法士として勤務。平成 24 年から早稲田大学グローバルロボットアカデミア研究所（研究助手）にてリハビリテーション支援機器の開発に従事、平成 27 年から早稲田大学理工学術院総合研究所（研究院講師）として東京都次世代イノベーション創出事業等の臨床試験を統轄。令和 2 年より同大学理工学術院総合研究所（研究院客員准教授）、同大学にて VR リハビリシステムの開発等に従事。				
学科	理学療法学科		学年	2 学年	
学期	後期	必修 / 選択	必修	授業形態	講義
単位数	2 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	脳卒中をはじめとする中枢神経疾患患者は運動障害のみならず高次脳機能障害など複雑で多様な症候・障害を呈する。ここでは、これらの問題を的確に評価することが求められ、それに基づき基本的な理学療法治療に結び付けられるようにすることが本授業の目的である。本授業は講義の他に学生自らが積極的に授業に参加するための予習が重要である。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ① 脳画像から基本的領域名と役割を述べるができる。 ② 患者の問題点に対する適切な検査を選択し、基本的な検査を実施できる。 ③ 実施する理学療法治療を根拠に基づいて説明できる。

No.	テーマ		内容
1	オリエンテーション	授業内容	講義概要および目標、評価基準の説明
		予習	なし
		復習	授業のまとめ
2	脳卒中の理学療法 1	授業内容	脳卒中急性期に対するリハビリテーション（講義）
		予習	配布資料を読んでおくこと
		復習	講義内容を踏まえて資料を用いて復習・整理する
3	脳卒中の理学療法 2	授業内容	課題指向型アプローチと運動学習（講義）
		予習	配布資料を読んでおくこと
		復習	講義内容を踏まえて資料を用いて復習・整理する
4	脳卒中の理学療法 3	授業内容	脳卒中に対する基本動作訓練（講義）
		予習	配布資料を読んでおくこと
		復習	講義内容を踏まえて資料を用いて復習・整理する
5	脳卒中の理学療法 4	授業内容	脳卒中に対するバランスリハビリテーション（講義）
		予習	配布資料を読んでおくこと
		復習	講義内容を踏まえて資料を用いて復習・整理する
6	脳卒中の理学療法 5	授業内容	脳卒中に対する歩行リハビリテーション（講義）
		予習	配布資料を読んでおくこと
		復習	講義内容を踏まえて資料を用いて復習・整理する

7	脳卒中の理学療法 6	授業内容	ニューロリハビリテーション 1 (講義)
		予習	配布資料を読んでおくこと
		復習	講義内容を踏まえて資料を用いて復習・整理する
8	脳卒中の理学療法 7	授業内容	ニューロリハビリテーション 2 (講義)
		予習	配布資料を読んでおくこと
		復習	講義内容を踏まえて資料を用いて復習・整理する
9	脳卒中の理学療法 8	授業内容	高次脳機能障害に対するアプローチ (講義)
		予習	配布資料を読んでおくこと
		復習	講義内容を踏まえて資料を用いて復習・整理する
10	脳卒中の理学療法 9	授業内容	脳卒中に対する神経生理学的アプローチ (講義)
		予習	配布資料を読んでおくこと
		復習	講義内容を踏まえて資料を用いて復習・整理する
11	失調症の理学療法	授業内容	失調症に対する理学療法アプローチ (講義)
		予習	配布資料を読んでおくこと
		復習	講義内容を踏まえて資料を用いて復習・整理する
12	パーキンソン病の理学療法	授業内容	パーキンソン病 (PD) に対する理学療法アプローチ (講義)
		予習	配布資料を読んでおくこと
		復習	講義内容を踏まえて資料を用いて復習・整理する
13	脊髄小脳変性症の理学療法	授業内容	脊髄小脳変性症 (SCD) に対する理学療法アプローチ (講義)
		予習	配布資料を読んでおくこと
		復習	講義内容を踏まえて資料を用いて復習・整理する
14	多発性硬化症の理学療法	授業内容	多発性硬化症に対する理学療法アプローチ (講義)
		予習	配布資料を読んでおくこと
		復習	講義内容を踏まえて資料を用いて復習・整理する
15	筋委縮性硬化症の理学療法	授業内容	筋萎縮性側索硬化症に対する理学療法アプローチ (講義)
		予習	配布資料を読んでおくこと
		復習	全体を通してレポートを作成する (課題提示)

評価法基準	定期試験 100%
教科書	「神経疾患のリハビリテーション」南山堂 その他、配布資料
参考書	なし
履修上の注意	なし
オフィスアワー	火曜 (12:10~12:50)、6-6 研究室

科目名	神経理学療法学実習		担当教員	安田 和弘	
実務経験	平成 10 年からリハビリテーション専門病院にて理学療法士として勤務。平成 24 年から早稲田大学グローバルロボットアカデミア研究所（研究助手）にてリハビリテーション支援機器の開発に従事、平成 27 年から早稲田大学理工学術院総合研究所（研究院講師）として東京都次世代イノベーション創出事業等の臨床試験を統轄。令和 2 年より同大学理工学術院総合研究所（研究院客員准教授）、同大学にて VR リハビリシステムの開発等に従事。				
学科	理学療学科		学年	2 学年	
学期	後期	必修 / 選択	必修	授業形態	実習
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	<p>脳血管疾患および神経筋疾患の病態を理解し、理学療法評価および理学療法の実践について理解する。</p> <p>中枢神経系の解剖学・生理学を十分に理解したうえで脳血管疾患の病態に関する知識を整理し、病期ごとの障害像を学修する。そして、脳血管疾患患者に対する一連の理学療法評価および理学療法を理解し、実際に体験する。</p> <p>神経筋疾患の病態に関する知識を整理し、各病期ならびに病態に応じた配慮を中心に学修する。また、神経筋疾患に対する理学療法評価および理学療法を理解し、実際に体験する。</p>
到達目標	<p>① 脳の構造および機能を説明できる。</p> <p>② 脳血管疾患によって生じる障害について説明できる。</p> <p>③ 脳血管疾患患者に対して実施する検査、測定および理学療法の基本的な手技が実施できる。</p> <p>④ 神経筋疾患患者に対して実施する検査、測定および理学療法の基本的な手技が実施できる。</p>

No.	テーマ		内容
1	オリエンテーション	授業内容	実習概要および目標、評価基準の説明
		予習	なし
		復習	授業のまとめ
2	脳卒中の理学療法 1	授業内容	脳卒中急性期に対するリハビリテーション（実習）
		予習	配布資料を読んでおくこと
		復習	講義内容を踏まえて資料を用いて復習・整理する
3	脳卒中の理学療法 2	授業内容	課題指向型アプローチと運動学習（実習）
		予習	配布資料を読んでおくこと
		復習	講義内容を踏まえて資料を用いて復習・整理する
4	脳卒中の理学療法 3	授業内容	脳卒中に対する基本動作訓練（実習）
		予習	配布資料を読んでおくこと
		復習	講義内容を踏まえて資料を用いて復習・整理する
5	脳卒中の理学療法 4	授業内容	脳卒中に対するバランスリハビリテーション（実習）
		予習	配布資料を読んでおくこと
		復習	講義内容を踏まえて資料を用いて復習・整理する

6	脳卒中の理学療法 5	授業内容	脳卒中に対する歩行リハビリテーション（実習）
		予習	配布資料を読んでおくこと
		復習	講義内容を踏まえて資料を用いて復習・整理する
7	脳卒中の理学療法 6	授業内容	ニューロリハビリテーション 1（実習）
		予習	配布資料を読んでおくこと
		復習	講義内容を踏まえて資料を用いて復習・整理する
8	脳卒中の理学療法 7	授業内容	ニューロリハビリテーション 2（実習）
		予習	配布資料を読んでおくこと
		復習	講義内容を踏まえて資料を用いて復習・整理する
9	脳卒中の理学療法 8	授業内容	高次脳機能障害に対するアプローチ（実習）
		予習	配布資料を読んでおくこと
		復習	講義内容を踏まえて資料を用いて復習・整理する
10	脳卒中の理学療法 9	授業内容	脳卒中に対する神経生理学的アプローチ（実習）
		予習	配布資料を読んでおくこと
		復習	講義内容を踏まえて資料を用いて復習・整理する
11	失調症の理学療法	授業内容	失調症に対する理学療法アプローチ（実習）
		予習	配布資料を読んでおくこと
		復習	講義内容を踏まえて資料を用いて復習・整理する
12	パーキンソン病の理学療法	授業内容	パーキンソン病（PD）に対する理学療法アプローチ（実習）
		予習	配布資料を読んでおくこと
		復習	講義内容を踏まえて資料を用いて復習・整理する
13	脊髄小脳変性症の理学療法	授業内容	脊髄小脳変性症（SCD）に対する理学療法アプローチ（実習）
		予習	配布資料を読んでおくこと
		復習	講義内容を踏まえて資料を用いて復習・整理する
14	多発性硬化症の理学療法	授業内容	多発性硬化症に対する理学療法アプローチ（実習）
		予習	配布資料を読んでおくこと
		復習	講義内容を踏まえて資料を用いて復習・整理する
15	筋萎縮性硬化症の理学療法	授業内容	筋萎縮性側索硬化症に対する理学療法アプローチ（実習）
		予習	配布資料を読んでおくこと
		復習	全体を通してレポートを作成する（課題提示）

評価法基準	実技試験 100%
教科書	配布資料
参考書	なし
履修上の注意	実技が行える服装を準備すること。 グループワークおよび実技には積極的に参加すること。
オフィスアワー	火曜（12:10～12:50）、6-6 研究室

科目名	内部障害理学療法学		担当教員	田畑 稔	
学科	理学療法学科		学年	3 学年	
学期	後期	必修	必修	授業形態	講義
単位数	2 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	<p>内部障害の中でも主に内科系疾患(代謝系・呼吸器・循環器疾患)により生じる病態像と障害像を理解した上で、内科系疾患障害対象者に対する理学療法展開方法について学修する。</p> <p>講義では主に代謝系疾患、呼吸器疾患、循環器疾患に関する医学領域知識に触れながら、疾患病態に対する理学療法実施上のリスク層別方法や対処方法を提示する。</p> <p>内科系疾患を評価する諸々の評価指標(身体所見、臨床検査データ等)のとらえ方や確認方法及び臨床場面における理学療法介入方法を示す。</p> <p>さらに、生活習慣病に対する健康増進や生活習慣に起因する様々な内科系疾患の予防とその対応について学ぶ。</p>
到達目標	<p>チーム医療に対応するべく、内部障害にかかわる内科系疾患による障害を有する対象者への理学療法の臨床的位置づけと介入方法や生活習慣病に対する健康増進について理解し習得すること</p> <p>①糖尿病および肥満症の病態を理解、把握した上で理学療法を選択できる</p> <p>②糖尿病の合併症を理解し、安全に理学療法を実施するための注意点を理解できる</p> <p>③急性および慢性閉塞性呼吸器疾患の病態を理解、把握した上で理学療法を選択できる</p> <p>④急性および慢性閉塞性呼吸器疾患の病期に応じた理学療法を選択できる</p> <p>⑤急性および慢性閉塞性呼吸器疾患の合併症を理解し、安全に理学療法を実施するための注意点を理解できる</p> <p>⑥虚血性心疾患および慢性心不全の病態を理解、把握した上で理学療法を選択できる</p> <p>⑦虚血性心疾患および慢性心不全の病期に応じた理学療法を選択できる</p> <p>⑧虚血性心疾患および慢性心不全の合併症を理解し、安全に理学療法を実施するための注意点を理解できる</p>

No.	テーマ		内容
1	糖尿病の病態と理学療法	授業内容	糖尿病の病態と理学療法について講義を行う
		予習	該当する教科書を熟読すること
		復習	糖尿病の病態について説明できるようにすること
2	糖尿病の急性および慢性合併症と理学療法	授業内容	糖尿病の急性および慢性合併症と理学療法について講義と演習を行う
		予習	該当する教科書を熟読すること
		復習	糖尿病の急性および慢性合併症と理学療法について説明できるようにすること
3	糖尿病および肥満症に対する医学的管理と健康増進について	授業内容	糖尿病および肥満症に対する医学的管理と健康増進について講義を行う
		予習	該当する教科書を熟読すること
		復習	糖尿病および肥満症に対する医学的管理および健康増進について説明できるようにすること

4	糖尿病に対する理学療法の留意点	授業内容	糖尿病に対する理学療法の留意点について講義を行う
		予習	該当する教科書を熟読すること
		復習	糖尿病に対する理学療法の留意点について説明できるようにすること
5	慢性腎臓病に対する理学療法	授業内容	慢性腎臓病に対する理学療法について講義を行う
		予習	該当する教科書を熟読すること
		復習	慢性腎臓病に対する理学療法について説明できるようにすること
6	喫煙の有害性と理学療法	授業内容	喫煙の有害性と理学療法について講義を行う
		予習	該当する教科書を熟読すること
		復習	喫煙の有害性と理学療法について説明できるようにすること
7	呼吸のメカニズムと理学療法	授業内容	呼吸のメカニズムと理学療法について講義を行う
		予習	該当する教科書を熟読すること
		復習	呼吸のメカニズムと理学療法について説明できるようにすること
8	呼吸不全の病態と理学療法	授業内容	呼吸不全の病態と理学療法について講義を行う
		予習	該当する教科書を熟読すること
		復習	呼吸不全の病態と理学療法について説明できるようにすること
9	酸素療法と人工呼吸器管理と理学療法	授業内容	酸素療法と人工呼吸器管理と理学療法について講義を行う
		予習	該当する教科書を熟読すること
		復習	酸素療法と人工呼吸器管理と理学療法について説明できるようにすること
10	呼吸不全に対する理学療法	授業内容	呼吸不全に対する理学療法について講義を行う
		予習	該当する教科書を熟読すること
		復習	呼吸不全に対する理学療法について説明できるようにすること
11	虚血性心疾患に対する理学療法	授業内容	虚血性心疾患に対する理学療法について講義を行う
		予習	該当する教科書を熟読すること
		復習	虚血性心疾患に対する理学療法について説明できるようにすること
12	心不全に対する理学療法	授業内容	心不全に対する理学療法について講義を行う
		予習	該当する教科書を熟読すること
		復習	心不全に対する理学療法について説明できるようにすること
13	大血管および末梢血管疾患に対する理学療法	授業内容	大血管および末梢血管疾患に対する理学療法について講義を行う
		予習	該当する教科書を熟読すること
		復習	大血管および末梢血管疾患に対する理学療法について説明できるようにすること

14	心大血管疾患に対する理学療法	授業内容	心大血管疾患に対する理学療法について講義を行う
		予習	該当する教科書を熟読すること
		復習	心大血管疾患に対する理学療法について説明できるようにすること
15	がんと理学療法	授業内容	がんと理学療法について講義を行う
		予習	該当する教科書を熟読すること
		復習	がんと理学療法について説明できるようにすること

評価法基準	<p>講義ごとに講義ルーブリックを提出し、講義の理解度を確認した上、期末試験結果と単元試験および小テストなどを踏まえて成績評価を行う</p> <p>講義ノート 60% 講義内容全般を適切に要約した内容がまとめられていること</p> <p>学期末筆記試験 40% 講義全般より出題し、正答率6割以上を以て合格とする</p>
教科書	<p>15 レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 内部障害理学療法学 循環・代謝 第二版 出版社 中山書店</p> <p>15 レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 内部障害理学療法学 呼吸 第三版 出版社 中山書店</p> <p>糖尿病治療ガイド 2022-2023 編 日本糖尿病学会 出版社 文光堂</p>
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・内部障害理学療法学 出版社 羊土社 ・シンプル理学療法学シリーズ 内部障害理学療法学テキスト 改訂第2版 出版社 南江堂 ・呼吸リハビリテーションマニュアル-運動療法- 第2版 編集 日本呼吸管理学会、日本呼吸器学会、日本理学療法士協会 出版社 照林社
履修上の注意	内部障害の中でも主に内科系（代謝系・呼吸器・循環器）疾患に対する理学療法学を学ぶため、事前に教科書を熟読し、内科系疾患について、各自、予習・復習を必ず実施し講義へ臨むこと
オフィスアワー	水曜（12:10-12:50）、4-1 研究室

科目名	内部障害理学療法学実習		担当教員	武井 圭一・田畑 稔	
学科	理学療法学科		学年	3 学年	
学期	後期	必修	必修	授業形態	実習
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	<p>内部障害の中でも主に内科系（代謝系・呼吸器系・循環器系）疾患による病態像と内部障害像を理解した上で、理学療法介入を行うための実践方法を習得する。</p> <p>内部障害理学療法学実習では、主に内科系疾患による障害を主とする病態への運動負荷方法とその評価についての知識と技術を深めるため、フィジカルサインのとらえ方およびそのモニタリング方法と喀痰吸引を実践することで理解を高める。</p> <p>理学療法士は、診療情報や評価指標（身体所見、臨床検査データ等）から得られたデータをよく吟味し、各病態に対して、リスク層別方法や理学療法介入方法を考察し習得する。</p>
到達目標	<p>到達目標は、チーム医療において内科系障害理学療法の臨床的位置づけと介入方法の判断することを考えることができ、対象患者へのリスク層別と運動処方を臨機応変に理学療法計画へ組み込むこと</p> <p>①フィジカルサインを正確にとらえて、正しく計測することができる</p> <p>②運動中のフィジカルサインを正確に計測することができる</p> <p>③運動負荷方法により、フィジカルサインの反応が異なることを理解できる</p> <p>④運動負荷強度と酸素摂取量、心拍数の関連性を理解できる</p> <p>⑤無酸素性代謝閾値について理解できる</p> <p>⑥肺機能検査及び経皮的酸素飽和度を理解し、正しく計測することができる</p> <p>⑦呼吸理学療法の標準的手技と喀痰吸引を理解し、模倣することができる</p> <p>⑧AED を用いた一次救命法を理解し、実施することができる</p>

No.	テーマ		内容
1	オリエンテーション・バイタルサイン測定の意義	授業内容	運動（歩行）時におけるバイタルサインとモニター心電計測定実習
		予習	シラバスと該当する教科書を予め熟読すること
		復習	運動負荷時のバイタルサイン測定の意義について説明できること
2	運動負荷に対するバイタルサイン測定実習 1	授業内容	運動負荷時のバイタルサイン測定実習（特に血圧）
		予習	該当する教科書を予め熟読すること
		復習	運動負荷に対するバイタルサインを測定する意義について説明できること
3	運動負荷に対するバイタルサイン測定実習 2	授業内容	運動（主に上肢・下肢の運動）負荷に対するバイタルサイン測定実習
		予習	該当する教科書を予め熟読すること
		復習	全身運動時の運動負荷に対するバイタルサインを測定する意義について説明できること

4	トレッドミル&自転車エルゴメーターによる運動負荷試験実習	授業内容	トレッドミル&自転車エルゴメーターによる運動負荷試験実習
	エルゴメーターによる運動負荷試験実習	予習	次回授業の範囲に相当する教科書を読んでおくこと
		復習	トレッドミル&自転車エルゴメーターによる運動負荷試験の意義や方法について説明できること
5	有酸素運動能力（酸素摂取量）測定実習	授業内容	主観的運動強度や二重積による嫌気性代謝閾値を推定する実習
		予習	該当する教科書を予め熟読すること
		復習	有酸素運動能力（酸素摂取量）測定の意義や方法について説明できること
6	主観的運動強度や二重積による嫌気性代謝閾値を推定する実習	授業内容	有酸素運動能力（嫌気性代謝閾値）測定実習
		予習	次回授業の範囲に相当する教科書を読んでおくこと
		復習	主観的運動強度や二重積による嫌気性代謝閾値を推定する意義や方法について説明できること
7	嫌気性代謝閾値前後による運動負荷時における生体反応の特徴	授業内容	嫌気性代謝閾値を超える運動負荷時における生体反応の特徴
		予習	該当する教科書を予め熟読すること
		復習	嫌気性代謝閾値前後による運動負荷時における生体反応の特徴について説明できること
8	標準 12 誘導心電図計測実習	授業内容	有酸素運動能力（嫌気性代謝閾値）測定結果より運動処方実習
		予習	該当する教科書を予め熟読すること
		復習	有酸素運動能力（嫌気性代謝閾値）測定結果より運動処方ができること
9	心電図モニタリング実習	授業内容	有酸素運動能力（嫌気性代謝閾値）測定データ解釈演習
		予習	該当する教科書を予め熟読すること
		復習	有酸素運動能力（嫌気性代謝閾値）測定データ解釈ができること
10	呼吸器疾患のフィジカルサイン実習	授業内容	呼吸器疾患のフィジカルサイン実習
		予習	該当する教科書を予め熟読すること
		復習	呼吸器疾患のフィジカルサインについての意義や方法について説明できること
11	呼吸器疾患の理学療法手技実習 1（コンディショニング）	授業内容	呼吸器疾患の理学療法手技実習 1（コンディショニング）
		予習	該当する教科書を予め熟読すること
		復習	呼吸器疾患の理学療法手技（コンディショニング）についての意義や方法について説明できること

12	呼吸器疾患の理学療法手技2（気道クリアランス）	授業内容	呼吸器疾患の理学療法手技2（気道クリアランス）
		予習	該当する教科書を予め熟読すること
		復習	呼吸器疾患の理学療法手技（気道クリアランス）についての意義や方法について説明できること
13	喀痰吸引実習	授業内容	喀痰吸引実習
		予習	該当する教科書を予め熟読すること
		復習	喀痰吸引の意義や方法について説明できること
14	AEDを用いた一次救命法実習	授業内容	AEDを用いた一次救命法実習
		予習	該当する教科書を予め熟読すること
		復習	AEDを用いた一次救命法についての意義や方法について説明できること
15	振り返り	授業内容	振り返り
		予習	当該実習を通じて疑問点を列挙すること
		復習	当該実習を通じた疑問点を解決すること

評価法基準	各講義で、講義ノートを提出し、講義の理解度を確認した上で、期末試験結果などを踏まえて成績の評価を行う。 講義ノート 60% 期末試験 40%
教科書	15 レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 内部障害理学療法学 循環・代謝 出版社 中山書店 15 レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 内部障害理学療法学 呼吸 出版社 中山書店 呼吸理学療法標準手技 千住秀明, 眞淵敏, 宮川哲夫【監修】, 石川朗, 神津玲, 高橋哲也【編】 出版社 医学書院
参考書	なし
履修上の注意	講義を理解するためには教科書を熟読して、しっかり予習、復習すること。
オフィスアワー	

科目名	小児理学療法学		担当教員	佐藤 政広	
学科	理学療法学科		学年	3 学年	
学期	後期	必修 / 選択	必修	授業形態	講義
単位数	2 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	<ul style="list-style-type: none"> 姿勢運動発達の正常性・異常性の理解を基本として、脳性麻痺を主とする中枢神経疾患児、整形外科疾患児、呼吸器疾患児等に対する実践的な理学療法の構成に必要な、臨床像、評価、治療・介入原則について講義を行う。 理学療法現場で求められる、小児在宅リハビリテーションの現況、座位保持装置等の補装具の活用、他職種との連携についても講義を行う。小児領域の理学療法士に必要な身体の使い方・自己表現の方法等身体スキルを向上させる。 毎講義後、小課題レポートを提出する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 姿勢運動発達の正常性・異常性について理解・説明が出来る。 脳性麻痺児の臨床像、評価、治療・介入原則について理解・説明が出来る。 整形外科疾患児、呼吸器疾患児などの臨床像、評価、治療・介入原則について理解・説明が出来る。 小児理学療法が必要となる多様な疾患について、理解・説明が出来る。

No.	テーマ		内容
1	小児理学療法の現場	授業内容	多様化する小児リハビリテーションの理解、現場の紹介
		予習	事前配布資料を一読しておく
		復習	講義内容と関連した小課題レポートを、講義内で作成する
2	正常発達	授業内容	正常発達ー運動・感覚・認知の協応性の理解、異常運動発達の特徴
		予習	指定する教科書の該当箇所を一読しておく
		復習	講義内容と関連した小課題レポートを、講義内で作成する
3	中枢神経疾患①	授業内容	痙直型両麻痺児の臨床像、評価、治療・介入原則
		予習	指定する教科書の該当箇所を一読しておく
		復習	講義内容と関連した小課題レポートを、講義内で作成する
4	中枢神経疾患②	授業内容	四肢麻痺児・片麻痺児、アテトーゼ型児の臨床像、評価、治療・介入原則
		予習	指定する教科書の該当箇所を一読しておく
		復習	講義内容と関連した小課題レポートを、講義内で作成する
5	中枢神経疾患③	授業内容	脳脊髄疾患児（二分脊椎・水頭症等）の臨床像、評価、治療・介入原則
		予習	指定する教科書の該当箇所を一読しておく
		復習	講義内容と関連した小課題レポートを、講義内で作成する
6	中枢神経疾患④	授業内容	重症心身障害児（医療ケア児等）の臨床像、評価、治療・介入原則
		予習	指定する教科書の該当箇所を一読しておく
		復習	講義内容と関連した小課題レポートを、講義内で作成する
7	中枢神経疾患⑤	授業内容	中途障害児（急性脳症後、頭部外傷）の臨床像、評価、治療・介入原則
		予習	指定する教科書の該当箇所を一読しておく
		復習	講義内容と関連した小課題レポートを、講義内で作成する

8	整形外科疾患	授業内容	ペルテス病、感染性股関節炎後リハビリの臨床像、評価、治療・介入原則
		予習	指定する教科書の該当箇所を一読しておく
		復習	講義内容と関連した小課題レポートを、講義内で作成する
9	発達障害	授業内容	低体重出生児・ハイリスク児の臨床像、評価、治療・介入原則
		予習	指定する教科書の該当箇所を一読しておく
		復習	講義内容と関連した小課題レポートを、講義内で作成する
10	呼吸器疾患	授業内容	慢性呼吸器疾患、排痰・ポジショニング、腹臥位療法の理解
		予習	指定する教科書の該当箇所を一読しておく
		復習	講義内容と関連した小課題レポートを、講義内で作成する
11	筋ジストロフィー症	授業内容	デュシャンヌ型筋ジストロフィー症児の臨床像、評価、治療・介入原則
		予習	指定する教科書の該当箇所を一読しておく
		復習	講義内容と関連した小課題レポートを、講義内で作成する
12	染色体異常	授業内容	奇形症候群・ダウン症児の臨床像、評価、治療・介入原則
		予習	指定する教科書の該当箇所を一読しておく
		復習	講義内容と関連した小課題レポートを、講義内で作成する
13	小児がん	授業内容	血液腫瘍疾患（白血病等）の臨床像、評価、治療・介入原則
		予習	指定する教科書の該当箇所を一読しておく
		復習	講義内容と関連した小課題レポートを、講義内で作成する
14	補装具	授業内容	車イス・座位保持装置等の姿勢補助具・移動補助具の理解・体験
		予習	指定する教科書の該当箇所を一読しておく
		復習	講義内容と関連した小課題レポートを、講義内で作成する
15	在宅リハビリテーション	授業内容	チーム医療で行う小児在宅リハビリテーションの意義の理解
		予習	指定する教科書の該当箇所を一読しておく
		復習	講義内容と関連した小課題レポートを、講義内で作成する

評価法基準	<ul style="list-style-type: none"> ・小課題レポート：40点 ・筆記試験：60点
教科書	小児理学療法学テキスト 改訂第2版、細田多穂監修、南江堂
参考書	毎回の配布資料。参考書が必要な場合、その都度提示します。
履修上の注意	なし
オフィスアワー	授業後、及びメールにて受け付ける

科目名	高齢者理学療法学	担当教員	清宮 清美		
実務経験	県庁高齢者福祉課にて県立特別養護老人ホームの設立準備に携わり、介護保険制度の始まりに合わせて県立特養における新規事業立ち上げに参画した。新たに開設した施設では、リハビリテーションの概念を取り入れて専門職の介入機会をつくり、併設の介護実習普及センターにおいて、福祉用具の紹介や研修講師など、医療から福祉へと理学療法の領域拡大に貢献した。これらの経験を活かし超高齢社会を迎えた日本において、専門職として高齢者を理解して関わることの重要性を伝えたい。				
学科	理学療法学科	学年	3 学年		
学期	前期	必修 / 選択	必修	授業形態	講義
単位数	2 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	近年の日本では高齢者の増加、高齢化問題は医療問題や社会的環境整備などについて考えていかねばならない。高齢者の特性として身体的・精神的に抱える問題を理解し、病院・施設・在宅などで展開される理学療法について総合的な知識を得て、安全に理学療法を遂行するために必要となる知識・技術、地域社会について学ぶ。また、高齢者の治療では多くの留意点を学び、地域で生きる高齢者の特性を理解し、積極的に介入することが治療効果の向上につながり、地域医療・在宅医療と QOL・ADL の向上への貢献につながる知識と技術を学習する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ① 高齢者の多種多様な経験を敬い理解して、医療技術者として接することができる。 ② 加齢に伴う身体機能・精神機能の変化について説明することができる。 ③ 高齢者を取り巻く地域医療・在宅医療の仕組みについて説明できる。 ④ 高齢者の QOL・ADL を高める理学療法を説明できる。

No.	テーマ		内容
1	オリエンテーション	授業内容	授業の目的、授業内容などについての説明
		予習	身近に感じる高齢化問題について調べておくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。
2	高齢者を取り巻く環境	授業内容	高齢者医療・福祉・保健・介護保険制度についての説明
		予習	高齢者に関する制度などの取り巻く環境について調べておくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。
3	加齢と健康	授業内容	加齢に伴う身体的・精神的な変化についての説明
		予習	高齢者に身体的な特徴について調べておくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。
4	高齢者理学療法学概論	授業内容	高齢者社会における理学療法士の役割についての説明
		予習	高齢者分野における理学療法士の役割を調べておくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。
5	高齢者に特徴的な疾患 ①	授業内容	神経疾患・高次脳機能障害についての説明
		予習	神経疾患・高次脳機能障害について調べておくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。

6	高齢者に特徴的な疾患 ②	授業内容	運動器疾患・ロコモティブシンドロームについての説明
		予習	ロコモティブシンドロームについて調べておくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。
7	高齢者の社会参加・QOL	授業内容	高齢者の社会参加・QOLについての説明
		予習	社会における高齢者の役割について調べておくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。
8	高齢者理学療法の実際	授業内容	神経疾患に関する理学療法の実際を説明
		予習	神経疾患について学んだことをまとめておくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。
9	高齢者理学療法①	授業内容	高次脳機能障害に対する理学療法の実際を説明
		予習	高次脳機能障害について学んだことをまとめておくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。
10	高齢者理学療法②	授業内容	運動器疾患に関する理学療法の実際を説明
		予習	運動器疾患について学んだことをまとめておくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。
11	高齢者理学療法③	授業内容	ロコモティブシンドロームに関する理学療法の実際を説明
		予習	ロコモティブシンドロームについて学んだことをまとめておくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。
12	高齢者理学療法④	授業内容	医療保険分野における高齢者理学療法の実際を説明
		予習	高齢者医療・保険について学んだことをまとめておくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。
13	高齢者理学療法⑤	授業内容	介護保険分野における高齢者理学療法の実際を説明
		予習	介護保険について学んだことをまとめておくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。
14	高齢者理学療法⑥	授業内容	介護予防分野における高齢者理学療法の実際を説明
		予習	高齢者福祉について学んだことをまとめておくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。
15	高齢者理学療法⑦	授業内容	高齢者の社会参加を促す理学療法の実際を説明
		予習	高齢者の活躍する場について調べておくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。

評価法基準	評価法：筆記試験 60% レポート 40% 筆記試験は、講義で培われた知識について評価する 課題レポートは、高齢者理学療法に関する理解度について評価する
教科書	シンプル理学療法学シリーズ 高齢者理学療法学テキスト 改訂第2版 南江堂
参考書	なし
履修上の注意	詳細は在校生ガイダンスおよび講義初日に伝達する。高齢者理学療法は社会的にも重要分野である。 高齢者理学療法を実践する能力を身につけることを期待する。
オフィスアワー	授業の前後で受け付ける

科目名	スポーツ理学療法実習		担当教員	森本 晃司	
学科	理学療法学科		学年	3 学年	
学期	通期	必修 / 選択	必修	授業形態	実習
単位数	2 単位	時間数	60 時間	回数	30 回

授業概要	近年では、子供から高齢者までスポーツを行っている。そのため、多くの人たちがスポーツ障害をきたしている現状がある。治療方法だけではなく、正しい体の動かし方やスポーツごとの運動特性を理解し、理学療法を学習する。より良いリハビリテーションを提供できるように、各スポーツ特有の動作によって発生するスポーツ疾患の発生メカニズムを解剖学、運動学、病理学などの知識を理解・統合して学ぶ。また、筋骨格系障害に対する理学療法の総論、各組織の治癒過程、各疾患の病態について理解を深め、治療を実践し、各疾患の病態・診断・評価・治療についてグループワークを通して発表・討論を行う。また、徒手検査・運動療法についての実技演習を通して専門知識および治療技術を実習し、臨床現場で役立つ知識や技術を習得する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 各スポーツに特有な外傷・障害を理解し、障害に対する問題点を抽出することができる 競技特性に応じたリハビリテーション計画を立案し、プログラムメニューを模倣することができる スポーツ傷害における応急処置からアスレティックリハビリテーションを進めることができる 各スポーツにおける外傷・障害の予防プログラムを作成することができる

No.	テーマ		内容
1	スポーツ理学療法とは	授業内容	メディカルリハビリテーションとアスレティックリハビリテーションとスポーツ理学療法との関係
		予習	メディカルリハビリテーションとアスレティックリハビリテーションの言葉の定義について調べて来ること
		復習	スポーツ理学療法とアスレティックリハビリテーションの関係に関して復習すること
2 3	スポーツ外傷と傷害の基礎知識	授業内容	整形外科的な基礎知識、RICE 処置、注意したい外傷の対応について
		予習	基礎医学で習得した知識を確認すること
		復習	組織の修復起点、スペシャルテストに関して実践できるようにする
4 5	頭頸部傷害の理学療法①	授業内容	頭部外傷の対応と段階的プロトコルについて 頸部の外傷・障害の対応と理学療法について
		予習	頭頸部の外傷の種類について調べておくこと
		復習	頭部外傷の発生機序
6 7	頭頸部傷害の理学療法②	授業内容	頭頸部傷害の段階的競技復帰に向けた理学療法についてグループ発表を行う
		予習	グループワークにて発表の準備を行う
		復習	受けた質問や他のグループの発表について十分に考察や再学習すること
8 9	下肢傷害の理学療法①	授業内容	代表的な下肢スポーツ傷害と理学療法の考え方
		予習	下肢の整形疾患について復習を行うこと
		復習	与えられた課題に対して、グループワークを行うこと

10 11	下肢傷害 の理学療 法②	授業内容	下肢スポーツ傷害の段階的競技復帰に向けた理学療法についてリハプログラムを立案する
		予習	グループワークにて発表の準備を行う
		復習	受けた質問や他のグループの発表について十分に考察や再学習すること
12 13	体幹/股関 節傷害の 理学療法 ①	授業内容	代表的な体幹/股関節のスポーツ傷害と理学療法の考え方
		予習	体幹の整形疾患について復習を行うこと
		復習	与えられた課題に対して、グループワークを行うこと
14 15	体幹/股関 節傷害の 理学療法 ②	授業内容	体幹/股関節のスポーツ傷害の段階的競技復帰に向けた理学療法についてグループにてリハプログラムを立案する
		予習	グループワークにて発表の準備を行う
		復習	受けた質問や他のグループの発表について十分に考察や再学習すること
16 17	上肢傷害 の理学療 法①	授業内容	代表的な上肢スポーツ傷害と理学療法の考え方
		予習	上肢の整形疾患について復習を行うこと
		復習	与えられた課題に対して、グループワークを行うこと
18 19 20	上肢傷害 の理学療 法②	授業内容	上肢スポーツ傷害の段階的競技復帰に向けた理学療法についてグループにてリハプログラムを立案する
		予習	グループワークにて発表の準備を行う
		復習	受けた質問や他のグループの発表について十分に考察や再学習すること
21 22	成長期の 傷害の理 学療法	授業内容	代表的な成長期スポーツ傷害と理学療法の考え方
		予習	成長期の身体的特徴について復習を行うこと
		復習	与えられた課題に対して、グループワークを行い、リハプログラムをまとめる
23	テーピン グⅠ	授業内容	テーピングの目的、種類、切り方、扱い方について、足関節のテーピング
		予習	テーピングの巻き方など、インターネットなどの動画で確認すること
		復習	足関節のテーピングの手順について覚えること
24 25	テーピン グⅡ	授業内容	足関節、膝関節（MCL、ACL 損傷）のテーピング
		予習	前回の授業の復習を十分に行い足関節のテーピングの手順を覚えておくこと
		復習	膝関節のテーピングの手順について復習すること
26 27	テーピン グⅢ	授業内容	足関節、膝関節（MCL、ACL 損傷）のテーピング
		予習	前回の授業の復習を十分に行い膝関節のテーピングの手順を覚えておくこと
		復習	膝関節、足関節のテーピング共に指定された時間内にできるようになること
28 29	障がい者 スポーツ における 理学療法	授業内容	障がい者スポーツにおける理学療法士の役割 各障害における理学療法の考え方とリスク管理
		予習	スポーツボランティアなど、障がい者スポーツについて復習しておく
		復習	障がい者スポーツについて、必要な知識をまとめておくこと
30	まとめ	授業内容	まとめ
		予習	これまで受講した内容についてまとめておく
		復習	この科目で受講した全内容についてまとめておく

評価法基準	<p>評価方法：レポート課題 40%、グループ発表 30%、期末テスト 30%</p> <p>基準：レポートに関しては、自分の班で発表したものを各自レポートにまとめるようにする。参考にした資料もコピーするなどし、わかりやすいようにまとめて提出すること。</p>
教科書	資料を授業ごとに配布する
参考書	スポーツ理学療法学 競技動作と治療アプローチ 陶山哲夫 監修 メディカルビュー社
履修上の注意	<p>発表の際は実際行うプログラムも模倣しながら行うようにしてください。</p> <p>動き易い格好で授業に臨むこと（ヒールの高い靴は禁止）</p> <p>触診をすることもあるので、爪もふさわしい長さに切っておくこと。</p>
オフィスアワー	<p>火曜（12:00-12:50、授業終了後）、3-17 研究室、</p> <p>木曜（12:00-12:50、授業終了後）、3-17 研究室、</p> <p>金曜（12:00-12:50、授業終了後）、3-17 研究室</p>

科目名	健康寿命の延伸		担当教員	田畑 稔、佐久間 肇、 鳥居 昭久	
学科	理学療法学科		学年	3 学年	
学期	後期	必修	必修	授業形態	演習
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	<p>我が国は、世界トップクラスの平均寿命の国でありながら、健康寿命との乖離が大きく、健康寿命を延伸させ「寿命と健康寿命の差を限りなく縮める」ことが課題である。このためには、健康増進、介護予防のための様々な活動を生活の全ての場面で取り入れることが必要である。そして、理学療法士の有する知識、技能やその役割は、障害を有する人の社会復帰に留まることなく、その原因となる疾患を予防し、多くの人が健康である社会を構築することにも役立てるべきである。健康とは世界保健機関（WHO）の健康の定義に謳っているように、身体的、精神的、社会的など人間を取り巻くあらゆる方向から考えることであり、理学療法士がどんな役割を担えるかを考える必要がある。</p> <p>この科目では、これまでに学修してきた理学療法に関わる知識、技能や、展開科目で学んだ内容をも基盤にして、多角的に健康について考え、全ての人が共生出来る社会の実現のために活躍できる能力を身に付けることを目標とする。その結果として、理学療法の範囲を超えて、健康寿命の延伸のために広く活動できる人材を育むことを目指す。</p>
到達目標	<p>①健康および健康寿命の概念について多角的に説明することができる。</p> <p>②健康寿命の延伸のための課題について多角的に説明できる。</p> <p>③健康寿命の延伸のために理学療法士ができることを説明し、企画・実践することができる。</p>

No.	テーマ		内容
1	健康寿命とは（鳥居）	授業内容	オリエンテーションおよび健康寿命延伸のための学びについて
		予習	特になし
		復習	受講した内容についてまとめておく
2	健康の概念と課題（鳥居）	授業内容	健康の概念と多角的側面から見た健康づくりのための課題（1）
		予習	前回講義内容の復習と関連語句についての下調べをする
		復習	受講した内容についてまとめておく
3	健康の概念と課題（鳥居）	授業内容	健康の概念と多角的側面から見た健康づくりのための課題（2）
		予習	前回講義内容の復習と関連語句についての下調べをする
		復習	受講した内容についてまとめておく
4	健康の概念と課題（鳥居）	授業内容	健康の概念と多角的側面から見た健康づくりのための課題（3）
		予習	前回講義内容の復習と関連語句についての下調べをする
		復習	受講した内容についてまとめておく
5	公衆衛生と健康（佐久間）	授業内容	公衆衛生学的視点からの健康寿命延伸のための課題（1）
		予習	事前に指定された語句について下調べをする
		復習	受講した内容についてまとめておく

6	公衆衛生と健康（佐久間）	授業内容	公衆衛生的視点からの健康寿命延伸のための課題（2）
		予習	前回講義内容の復習と関連語句についての下調べをする
		復習	受講した内容についてまとめておく
7	中枢神経疾患と健康（佐久間）	授業内容	中枢神経系疾患の予防と健康の維持・増進のための課題（1）
		予習	事前に指定された語句について下調べをする
		復習	受講した内容についてまとめておく
8	中枢神経疾患と健康（佐久間）	授業内容	中枢神経系疾患の予防と健康の維持・増進のための課題（2）
		予習	前回講義内容の復習と関連語句についての下調べをする
		復習	受講した内容についてまとめておく
9	生活習慣病と健康（田畑）	授業内容	生活習慣病の予防と健康の維持・増進のための課題（1）
		予習	事前に指定された語句について下調べをする
		復習	受講した内容についてまとめておく
10	生活習慣病と健康（田畑）	授業内容	生活習慣病の予防と健康の維持・増進のための課題（2）
		予習	前回講義内容の復習と関連語句についての下調べをする
		復習	受講した内容についてまとめておく
11	健康運動（田畑）	授業内容	健康運動・生活習慣病と理学療法士の役割
		予習	事前に指定された語句について下調べをする
		復習	受講した内容についてまとめておく
12	運動器疾患と健康（鳥居）	授業内容	運動器疾患の予防と健康の維持・増進のための課題（1）
		予習	事前に指定された語句について下調べをする
		復習	受講した内容についてまとめておく
13	運動器疾患と健康（鳥居）	授業内容	運動器疾患の予防と健康の維持・増進のための課題（2）
		予習	前回講義内容の復習と関連語句についての下調べをする
		復習	受講した内容についてまとめておく
14	健康運動（鳥居）	授業内容	健康運動・スポーツの実際と理学療法士の役割
		予習	事前に指定された語句について下調べをしておく
		復習	受講した内容についてまとめておく
15	振り返り（田畑）	授業内容	第1回・14回講義を振り返る（健康寿命の延伸について各自考察し、レポートを作成する）
		予習	これまで学修した内容について復習しておく
		復習	受講した内容についてまとめておく

評価法基準	演習課題（授業ノート）（30%） 期末試験（70%）
教科書	適宜、プリント配布 これまで受講した科目の中で、当該科目に関連する科目のテキストを使う場合があります。
参考書	なし
履修上の注意	事前に必要な語句などの課題を提示します。
オフィスアワー	授業の前後に受け付ける。

科目名	在宅医療・介護の推進		担当教員	清宮 清美、杉山 真理、大塚 幸永、 富田 義人、佐藤 政広	
学科	理学療法学科		学年	3 学年	
学期	後期	必修 / 選択	必修	授業形態	演習
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	<p>超高齢社会の中で、住んでいる地域社会において医療、福祉サービスを受けられる体制を整備することが重要であり、その中心となっているのが地域包括ケアシステムの導入であろう。ここでは、本人や家族の選択の上で、介護予防、介護支援、医療や看護、リハビリテーションなどの要素を組み合わせて、地域社会における多角的な支援を目指している。理学療法士は、このシステムの中で、全ての要素に関わりをもち、在宅医療や介護予防、介護支援の中心として活動すべき職種である。この科目では、これまでに学修してきた理学療法士に関わる知識、技能や、展開科目で学んだ内容をも基盤にして、在宅医療、介護予防・介護支援について総合的かつ体系的に学び、リハビリテーション専門事業だけではなく、対象者の背景や環境など多様な側面を考慮して、在宅や地域における問題を解決するために活動できる能力を身に付けることを目指す。</p>
到達目標	<p>①在宅医療や介護についての現状と課題について説明することができる。</p> <p>②地域包括ケアシステムにおける理学療法士の役割について説明することができる。</p> <p>③在宅医療や介護予防・介護支援について理学療法士の役割について説明することができる。</p>

No.	テーマ		内容
1	概要	授業内容	オリエンテーションとこの科目の意義と目的
		予習	特になし
		復習	受講内容をまとめておく
2	高齢者と在宅医療	授業内容	高齢者における在宅医療と介護支援の実際 (1)
		予習	事前に指定された関連語句について調べておく
		復習	受講内容をまとめておく
3	高齢者と在宅医療	授業内容	高齢者における在宅医療と介護支援の実際 (2)
		予習	前回講義内容の復習と関連語句について調べておく
		復習	受講内容をまとめておく
4	日常生活と介護支援	授業内容	日常生活活動に対する介護支援の課題 (1)
		予習	事前に指定された関連語句について調べておく
		復習	受講内容をまとめておく
5	日常生活と介護支援	授業内容	日常生活活動に対する介護支援の課題 (2)
		予習	前回講義内容の復習と関連語句について調べておく
		復習	受講内容をまとめておく
6	生活環境	授業内容	生活環境における在宅医療と介護支援の課題 (1)
		予習	事前に指定された関連語句について調べておく
		復習	受講内容をまとめておく

7	生活環境	授業内容	生活環境における在宅医療と介護支援の課題 (2)
		予習	前回講義内容の復習と関連語句について調べておく
		復習	受講内容をまとめておく
8	地域における理学療法	授業内容	地域における理学療法士の役割 (1)
		予習	事前に指定された関連語句について調べておく
		復習	受講内容をまとめておく
9	地域における理学療法	授業内容	地域における理学療法士の役割 (2)
		予習	前回講義内容の復習と関連語句について調べておく
		復習	受講内容をまとめておく
10	地域連携	授業内容	地域連携と包括ケアシステムにおける課題と方策 (1)
		予習	事前に指定された関連語句について調べておく
		復習	受講内容をまとめておく
11	地域連携	授業内容	地域連携と包括ケアシステムにおける課題と方策 (2)
		予習	前回講義内容の復習と関連語句について調べておく
		復習	受講内容をまとめておく
12	重度心身障害児と在宅医療	授業内容	重度心身障害児に対する在宅医療と介護支援の実際 (1)
		予習	事前に指定された関連語句について調べておく
		復習	受講内容をまとめておく
13	重度心身障害児と在宅医療	授業内容	重度心身障害児に対する在宅医療と介護支援の実際 (2)
		予習	前回講義内容の復習と関連語句について調べておく
		復習	受講内容をまとめておく
14	家族支援	授業内容	家族介護と社会的支援の総合的課題
		予習	事前に指定された関連語句について調べておく
		復習	受講内容をまとめておく
15	まとめ	授業内容	まとめ
		予習	前回までの内容を総復習しておく
		復習	この科目で学んだ内容をまとめておく

評価法基準	演習レポート (50%) 試験 (50%)
教科書	適宜必要な資料を配付する予定。 これまで受講した科目の中で、当該科目に関連する科目のテキストを使う場合があり得る。
参考書	なし
履修上の注意	関連語句の調査などの事前課題がある。
オフィスアワー	授業の前後に受け付ける

科目名	アスレティックリハビリテーション		担当教員	森本 晃司	
学科	理学療法学科		学年	3 学年	
学期	後期	必修 / 選択	選択	授業形態	演習
単位数	1 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	<p>スポーツ分野における理学療法は、単にスポーツ外傷やスポーツ障害への対応に留まらず、競技復帰に向けてのトレーニングや、再発予防のためのアプローチなどを含めて、それぞれの競技特性を考えた上での全身的な考慮が必要である。また、対象選手の体力特性やポジション、戦略などを考慮した個別のプログラムを立案、実践のための指導をする必要がある。スポーツ場面での怪我に対する治療や社会復帰までの過程をメディカルリハビリテーションと表現するのに対して、これら全面的なスポーツ競技復帰までの一連の流れをアスレティックリハビリテーション（以下アスリハ）と表現される。この科目では、スポーツ理学療法学実習やその他の関連科目で学んだ知識を背景に、競技場面を想定して、スポーツ外傷やスポーツ障害の予防、復帰のための様々なアスリハの実際、再発予防のためのトレーニングの実際などを具体的に学び、そのプログラムを立案・実践できる能力を養うことを目的とする。この科目は、演習形式を中心に進め、アスリハの基礎知識の学びに加えて、様々な競技を想定した具体的なアスリハについて検討、立案、実技を含めた発表、ディスカッションを行う。それにより知識を確実に技術に繋げ、スポーツ現場で実践できる能力を養う。</p>
到達目標	<p>①アスレティックリハビリテーションの概要について説明できる。</p> <p>②競技特性に合わせたスポーツ外傷、スポーツ障害予防のための方策を説明できる。</p> <p>③競技種目や選手特性に合わせたアスレティックリハビリテーションプログラムを立案できる。</p> <p>④アスレティックリハビリテーションプログラムの基本的実技を実践できる。</p>

No.	テーマ		内容
1	アスリハの基礎	授業内容	アスレティックリハビリテーションの基礎知識
		予習	スポーツ理学療法学実習など関連科目で学んだ知識を復習しておく
		復習	受講した内容についてまとめておく
2	アスリハの基礎	授業内容	アスレティックリハビリテーションの基礎技術～レジスタンストレーニング①～ウエイトトレーニングの基礎
		予習	指定した関連語句について事前学習をしておく
		復習	受講した内容についてまとめておく
3	アスリハの基礎	授業内容	アスレティックリハビリテーションの基礎技術～レジスタンストレーニング②～その他のレジスタンストレーニング
		予習	指定した関連語句について事前学習をしておく
		復習	受講した内容についてまとめておく
4	アスリハの基礎	授業内容	ピーキングとテーピングについて
		予習	指定した関連語句について事前学習をしておく
		復習	受講した内容についてまとめておく

5	アスリハの 基礎	授業内容	アスレティックリハビリテーションの基礎技術～SAQ トレーニング～
		予習	指定した関連語句について事前学習をしておく
		復習	受講した内容についてまとめておく
6	アスリハの 基礎	授業内容	アスレティックリハビリテーションの基礎技術～持久系トレーニング～
		予習	指定した関連語句について事前学習をしておく
		復習	受講した内容についてまとめておく
7	アスリハの 実際	授業内容	アスレティックリハビリテーションの基礎技術～動作分析と評価～
		予習	指定した関連語句について事前学習をしておく
		復習	受講した内容についてまとめておく
8	アスリハの 実際	授業内容	アスレティックリハビリテーションの実際～球技系スポーツを例に～
		予習	指定した競技についての基礎事項を調べておく
		復習	受講した内容についてまとめておく
9	アスリハの 実際	授業内容	アスレティックリハビリテーションの実際～競争系スポーツを例に～
		予習	指定した競技についての基礎事項を調べておく
		復習	受講した内容についてまとめておく
10	アスリハの 実際	授業内容	アスレティックリハビリテーションの実際～競争系スポーツを例に～
		予習	指定した競技についての基礎事項を調べておく
		復習	受講した内容についてまとめておく
11	アスリハの 実際	授業内容	競技におけるアスレティックリハビリテーションプログラムの検討・立案
		予習	事前に考えてみたい競技についての基礎事項を調べておく
		復習	関連事項の調査を加えておく
12	アスリハの 実際	授業内容	チームコンディショニングプログラムの発表①
		予習	発表の準備
		復習	聴講した他者の内容について考察レポートの作成
13	アスリハの 実際	授業内容	チームコンディショニングプログラムの発表②
		予習	発表の準備
		復習	聴講した他者の内容について考察レポートの作成
14	アスリハ実 際	授業内容	障害や競技の特性を理解したテーピングの技術を取得する
		予習	テーピングの基本的事項について復習しておく
		復習	受講した内容についてまとめておく
15	まとめ	授業内容	まとめ
		予習	これまで受講した内容についてまとめておく
		復習	この科目で受講した全内容についてまとめておく

評価法基準	レポート (60%) プログラム発表 (実技含む) (40%)
教科書	適宜資料を配付します。

参考書	スポーツ理学療法学 競技動作と治療アプローチ 陶山哲夫 監修 メディカルビュー社
履修上の注意	この科目を通して、実際のプログラム作成や実技指導ができることを目指しますので、アスレティックリハビリテーションの実際に関わる準備（服装、適切な爪の長さなど）をお願い致します。
オフィスアワー	火曜（12:00-12:50、授業終了後）、3-17 研究室 木曜（12:00-12:50、授業終了後）、3-17 研究室 金曜（12:00-12:50、授業終了後）、3-17 研究室

科目名	生活環境学	担当教員	清宮 清美		
実務経験	「障害者支援施設」で自立訓練（機能）の理学療法士としての役割を持った。障害者支援費制度が見直され障害者自立支援法が制定され、障害者総合支援法へと改革が行われ、様々な仕組みづくりに携わった。また、福祉用具の展示・相談、住宅改修含む訪問相談等に携わり、新たな領域に展開した。これらの経験を活かして、理学療法のゴール設定には生活環境を考慮することが必要であることを伝えたい。				
学科	理学療法学科	学年	3 学年		
学期	前期	必修 / 選択	必修	授業形態	講義
単位数	1 単位	時間数	15 時間	回数	8 回

授業概要	生活環境学では、地域社会における日常生活を理解し、高齢化に伴う社会変化と生活環境の変化について学ぶ。地域で生活することは、行政・保健医療を理解し、身近な問題を解決できるシステムを学修する。障害者総合支援法、介護保険法に基づいて地域活動の生活領域が拡大を見せている。在宅、通所事業、訪問事業などの目的や現状を理解し、在宅医療・介護を推進し、安心して地域で暮らす全般的なサービスの必要性を理解し、環境整備に必要となる知識を学修する。
到達目標	①地域社会における日常生活活動と社会環境を理解し、その相互性を説明できる。 ②地域社会を支える行政や各種法制度を学び、生活実態と関連付けることができる。 ③在宅における医療・保健を理解し、利用者情報に適したサービスを選択することができる。 ④種々のサービス内容と理学療法を関連付け、適用することができる。

No.	テーマ		内容
1	オリエンテーション・生活環境整備の概念	授業内容	科目の講義目的についてオリエンテーションする。 生活環境整備の概念について講義。
		予習	「地域リハビリテーション」について復習しておくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。
2	日常生活と社会環境・生活環境における行政の役割	授業内容	日常生活と社会環境、生活環境評価について講義。 生活環境における行政の役割について講義
		予習	前回の授業内容を踏まえ、次のテーマ・範囲の情報を得ておくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。
3	医療・保健・福祉と法制度	授業内容	医療・保健・福祉と法制度について講義。
		予習	前回の授業内容を踏まえ、次のテーマ・範囲の情報を得ておくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。
4	各種のサービス	授業内容	各種のサービス（事業）について講義。
		予習	前回の授業内容を踏まえ、次のテーマ・範囲の情報を得ておくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。

5	在宅医療・ 介護の推 進と理学 療法・中間 のまとめ 振り返り	授業内容	在宅医療・介護の推進と理学療法について講義。 今までの講義の振り返りを行う。
		予習	前回の授業内容を踏まえ、次のテーマ・範囲の情報を得ておくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。
6	生活環境 と車椅子・ 生活環境 と補装具	授業内容	生活環境と車椅子について講義。
		予習	前回の授業内容を踏まえ、次のテーマ・範囲の情報を得ておくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。
7	環境整備 住環境と 地域環境	授業内容	住環境、地域環境、公共交通について講義。
		予習	前回の授業内容を踏まえ、次のテーマ・範囲の情報を得ておくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。
8	環境調整 まとめ	授業内容	高齢者の転倒予防、災害時の避難所、まとめ
		予習	前回の授業内容を踏まえ、次のテーマ・範囲の情報を得ておくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。

評価法基準	定期試験 70%、レポート 25%、口頭発表 5%
教科書	標準理学療法学専門分野 日常生活活動学・生活環境学
参考書	なし 必要時には適宜情報提供する
履修上の注意	なし
オフィスアワー	授業の前後で受け付ける

科目名	地域連携学		担当教員	富田 義人	
学科	理学療法学科		学年	3 学年	
学期	前期	必修 / 選択	必修	授業形態	講義
単位数	1 単位	時間数	15 時間	回数	8 回

授業概要	地域リハビリテーションの概念を理解し、地域リハにおける理学療法士の役割を知る。在宅医療推進に必要な多職種を理解し、職種間連携の重要性と情報共有の仕方および在宅医療・介護の推進を学ぶ。利用対象者の主疾患や合併症、それによる障害は多岐に渡ること、また様々な社会背景を持ち、年齢層も違うことを理解し、障害を持って地域で生活することの課題について必要な知識・技術を整理する。その課題解決に必要な地域連携の意義を理解し、利用対象者を総合的、効率的、継続的に支援することの大切さを学ぶ。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ① 地域リハビリテーションを理解し地域理学療法を説明できる。 ② 地域連携に関連する職種を列挙し、それぞれの職種の役割を述べるができる。 ③ チームリハに必要な職種間の利用者情報を関連付けることができる。 ④ 利用者情報に適したサービスを選択し、結果を予測し説明できる。

No.	テーマ		内容
1	オリエンテーション・地域理学療法概念	授業内容	科目の講義目的についてオリエンテーションをし、地域理学療法・地域連携の概念について講義。
		予習	「地域リハビリテーション」について復習しておくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。
2	地域医療・在宅医療に関連する制度	授業内容	地域医療・在宅医療・介護の推進について講義。
		予習	前回の授業内容を踏まえ、次のテーマ・範囲の情報を得ておくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。
3	地域包括ケアシステム、情報提供・情報共有	授業内容	地域包括ケアシステム、情報提供・情報共有について講義。
		予習	前回の授業内容を踏まえ、次のテーマ・範囲の情報を得ておくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。
4	地域連携の実際	授業内容	地域連携の実際について講義。
		予習	前回までの講義内容をまとめておく。
		復習	講義で学んだことをまとめておく。
5	障害者と高齢者	授業内容	障害者と高齢者について講義。
		予習	前回の授業内容を踏まえ、次のテーマ・範囲の情報を得ておくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。

6	医療と福祉 (病院と施設)、地域 サービス	授業内容	医療と福祉 (病院と施設)、地域サービスについて講義。
		予習	前回の授業内容を踏まえ、次のテーマ・範囲の情報を得ておくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。
7	事例検討・ 演習	授業内容	事例について研究する。
		予習	前回までの講義をまとめておく。
		復習	出た意見とともに自分の考えを発展させる。
8	効果判定・ 課題	授業内容	効果判定と課題について講義。
		予習	前回の授業内容を踏まえ、次のテーマ・範囲の情報を得ておくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。

評価法基準	レポート 60%、口頭発表 40%
教科書	標準理学療法学専門分野 地域理学療法学(第4版) 医学書院
参考書	最新理学療法学講座 地域理学療法学 医歯薬出版
履修上の注意	グループディスカッションを中心に実施するため、事前学習し多くの発言を求める。 口頭発表は自ら考え、責任をもって意見を述べること。
オフィスアワー	月曜 (16:10-16:50)、3-14 研究室

科目名	地域理学療法学		担当教員	大塚 幸永	
実務経験	<p>長年、医療機関に勤務して医療保険事業・介護保険事業の業務を行ってきました。介護保険事業では、訪問や通所、施設での理学療法にもたずさわり、関係多職種との連携を経験しました。</p> <p>その経験を生かして、地域で活動する理学療法士に必要となる、制度や生活支援の知識や方法を、実際の事例などを用いながら伝えていきたいと思えます。</p>				
学科	理学療法学科		学年	3 学年	
学期	後期	必修 / 選択	必修	授業形態	講義
単位数	1 単位	時間数	15 時間	回数	8 回

授業概要	<p>リハビリテーションの変革と現在の日本の現状を把握し、保健医療の観点からの地域リハビリテーションにおける理学療法士の役割、他職種の理解と多職種連携の必要性を学び、高齢者、障がい者の生活支援に必要な知識や技術を習得する。また、地域リハビリテーションを実践する上で必要な、在宅医療・介護の推進および法律や行政との関わりを学ぶ。</p>
到達目標	<p>① 保健医療の観点から地域リハビリテーションにおける理学療法士の役割を説明できる。</p> <p>② 医療保険、介護保険の仕組みや在宅医療・介護の推進について説明できる。</p> <p>③ 地域リハビリテーションにおける他職種の理解と多職種連携の必要性を説明できる。</p> <p>④ 高齢者や障がい者の生活支援方法を提案できる。</p>

No.	テーマ		内容
1	オリエンテーション	授業内容	オリエンテーションと、地域理学療法概念について学ぶ。
		予習	本科目のシラバスを読み、授業概要を理解しておくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。
2	介護保険制度	授業内容	介護保険制度と介護保険サービスについて学ぶ。
		予習	テキスト第4章の予習をしておくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。
3	地域理学療法制度	授業内容	地域における制度と介護予防事業について学ぶ。
		予習	テキスト第1章の予習をしておくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。
4	地域理学療法展開	授業内容	地域理学療法の対象者や理学療法士の活動の場について学ぶ。
		予習	テキスト第3章の予習をしておくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。
5	リスクマネジメント	授業内容	地域理学療法のリスクマネジメントに必要な医学的管理と情報収集について学ぶ
		予習	テキスト第6章の予習をしておくこと
		復習	授業内容をまとめておくこと
6	地域理学療法実際①	授業内容	脳血管疾患や運動器疾患等の地域理学療法について学ぶ。
		予習	テキスト第4章の予習をしておくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。

7	地域理学療法 法の実際②	授業内容	神経変性疾患、がん等の地域理学療法について学ぶ。
		予習	テキスト第4章の予習をしておくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。
8	生活環境の 整備	授業内容	住宅改修や福祉用具などの生活環境の整備について学ぶ。
		予習	テキスト第2・7章の予習をしておくこと。
		復習	授業内容をまとめておくこと。
評価法基準	期末試験 70%、授業内小テスト 30%		
教科書	標準理学療法学「地域理学療法学 第5版」牧田光代、金谷さとみ・原田和宏編集 医学書院		
参考書	「ビジュアルレクチャー地域理学療法学 第3版」浅川育弥 編 医歯薬出版株式会社		
履修上の注意	自身の生活している地域や自治体のホームページや会報に目を通したり、自身や家族の生活の場や周囲の環境に目を向けたりして、理学療法士が活動する地域をイメージして授業に臨むこと。		
オフィスアワー	金曜（17:50～18:30） 3-13 研究室		

科目名	被災支援と理学療法		担当教員	丸山 嘉一	
学科	理学療法学科		学年	3 学年	
学期	前期	必修 / 選択	選択	授業形態	講義
単位数	2 単位	時間数	30 時間	回数	15 回

授業概要	東日本大震災に代表される大規模自然災害が発生した際、被災地域自治体を中心に避難所の開設や運営を行っている。この際、長期に及ぶ避難生活により、被災者においては心身の機能における様々な問題が発生する。特に、避難所において、障がいや高齢者の廃用症候群の予防策、避難所生活上の日常生活活動の適応・改善訓練などは、理学療法士が中心になって支援すべき事項である。しかし、一般の医療施設における理学療法とは異なり、被災者の状態、被災地域の実情、避難所の環境、行政システムなどを理解し、その状況に対応できる能力が求められる。そこで、この科目では、災害に対する行政の取組み、避難所などの開設や運営、災害時に発生する諸問題などについて事例を中心に学び、理学療法を有効に実施できる知識を得ることを目的とする。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 災害の特徴、人々の健康や生活に与える影響について理解し、説明できる。 2. 被災地での「健康」を取り巻く状況を理解し、説明できる。 3. 災害サイクルに伴う被災者の疾病構造、心の変化について理解し、説明できる。 4. 避難所等での生活を理解し、災害における理学療法の役割を説明できる。

No.	テーマ		内容
1	災害概論 1	授業内容	オリエンテーション、災害の定義・種類
		予習	これまで体験した災害について振り返っておくこと
		復習	授業内容をまとめておくこと
2	災害概論 2	授業内容	近年における災害と被害状況
		予習	近年の災害について自分なりに調べておくこと
		復習	授業内容をまとめておくこと
3	災害医療 1	授業内容	災害の種類別疾病構造、感染症・傷病の扱い
		予習	前回までの授業内容を振り返っておくこと
		復習	授業内容をまとめておくこと
4	災害医療 2	授業内容	国内、国際災害における疾病対応
		予習	前回までの授業内容を振り返っておくこと
		復習	授業内容をまとめておくこと
5	災害対応 1	授業内容	救護班活動とその調整 1
		予習	災害に参加する組織・団体を調べておくこと
		復習	授業内容をまとめておくこと
6	災害対応 2	授業内容	救護班活動とその調整 2
		予習	前回までの授業内容を振り返っておくこと
		復習	授業内容をまとめておくこと

7	精神保健・ 心理社会的 支援	授業内容	災害時の精神保健・心理社会的支援
		予習	災害時の「こころのケア」について調べておくこと
		復習	授業内容をまとめておくこと
8	安全管理 危機管理	授業内容	災害時の安全管理と危機管理
		予習	リスク、クライシス・マネジメントについて調べておくこと
		復習	授業内容をまとめておくこと
9	避難所等 生活支援	授業内容	避難所、仮設住宅、復興住宅での問題と理学療法の役割
		予習	コミュニティについて考えておくこと
		復習	授業内容をまとめておくこと
10	災害支援の 課題	授業内容	これからの災害支援の課題と理学療法の役割
		予習	前回までの授業内容を振り返っておくこと
		復習	授業内容をまとめておくこと
11	災害支援の 実際	授業内容	地元リハと連携、協働による脊髄損傷者の褥瘡対応
		予習	脊髄損傷および褥瘡について振り返っておくこと
		復習	講義を 200 字にまとめる
12	災害フェー ズ JRAT の役割	授業内容	今までの災害から生じた課題の把握、現在の JRAT がつくられた経緯と役割
		予習	これまで体験した災害について振り返っておくこと（講義 1 と 5 の振り返り）
		復習	授業内容をまとめておくこと
13	基本的な災 害リハビリ の考え方①	授業内容	CSCA について（避難所支援と本部活動の役割）
		予習	前回までの授業内容を振り返っておくこと
		復習	授業内容をまとめておくこと
14	基本的な災 害リハビリ の考え方②	授業内容	CSCA について（避難所支援と本部活動の役割）
		予習	前回までの授業内容を振り返っておくこと
		復習	授業内容をまとめておくこと
15	避難所運営 体験	授業内容	避難所(どこに何を設置する必要があるか考える)段ボールベッド作成・グッズの紹介
		予習	前回までの授業内容を振り返っておくこと（講義 9 の振り返り）
		復習	体験の振り返り

評価法基準	定期試験（レポート）80%、プレゼンテーション 20%
教科書	特になし
参考書	特になし
履修上の注意	<p>1. 講義のほか、グループワークを行う。</p> <p>2. 授業内容、スケジュールは学生の学習課題により調整する。</p> <p>3. 災害時における専門職としての役割を常に考えること。</p> <p>事前学習：授業前には各回の内容について調べてくる。</p> <p>事後学習：授業の復習をする。</p>
オフィスアワー	質問等は授業の前後で受け付ける

科目名	見学実習		担当教員	専任教員	
学科	理学療法学科		学年	1 学年	
学期	後期	必修 / 選択	必修	授業形態	臨地実務実習
単位数	1 単位	時間数	45 時間	回数	1 回

授業概要	<p>臨床実習施設において展開されている理学療法を臨床実習指導者と共に、診療参加型かつクリニカル・クラークシップ形式を踏まえて見学し、施設の役割や機能を理解し、理学療法士の業務を把握した上で、理学療法対象者の概要を認識して、臨床実習施設のスタッフや理学療法対象者とのコミュニケーションを図ることを学修する。また、医療従事者としての心構えや立場を深めるとともに、理学療法士としての責務を認識する。</p> <p>実施方法は、1 週間臨床実習施設へ出向き実施する。実習後、学内セミナーにて、学修内容を担当教員と振り返り、実習内容を発表し、実習内容を共有し、体験した内容をさらに深化し、自分の知識として定着する。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ① 一般的な理学療法対象者の概要を理解することができる ② 理学療法士の業務や守秘義務等の責務について理解することができる ③ 実習施設における各職種の業務や責務について理解することができる ④ 理学療法を学ぶ学生としての基本的態度・資質を養うことができる ⑤ 理学療法の見学を踏まえて、理学療法への関心を深め、学修意欲を高めることができる ⑥ 簡単な理学療法の補助業務を経験することができる

授業内容	
臨床実習施設（状況により学内）において臨床実習指導者のもとクリニカル・クラークシップ形式で見学実習を行う	
・ 第一回 オリエンテーション 施設案内 他部門見学等	
・ 第二回 理学療法部門及び診療部門他見学・体験 理学療法対象者および診療スタッフとのコミュニケーション等	
・ 第三回 理学療法部門及び診療部門他見学・体験 理学療法対象者および診療スタッフとのコミュニケーション等	
・ 第四回 理学療法部門及び診療部門他見学・体験 理学療法対象者および診療スタッフとのコミュニケーション等	
・ 第五回 理学療法部門及び診療部門他見学・体験 見学実習評価および振り返り	

評価法基準	<p>施設評価 40%（実習指導者評価より判定する）、学内発表 30%（見学実習についての理解度や表現力、受け止め方そして今後への動機づけなどをテーマとし、学内発表し、討論した結果を判定する）、実習記録 30%（実習内容を確認、また自主学修内容などより総合的に評価していく）</p> <p>施設評価・学内発表・実習記録にて総合的に評価する。これらの点数配分に関しては、学生の習熟度に応じて変更することがある。</p>
教科書	「これで解決 PT・OT・ST 臨床実習まるごとガイド」 金芳堂
参考書	「概説理学療法 第3版」有馬慶美編 文光堂
履修上の注意	1 単位の臨床実習科目となるため施設実習は一週間 40 時間以内、学内演習および自己学修を含め 45 時間を上限とする科目となる。なお、自己研鑽については、この限りではない。
オフィスアワー	質問等は授業の前後に受け付ける。

科目名	検査・測定実習		担当教員	専任教員	
学科	理学療法学科		学年	2 学年	
学期	後期	必修 / 選択	必修	授業形態	臨地実務実習
単位数	2 単位	時間数	90 時間	回数	1 回

授業概要	<p>臨床実習施設において理学療法評価として必要な基本的な検査・測定項目を挙げ、診療参加型かつクリニカル・クラークシップ形式で担当症例に対して実際に検査・測定を行う。臨床実習指導者の指導により学内で学んだ検査・測定項目を実際の臨床場面で実施する。検査・測定結果を障害に応じ解釈を行うための臨床知識を習得し、障害程度の把握ができるようになる。実施方法は2週間臨床実習施設へ出向き実施する。実習後、学内で実習内容を振り返り、実習内容の確認等について担当教員から指導を受ける。実習前に基礎理学療法評価学・基礎理学療法評価学実習に関する実技試験を、実習後に学内課題発表（知識）と実技試験（技術、態度）を実施する。</p> <p>検査・測定実習では理学療法対象者に応じた理学療法評価のために必要な検査・測定項目を挙げ、実際の理学療法対象者において検査・測定を実施し、測定値の理解をもとに障害程度の把握を行うが、理学療法治療プログラムの作成や理学療法の目標設定を行うことは求めない。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ① 理学療法対象者へ適切な検査・測定項目を挙げ、検査・測定の目的・手順を説明できる ② 臨床実習指導者の指示に従って、検査・測定を実践できる ③ 検査・測定結果を理解することができるとともに、正確に記録し報告できる ④ 提示された禁忌・注意事項や個人情報等の守秘義務を厳守できる ⑤ 理学療法対象者への配慮ならびにリスク管理を行うことができる ⑥ 臨床実習指導者のもとで、理学療法対象者、関連スタッフと良好な関係を築くことができる ⑦ 理学療法士を志す観点で行動し、適宜、臨床実習指導者へ報告・連絡・相談を行うことができる

授業内容
<p>検査・測定実習前後実技試験を行い、学生個々の臨床能力を客観的に評価し、問題点を把握するとともに、施設実習に向けた準備学習を行う。臨床実習施設において臨床実習指導者のもとクリニカル・クラークシップ形式で臨床実習を行い、検査・測定を体験し、理学療法士としての知識・技術を習得する。なお、状況により学内実施することもある。</p> <p>第1回：学内オリエンテーション、検査・測定実習前 実技試験（学内）</p> <p>第2回：検査・測定実習オリエンテーション 施設見学 理学療法部門見学等</p> <p>第3回：理学療法部門見学 担当症例紹介と評価計画の立案 基本的な検査測定の説明、模倣</p> <p>第4回：理学療法部門見学 担当症例情報収集 基本的な検査測定の説明、模倣、実施</p> <p>第5回：理学療法検査測定体験 担当症例評価計画の立案 基本的な検査測定の説明、模倣、実施</p> <p>第6回：理学療法検査測定体験 担当症例評価計画の立案と確認 基本的な検査測定の説明、模倣、実施</p> <p>第7回：理学療法検査測定体験 担当症例への理学療法検査測定実施</p> <p>第8回：理学療法検査測定体験 担当症例への理学療法検査測定実施</p> <p>第9回：担当症例への理学療法検査測定実施 検査・測定実習評価、振り返り</p> <p>第10回：検査・測定実習後 学内振り返り（学内） 学内課題発表（知識）・実技試験（技術、態度）</p>

評価法基準	施設評価 40% (実習指導者評価より判定する)、実習前・実習後実技試験 40% (客観的に臨床能力を判定する)、学内課題発表 20% (実習内容 (記録方法含む) を確認、また自己学修内容を踏まえて総合的に評価) 施設評価・実習前実技試験及び実習後学内課題発表・実技試験・実習記録にて総合的に評価する。これらの点数配分に関しては、学生の習熟度に応じて変更することがある。
教科書	各科目で使用した教科書を参考にする 「新・徒手筋力検査法第 9 版」Helen J.Hislop 著、津山直一訳 協同医書 「ベッドサイドの神経の診かた」田崎義昭他 南山堂 「理学療法評価学 改訂第 5 版」松澤正他 金原出版
参考書	「理学療法テキスト 理学療法評価学 I」石川朗 中山書店 「診察と手技がみえる 1 Vol.1」古谷伸之 メディックメディア
履修上の注意	1 単位の臨床実習科目となるため施設実習は一週間 40 時間以内、学内演習および自己学修を含め 45 時間を上限とする科目となる。なお、自己研鑽については、この限りではない。
オフィスアワー	質問等は授業の前後に受け付ける。

科目名	評価実習		担当教員	灰田 信英	
学科	理学療法学科		学年	4 学年	
学期	前期	必修 / 選択	必修	授業形態	臨地実習
単位数	8 単位	時間数	360 時間	回数	1 回

授業概要	<p>臨床実習施設において、実習指導者の指導のもとで診療参加型かつクリニカル・クラークシップ形式により理学療法評価を幅広く体験し、理学療法を行う上での問題点を探索し、プログラムの作成過程を習得する。この科目は、症例に対する評価方法の選択・実施、評価の結果に基づき問題点を抽出し、症例の障害像を把握する課程を学修する。また、理学療法士としての役割をチーム医療の観点から学ぶため、適宜、関連職種の業務体験や見学を行い、実習指導者や症例担当者による理学療法の実施場面では、学生が可能な理学療法の補助業務に積極的に担当させ、幅広く理学療法を体験することで理学療法士に求められる知識、技術を習得する。</p> <p>実習開始前と終了後に、客観的臨床能力試験（OSCE; Objective Structured Clinical Examination）を実施し、運動器・神経・内部障害理学療法学評価学および実習の習熟度を評価した上で、実習後、学内セミナーにて、学修内容を担当教員と振り返り、実習内容を発表し、討論することでさらに実習内容を深く修める。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ① 評価実習を通じて理学療法及び理学療法士の役割を理解することができる。 ② 理学療法対象者への配慮と個人情報等の守秘義務を厳守し、リスク管理を行うことができる。 ③ 理学療法対象者に対し適切な評価項目を挙げて実施することができる ④ 実施した理学療法評価から理学療法上の問題点を抽出することができる ⑤ 実施した理学療法評価より適切な理学療法目標を設定できる ⑥ 実習指導者の指導のもとで理学療法対象者に適応した理学療法プログラムを作成できる ⑦ 情報収集や理学療法評価に必要なコミュニケーションを形成し、記録と報告を行うことができる

授業内容
<p>臨床実習施設において、臨床実習指導者の指導のもとにクリニカル・クラークシップ形式に理学療法評価を体験し、以下の項目を実習する</p> <p>第 1~2 回：学内オリエンテーション 評価実習前 OSCE（学内）</p> <p>第 3~4 回：評価実習オリエンテーション 施設見学 理学療法部門他見学等</p> <p>第 5~6 回：理学療法部門見学 担当症例紹介と評価計画の立案 基本的な理学療法評価の説明、模倣、実施</p> <p>第 7~10 回：理学療法部門見学 担当症例情報収集 基本的な理学療法評価の説明、模倣、実施</p> <p>第 11~13 回：理学療法評価体験 担当症例評価計画の立案 基本的な理学療法評価の説明、模倣、実施</p> <p>第 14~16 回：理学療法評価体験 担当症例評価計画の立案と確認 基本的な理学療法評価の説明、模倣、実施</p> <p>第 17~20 回：理学療法評価体験等 担当症例等へ理学療法評価実施 担当症例初期評価、治療計画、目標作成</p> <p>第 21~25 回：理学療法評価体験等 担当症例等への理学療法補助体験 担当症例初期評価振り返り</p> <p>第 26~29 回：担当症例への理学療法再評価実施 担当症例等への理学療法補助体験</p> <p>第 30~34 回：担当症例への理学療法最終評価実施 担当症例等への理学療法補助体験</p> <p>第 35 回：評価実習評価、評価実習振り返り（実習施設内）</p> <p>第 36~40 回：評価実習後 OSCE 評価実習振り返り（学内）学内症例発表 症例検討会</p>

評価法基準	<p>実習施設の評価 40%（臨床実習指導者による評価）、実習前実習後 OSCE 40%、学内の課題発表 20%（実習課題の発表、症例検討会）</p> <p>臨床実習評価、実習報告、実習課題などを総合的に評価する。これらの点数配分に関しては、学生の習熟度に応じて変更することがある。</p>
教科書	各専門科目で使用した教科書を参考にする
参考書	<p>「理学療法士のための続症例レポートの書き方」宮原英夫（朝倉書店：ISBN978-254-33504-0）</p> <p>各専門科目で使用した教科書を参考にする</p>
履修上の注意	1 単位の臨床実習科目となるため施設実習は一週間 40 時間以内、学内演習および自己学修を含め 45 時間を上限とする科目となる。なお、自己研鑽については、この限りではない。
オフィスアワー	

科目名	総合実習		担当教員	灰田 信英	
学科	理学療法学科		学年	4 学年	
学期	前期	必修 / 選択	必修	授業形態	臨地実習
単位数	8 単位	時間数	360 時間	回数	1 回

授業概要	<p>臨床実習指導者の指導の下で診療参加型かつ臨床・クラークシップ形式により、学内で学修した理学療法評価、治療を基に理学療法対象者の評価、結果の統合と解釈、治療計画の立案と実施、記録・報告等の理学療法の一連の過程について、臨床現場で模倣しながら体験・実践する。理学療法評価から治療目標を設定し、治療プログラムを作成する。加えて基本的な治療手技を実施する。</p> <p>総合実習前と総合実習後は、OSCE（Objective Structured Clinical Examination；客観的臨床能力試験）を実施し、理学療法専門科目とその実習における総合的な習熟度を評価した上で、理学療法士として必要な知識、態度や技能について、理学療法対象者を想定しての臨床能力を客観的に確認する。総合実習では、学生が1日の実習行動計画を作成し、実習内容を実習記録へ記載した上、臨床実習指導者へ報告する。臨床実習指導は、臨床実習指導者と専任教員が連携し、適宜、必要に応じて連絡を取り合い、学生の実習状況についての情報を共有し、助言・指導を行う。</p> <p>総合実習後、学内セミナーにて、総合実習において体験・学修内容を発表し討論した上で、担当教員と振り返り理学療法の実践能力について学修内容を深める。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ① 臨床実習施設における理学療法及び理学療法士の役割を理解し行動することができる ② 理学療法対象者に対して適切な配慮と情報収集と個人情報等の守秘義務を厳守し、基本情報を基に疾患や障害の特徴、リスク管理を行うことができる ③ 臨床実習指導者の指導のもと理学療法対象者の理学療法評価計画・立案を作成することができる ④ 臨床実習指導者の指導のもと理学療法対象者の理学療法評価の結果を解釈し、国際生活機能分類（ICF）を用いて、対象者の全体像を把握し、解決すべき課題を抽出することができる ⑤ 臨床実習指導者の指導のもと理学療法対象者の理学療法目標を設定することができる ⑥ 理学療法対象者に対する理学療法評価および治療内容について適切に記録・報告することができる ⑦ 臨床実習施設における理学療法士としての管理・運営業務を理解することができる ⑧ チーム医療の一員としての理学療法士の役割を体験し理解することができる ⑨ 総合実習にて体験し学修した内容を要約としてまとめ、学内セミナーにおいて発表し討論することができる

授業内容
<p>臨床実習施設において、臨床実習指導者の指導のもとに臨床・クラークシップ形式により下記の項目を行い、基本的な理学療法を修得する。</p> <p>第1～2回：学内オリエンテーション 総合実習前 OSCE（学内）</p> <p>第3～35回：実習施設において次の項目を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 総合実習施設内オリエンテーション 施設見学 理学療法部門他見学等 ・ 理学療法部門見学 担当症例紹介と評価計画の立案 基本的な理学療法評価の説明、模倣、実施 ・ 理学療法部門見学 担当症例の情報収集 基本的な理学療法評価の説明、模倣、実施

- ・理学療法評価体験 担当症例等へ評価計画の立案 基本的な理学療法の説明、模倣、実施
- ・理学療法実施体験 担当症例等へ理学療法計画実施 基本的な理学療法の説明、模倣、実施
- ・理学療法体験等 担当症例等へ理学療法計画実施体験 基本的な理学療法の説明、模倣、実施
- ・理学療法再評価体験等 担当症例等への理学療法再評価体験 担当症例再評価・振り返り
- ・担当症例への理学療法実施 担当症例等への理学療法補助体験 他部門および他職種との連携体験
- ・担当症例への理学療法最終評価実施 担当症例等への理学療法体験 他部門および他職種との連携体験
- ・総合実習評価、総合実習振り返り（実習施設内）

第 36~40 回：総合実習後 OSCE 総合実習振り返り（学内）学内症例発表 症例検討会

評価法基準	実習先施設の評定 40%、実習前実習後 OSCE 30%、学内の課題発表 30%（実習課題の発表、症例検討会）臨床実習評価、実習報告、実習課題などを総合的に評価する。これらの点数配分に関しては、学生の習熟度に応じて変更することがある。
教科書	適宜指示する 各専門科目で使用した教科書
参考書	適宜指示する 各専門科目で使用した教科書
履修上の注意	1 単位の臨床実習科目となるため施設実習は一週間 40 時間以内、学内演習および自己学修を含め 45 時間を上限とする科目となる。なお、自己研鑽については、この限りではない。
オフィスアワー	

科目名	地域実習		担当教員	清宮 清美	
学科	理学療法学科		学年	4 学年	
学期	後期	必修 / 選択	必修	授業形態	臨地実習
単位数	1 単位	時間数	45 時間	回数	1 回

授業概要	生活期において在宅や施設に居住する地域在住の理学療法対象者における理学療法について実地見学、体験を通じて地域における理学療法評価や治療、支援方法、理学療法士として必要とされる役割や考え方、実践方法について学修する。また地域理学療法における多職種協同の必要性や地域包括ケアについても学ぶ。具体的には、健康維持・増進および介護予防事業、通所リハビリテーションや集団理学療法プログラムの体験、訪問理学療法の見学に加えて、バイタルサインチェックや施設内相談員やケアマネージャーの業務やカンファレンス見学、入所調査、相談業務の見学、地域ケア会議や多職種連携会議などへの見学や体験参加、退所前訪問の見学等から地域生活に対する知識技術の適応方法を学修する。地域実習終了後、学内セミナーにて、学修内容を担当教員と振り返り、体験や学んだ内容を発表し、学修内容を深める。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ① 地域理学療法に関連する理学療法士の役割と個人情報保護等の責務について理解できること ② 地域理学療法に関連する地域包括ケア等の各制度について理解できること ③ 健康維持・増進および介護予防事業について理解することができる ④ 生活期における在宅や施設において実施される理学療法の内容について理解できること ⑤ 地域理学療法における多職種連携の必要性を理解できること

授業内容	
第 1 回：地域実習前学内オリエンテーション（学内）	
第 2～9 回：実習施設において次の項目を実施する（各施設）	
・地域実習施設オリエンテーション 施設案内 他部門見学等	
・理学療法部門及び他部門見学・体験 理学療法対象者および施設スタッフとのコミュニケーション体験等	
・理学療法部門及び他部門他見学・体験 各種会議参加見学、訪問、介護予防事業見学体験	
・理学療法部門及び他部門他見学・体験 地域実習評価および振り返り	
第 10 回：担当教員による地域実習振り返り 学内発表会（学内）	

評価法基準	実習記録（40％） 教員との振り返り（30％） 学内発表内容（30％）
教科書・参考書	担当教員により適宜指示を行う
参考書	担当教員により適宜指示を行う

履修上の注意	1 単位の臨床実習科目となるため施設実習と学内演習および自己学修を含め 45 時間を上限とする科目となる。なお、自己研鑽については、この限りではない。
オフィスアワー	